

# 環境レポート 2018

環境にイイこと、  
プラス。



ユニ株式会社



- 1 持続可能な社会
- 2 気候変動
- 3 水と海洋資源
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等をすすめる
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任と楽しむ責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正な社会を
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう





# CONTENTS

会社概要・事業所・店舗紹介	01
環境理念・環境方針	02
ユニーとSDGsのかかわり	03
社長インタビュー	05
エコ・ファーストの約束	07
環境マネジメント	11
環境計画の概要	13



## 環境にイイこと、プラス。

### 低炭素社会

低炭素社会の構築	15	ECO FIRST 3
環境負荷	19	

### 循環型社会

廃棄物削減の取り組み	21	ECO FIRST 7
容器包装とリサイクル	23	ECO FIRST 7
食品廃棄物リサイクルシステム	27	ECO FIRST 7

### 自然共生社会

生物多様性	31	
子ども環境学習	33	ECO FIRST 2
環境教育	36	ECO FIRST 2



## 社会・地域にイイこと、プラス。

ピック・アップ・エコストア	37
店舗での取り組み	39
社会貢献・地域貢献	41
食育活動	49



## 従業員にイイこと、プラス。

働きやすい職場環境づくり	50
第三者意見	54



## 自然との調和を大切に

「未来の子ども達に美しい自然を残したい」ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めています。

## 会社概要

本社	〒453-6119 愛知県名古屋市中村区平池町四丁目60番地の12
設立	2012年2月16日*
資本金	100億円(2018年2月21日時点)
代表者	佐古 則男
事業内容	衣・食・住・余暇にわたる総合小売業のチェーンストア
売上構成	衣料品13.7%・食料品72%・住居関連品13.5%・その他0.8%(2018年2月期)
決算期	2月20日(年1回)
店舗数	1府19県下に192店舗(2018年8月20日時点)
従業員数	22,507名(2018年2月期)
営業収益	6,058億円(2018年2月期) 国際会計基準
主要取引銀行	三菱UFJ銀行、住友信託銀行
HPアドレス	http://www.uny.co.jp
主なグループ企業	(株)ファミリーマート、(株)99イチバ、(株)UCS、(株)サン総合メンテナンス、(株)サンリフォーム、(株)ネクスコム、(株)マイサポート、(株)ユニフード、UDリテール(株)

\*純粋持株会社体制移行にあたり、準備会社としてユニーグループ・ホールディングス(株)を設立した日です。  
なお、2013年2月21日付けで(旧)ユニー(株)を事業会社と持株会社(存続会社)に会社分割し、準備会社が事業会社を吸収するとともに両社の商号を入れ替えました。

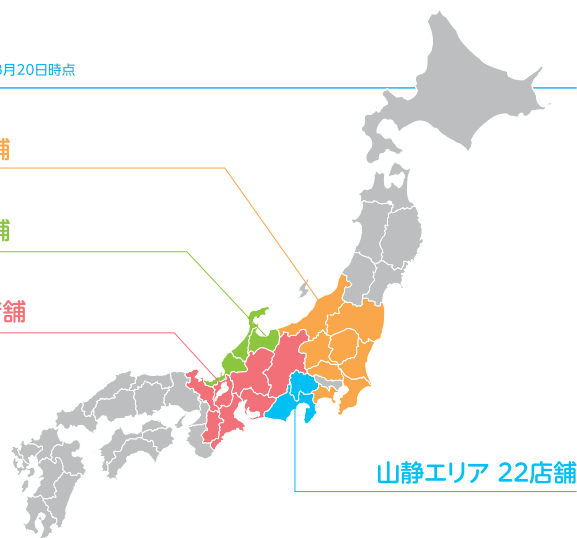
## 事業所 ※2018年8月20日時点

関東エリア 24店舗

北陸エリア 14店舗

中京エリア 132店舗

山静エリア 22店舗



## 店舗紹介

地域の中でライフスタイルを多面的にカバーする、ユニーの各業態

ユニー株式会社は、衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、関東から北陸・東海エリアに192店舗(2018年8月20日時点)を展開するチェーンストアです。その代表であるモール型ショッピングセンターをはじめ、豊かで楽しい生活提案を取り入れた「日常生活向上店」を目指すアピタ、立地やマーケット特性にあわせたミニモール型ショッピングセンターのラスパ、毎日楽しく買い物ができる「日常生活便利店」を目指すピアゴなど、地域の中でライフスタイルを多面的にカバーできるよう、さまざまなタイプの店づくりに取り組んでいます。

### モール型ショッピングセンター

数多くの専門店とエンターテイメントを兼ね備えた広域型複合ショッピングセンター

#### アピタ



「日常生活向上店」として、お客様により豊かな生活を提案する総合スーパーマーケット

#### ラスパ



日常から特別な日までお客様の生活を豊かにする、地域に根ざしたミニモール型ショッピングセンター

#### ピアゴ



「日常生活便利店」として、ファッションから食料品まで地域密着型の品揃えを提供する総合スーパーマーケット

#### ピアゴ ラフーズコア



こだわりの高品質食材を取り揃える都市型小型スーパーマーケット

対象範囲 ユニー株式会社192店舗及び本社事務所(各エリア事務所含む)  
対象読者 ユニーの各店舗をご利用いただくお客様のほか、店舗の近隣住民の方々・お取引先様・従業員など、当社にかかわる全ての皆様を対象とします。  
対象期間 2017年度(2017年2月21日～2018年2月20日)  
※一部上記対象期間以外の活動を記載しています。

# 環境理念

地球規模での環境破壊が深刻化している今日、  
低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、  
ユニーは企業活動を通して貢献します。

# 環境方針

## ユニー株式会社は

- 1 衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、環境負荷の少ない安全安心な商品及びサービスの提供と店舗開発の推進に努めます。
- 2 全従業員が環境問題に関心を持ち、環境マネジメントシステムを機能させ、運用することにより、汚染の予防及び環境保護に向けて持続的な改善に努めます。
- 3 法律、条例やエコ・ファーストの約束、地方自治体と締結した協定など、当社の遵守義務を満たし、お客様ならびに一般市民・行政機関とパートナーシップをとり、人と環境にやさしい持続可能な社会の実現に努めます。
- 4 持続可能な社会を目指した環境目標を設定し、営業活動を通じて環境パフォーマンスの向上に努めます。
  - 低炭素社会の実現のために、省エネ型店舗・サプライチェーン全体でのCO<sub>2</sub>排出量の削減を目指します。
  - 循環型社会実現のために、廃棄物削減やリサイクル推進に努めます。  
また、容器包装の削減とリサイクル及び環境負荷の少ない容器包装の使用を推進します。
  - 自然共生社会実現のために、食品リサイクルループの構築、生態系保全に配慮した商品を販売します。
  - 次世代を担う子どもたちに、持続可能な社会について学ぶ環境学習を実施します。
- 5 この環境方針を実行・維持し、また広く一般に開示して、お客様と一緒に、地域環境保全活動及び社会貢献活動を推進します。

2016年9月1日

ユニー株式会社  
代表取締役社長

佐古 則男

## 持続可能な社会を目指して

現在のことだけでなく未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。



## エコストア、ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコゴコロが地球の未来を救います。10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、ユニーと一緒に地球環境にやさしい生活をはじめませんか？

# ユニーは100年後の子ども達のためにSDGsに取り組んでいます。

地球の気温は上がり続け、各地で異常気象による災害が頻発しています。貧困や紛争で学校に行けない子ども達、古来の豊かさを失いつつある自然環境、生き物たちの絶滅スピードの加速、世界には様々な問題があります。

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals)」は、2016年1月1日に正式に発効しました。17の目標と169のターゲットがあり、先進国・開発途上国を問わず、この地球に暮らすすべての人が2030年までに取り組むことが求められています。



## ユニーのSDGsの取り組み

ユニーの重点テーマ	環境			
	持続可能な社会に貢献します			
	低炭素社会	循環型社会	自然共生社会	環境教育
ユニーの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地球温暖化防止</li> <li>●環境配慮商品開発</li> <li>●省エネルギー</li> <li>●スマートシティ</li> </ul>  <p>COOL CHOICEキャンペーン</p>  <p>バイオプラスチックの使用</p>  <p>電気自動車充電スタンド設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●廃棄物削減</li> <li>●容器包装店頭回収</li> <li>●食品リサイクル</li> </ul>  <p>Check!! 天ぷら油のアップリサイクル 全廃油</p> <p>廃棄物計量システム</p>  <p>リサイクルボックスで容器包装回収</p>  <p>食品リサイクルループを学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食品販売を通じた生物保全活動</li> <li>●陸の豊かさを守る</li> <li>●海の豊かさを守る</li> </ul>  <p>[エコやさい]収穫体験</p>  <p>モンキーセンター小動物観察</p>  <p>名古屋港水族館 ウミガメとの触れ合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども環境学習</li> <li>●出前授業</li> <li>●地域との環境教育</li> <li>●関連事業者連絡会</li> </ul>  <p>子ども環境教育</p>  <p>小学校への出前授業</p>  <p>地域との環境教育</p>
	関連するSDGs	  	  	  
関連する取り組み	▶ P15～	▶ P21～	▶ P31～	▶ P33～



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



目標には気候変動やエネルギー、生物多様性、海洋、森林など環境保護に関するものから、教育、労働、貧困、平和、公正など社会的ニーズに対応するものなど多岐にわたっています。

ユニーは小売業として「SDGs 持続可能な開発目標」達成のため、環境活動・社会貢献活動において、お客様、地域の方々、地域行政、お取引先様、従業員などが一緒になって持続可能な社会をつくることを目指し、そして、お店に皆が集う地域のコミュニケーションスペースとしての機能づくりにも取り組んでいます。



## 社会貢献

地域の皆様、企業、自治体、NPO等と一緒に社会貢献・地域貢献活動を推進します

- 被災地支援
- エシカルなお買い物
- 認知症お買い物サポーター



ドネーションで絵本を贈る



「あそぼうさい」で防災を学ぶ



認知症カフェ

## 従業員

広く社会に貢献できる人材育成を目指します

- 働きやすい職場環境
- キャリアアップ制度
- 福利厚生
- ダイバーシティ



従業員同士のレクリエーション



技能研修



ライブデザインセミナー



▶ P41～

▶ P50～

## 第1回2030アジェンダ達成に向けたG7協調行動ワークショップで講演

2017年6月にドイツ・ベルリンで開催されたG7協調行動ワークショップで、日本からはユニーの百瀬上席執行役員CSR部長[当時]が、事例発表とパネラーを務めました。SDGsの中で世界の最重要課題が12.3「食料廃棄の削減」です。飢餓で死んでゆく多くの子ども達がいる一方で、毎日たくさんの食料が捨てられています。ユニーの「食べられなかった食料を再び食料に循環させる」食品のリサイクルについて発表し、多くの共感を得ました。



ベルリンで講演をする百瀬上席執行役員CSR部長[当時]

## 第5回「食品産業もったいない大賞」農林水産大臣賞を受賞

食品廃棄物の発生抑制の成果や食品リサイクルループによる地域循環型農業の実績。更に容器包装の削減によるCO<sub>2</sub>削減など、持続可能な社会に向けて、「お買い物」を通して消費者と一緒に取り組んだことが認められたものです。



農林水産省より表彰される百瀬上席執行役員CSR部長[当時](左)

## 2018愛知環境賞 優秀賞を受賞

〈パートナーシップで繋ぐ地域循環の環〉  
地域未利用繊維素材×若者×福祉×エシカル＝リデザイン プロジェクト  
エシカルなもののづくり「リデザイン プロジェクト」が未利用の繊維素材を活用し、学生によるデザインと福祉施設でのものづくりを融合した地域社会に根ざした循環プロジェクトに取り組んだことは、環境意識の向上と地域の環境活動の推進に大きく貢献するものと評価されました。



大村愛知県知事(左)から表彰される佐古社長(中央)



## PRESIDENT INTERVIEW

社長インタビュー

ユニー株式会社  
代表取締役社長

佐古 則男

ユニーが環境への取り組みのトップランナーとして、2008年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わしてからちょうど10年。エコライフスタイルの実現に向け、その前年にスタートさせた業界初のレジ袋無料配布の中止(有料化)をはじめ「エコ・ファーストの約束」を一つひとつ着実に達成してきました。その大きな成果は、お客様、地域の方々、お取引先様、そして従業員が力を合わせて推進してきたからにほかなりません。国連サミットで採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」への取り組み、そして地域の皆様が集うコミュニケーションスペースとしての機能づくりを含め、次の10年に向けさらにチャレンジしていきます。

(インタビュー：2018年7月9日)

# エコ・ファースト企業として 10年培った成果を さらに次につなげる活動へ。

## 「信頼」を社会と結ぶ企業に

◆**花井** 業界唯一の「エコ・ファースト企業」としてスタートし、10年という節目を迎えました。まず、この10年を振り返った思いをお聞かせください。

◆**佐古** 日本の社会が成熟したとき、利益のみを追い求める会社は、その存在価値を認めていただけない。そこにはつまり「信頼」というつながりが重要視されます。小売業がお客様に、そして地域に信頼される条件として、第一は商品やサービスです。一方で、事業活動を通じて地域社会や地球環境を正しく維持・継続していくことも永続的な信頼においては非常に大切です。そうした思いが背景にありました。

◆**花井** 店舗営業によって、地域あるいは地球環境を汚してしまいかねないことにしっかりと目を向けないと、社会との「信頼」が結ばれないということですね。

◆**佐古** そして、実は最も大事なことは、一人ひとりの従業員の意識であり、その意識を高めながら取り組むことに大きな意味があると、この10年を通じて改めて実感しています。その最も端的な例が、リサイクルです。お客様から店舗に持ち込まれた空き缶やビンなどを主体的に分別する取り組みを発端に、「自分たちの行動が地球環境を守るのだ」という思いがお客様にも伝わり、リサイクルの意識が非常に高まりました。

◆**花井** 廃棄物の計量器を導入し全ての廃棄物を排出場所ごとに分別計量することで、ゴミに対する従業員の意識がさらに高まりましたね。もう一つ大きな取り組みとして、「レジ袋無料配布の中止(有料化)」があります。エコ・ファーストの前年(2007年)に、すでにスタートさせていました。

◆**佐古** 「事業主体として排出するものは、私たちが方向性を決めていかなければいけない」ということからのスタートです。ただ、このレジ袋の有料化は、来店客が減少、売り上げも一時低迷するという非常に厳しいスタートでした。しかし、思い切って踏み出したことに加え、国全体も動き始め、現在の「レジ袋有料化は当たり前」という状況になっています。

◆**花井** 今、世界的にもプラスチックゴミは非常に大きな課題の一つです。ユニーでは、レジ袋だけではなく、商品そのものにも目を向けて活動しています。

◆**佐古** 商品の包材原料はもちろん、包材素材の肉薄化など、素材そのものをいかに環境に対して悪影響の出ないものにしていけるかが、今後の大きなポイントでしょう。

## パートナーシップで築くエシカルなお買い物

◆**花井** 2018年は、2つの大きな賞をいただきました。一つは第5回「食品産業もったいない大賞」の農林水産大臣賞です。これはユニーの強みの一つ、「食品リサイクルループ」が各方面から評価されての受賞です。全店に拡大する予定で、あと1店舗というところまでできています。

◆**佐古** 「食品リサイクルループ」は、店舗からの食品残さを単に廃棄物として処理するのではなく、地域で賛同いただいている企業とともに資源として有効に使うというもの。その資源を使って育てられた畜産物や農産物を再び店頭販売するという仕組みで、現在は非常に満足のいく品質になっています。またこの活動は、「環境にやさしいお買い物を目指して実施すること」に大きな価値があり、より良いパートナーシップに賛同いただく企業様だけでなく、お客様にも理解していただくことが大切です。そのために、もっとお客様にアピールして購買につなげ、リサイクルループを維持していきたいと考えています。

◆**花井** もう一つが「2018愛知環境賞」の優秀賞。これは「リデザイン プロジェクト」の取り組みです。これもユニーだけで実現させるものではな



く、生地提供の企業、デザインを担当する学生、それを製品化する障がい者施設の方たちの協力のもと、ユニーが販売するという流れであり、もっと広く知っていただきたい取り組みですね。

◆佐古 まさにパートナーシップによる地域循環の一つの形です。何より関わっている方々の一生懸命さが本当に商品によく表れていて、回を重ねるごとにお客様のニーズに近いものが出来上がっています。こちらでも「エシカル※なお買い物」を提案できる素晴らしい商品です。

※エシカル:環境や社会に配慮していること。ユニーでは環境・社会・人にやさしい選択をすることがエシカルな暮らしに繋がると考えています。

## 「スマートシティ」の一員として

◆花井 「エコストア」も、ユニーの重要な取り組みの一つです。今年、スマートシティの一員として「アピタテラス横浜綱島」がオープンしました。

◆佐古 湘南でパナソニックと自治体を主体に、「スマートタウン構想」(環境負荷の少ないエネルギー利用の先進モデル)が進められており、我々もエコ・ファースト企業として賛同しています。街としては小さな単位ですが、多彩な異業種が住民や学生とともにエネルギー問題や環境活動に取り組むという点で、非常に有意義な事業です。

◆花井 「ユニバーサルデザイン」の考え方も反映されていますね。身障者の方やお年寄りだけでなく、誰もが快適に過ごしていただけるお店として。よりよい形になるよう、表示のわかりやすさといったハード面に加え、従業員の教育というソフト面にも取り組んでいます。

◆佐古 私たちは良かれと思っているような機能を店舗に持たせています。しかし、その機能が何かをわかってもらえなければ、宝の持ち腐れです。機能の表示にも気を配ったうえで設置を進めなければいけません。またソフト面においては、我々の理念に「買う身になって」という言葉があるように、どのお客様にも同じように快適なお買い物していただけるよう、お客様の立場になって真摯におもてなしをすることが大切だと思います。

## 「地域のコミュニティ」としての役割

◆花井 社会貢献もユニーは積極的に取り組んでいます。まず「子ども環境学習」があります。

◆佐古 スーパーマーケットは、子ども達にとって非常に身近な存在ですが、やはり「店内」がその全てと捉えています。つまり、バックヤードの見学や廃棄物の分別の仕組みなどを知ることは、子ども達にとって興味津々の学習です。子どもの時から環境への課題を認識してもらうことはとても重要で、それには「わかりやすく伝える」ことが必要不可欠。長年の実績をもとに、子どもにも伝わる活動ができてきており、全店的な広がりを見せています。また、子ども環境学習は、食育にもつながる大切なアプローチです。

◆花井 一方で、高齢者に向けた取り組みも積極的に行っています。特に力を入れているのが認知症の理解です。さまざまな啓発活動や従業員への教育を行っていますが、最近のトピックスは店舗に設置した「オレンジカフェ」。認知症の方はもちろん、そのご家族や将来に不安を抱えている方などが集まれるカフェを設置しました。現在、3店舗ですが好評です。もっと増やしていきたいですね。

◆佐古 ショッピングセンターは、ただモノやサービスを販売するだけが社会的使命ではありません。これから特に求められるのは、「地域のコミュニティ」としての役割。そのポイントは、やはり分け隔てなくお客様にお集まりいただけるかどうか。そして、笑顔になってお帰りいただけるかどうか。商品を見たり触れたりすることや店舗にあるさまざまな機能を利用していただくなかで、笑顔をどんどん広げていきたいと思っています。

## お客様の消費行動が社会を支える

◆花井 パートナーシップをもとにした募金活動「ドネーション企画」も、今後さらに進めていきたい取り組みです。今年は各地で例年以上の大災害が起こっており、被災地の方や困っている方への支援という面でも重要になってきます。

◆佐古 盲導犬育成や、地元への1円玉募金、あるいはWFPという活動をユニーとして参画しています。メーカー様とタイアップして行うドネー



代表取締役社長 佐古則男 (左) / 業務本部 CSR部長 花井彩由実 (右)



ション企画は、普段のお買い物が社会貢献に繋がる「エシカルなお買い物」になっているという点で、お客様にとっても活動意義の大きいものです。

◆花井 「お客様の消費行動を、社会を支える一因にする」ということでは、ユニーの環境配慮型PB商品「eco:lon(エコロン)」活動も、その一つです。ポイントは、お客様が手に取りたい商品をつくることです。

◆佐古 販売する以上、お客様にご納得いただく品質にすることです。ただ、それとともに、環境配慮や社会貢献の背景を明確にしてお伝えすることも重要。お客様は、やはりそこも求めておられますから。

◆花井 「商品のストーリー」ですね。生産から廃棄に至るまで、環境負荷の排除を考えて開発しています。今年は主にお菓子の包材に「水性グラビア印刷」を採用しました。水性ですから、工場で作業をされる方の健康にも配慮しています。

◆佐古 ストーリーという点では、包装資材や物流も含め、総合的に環境に配慮していることを訴えかけていくことが、お客様への納得性や認知につながっていくと思います。そのためには、視野を広くして、日本全国、あるいは世界各地から、そういうことを考えている、まだ芽は小さいけれどこんないいものつくっている、ということと協力しながらやっていくことが重要ではないかと思っています。

## 「わかりやすさ」が活動を継続させる

◆花井 今年も引き続き、国連サミットで採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」への取り組みにも力を入れます。

◆佐古 SDGsにはいろいろな取り組み項目がありますが、広く浅くよりも「今やっていることをまずしっかりと進行させる」ことが第一です。

◆花井 「12 つくる責任つかう責任」ですね。

◆佐古 進めるうえでのポイントは「わかりやすさ」。資料で出回っている単語をそのまま使うのではなくて、お客様や従業員の視点に立ち、わかりやすく伝えていく。それが良いも悪いも評価の対象になり、そこから必ず良いものが生まれていきます。

◆花井 「ISO14001」においても同じですね。これも特別なことをしているわけではなくて、日頃の業務のなかでいかに無駄な経費を抑えるか、環境にいかにして負荷を与えないか。従業員に理解が進んでおり、来期は全店展開を予定しています。

◆佐古 活動が数値化されると、より取り組む意欲がわきます。ただ数値として出にくいものもある。そこで、何とかわかりやすい単位で表現できないかと考えています。例えば、「今回の皆様の活動によって木を何本植えることができました」といったように。活動を継続していくためには、「わかりやすさ」はまさにポイントとなってきます。従業員一人ひとりが地域における店舗がどうあるべきかを考え、取り組んでいけるよう、会社としてもバックアップしていきます。こうした活動をステークホルダーに向けて発信し、地域に支持される店舗でありたいと考えています。

# エコ・ファーストの約束



ユニーは2008年に、環境への取り組みのトップランナーとして、環境大臣とエコ・ファーストの約束を交わしました。総合小売事業者として、自社での環境課題解決とともに、生産者と消費者をつなぎ「お買い物」を通して持続可能な社会実現を推進することを約束としています。特に、SDGsの目標である、食品廃棄削減とリサイクル推進や地球温暖化防止など、エコライフスタイルを提案し、推進することがユニーのエコ・ファーストです。

## エコ・ファーストの約束と環境活動

### ◆廃棄物の発生抑制と資源循環の推進



循環型社会構築のために、店舗から排出する廃棄物を削減し、さらに再生資源化を推進しました。特に、世界的な課題である食糧廃棄を削減するために、食品リサイクルループを拡大し、エコ・ファーストの約束である、再生利用等実施率80%を達成しました。また、2016年に再生利用事業者の撤退でリサイクルループを解消した福井県で、新たなパートナーとリサイクルループを構築し、国から認可されました。

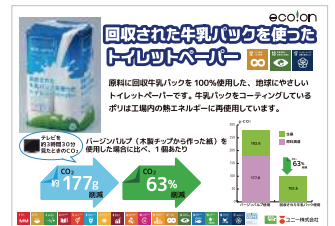


新たなパートナー福井環境事業との食品リサイクルループ

### ◆消費者の行動変革による持続可能な社会構築



ユニーの環境配慮型PB商品eco!onの環境負荷低減効果を消費者に伝え、商品選択要因のひとつにしてもらうために、需要の多い4品目のカーボンフットプリントを計測し、環境イベントで開示しました。特に「消費者が店頭回収に持参した牛乳パックを原料にしたトイレトペーパー」は、バージンパルプで製造したものに比べ、63%のCO<sub>2</sub>を削減したことで、消費者のエコライフスタイルが地球温暖化防止に有効であることを知っていただきました。



牛乳パックを再生利用したトイレトペーパー

### ◆SDGsを重点項目にした環境教育を実施



ユニーは地域に根差した小売事業者として、生産者と消費者をつなぐ、また自治体や地元NPOなど市民団体と共同で、持続可能な社会を目指した啓発活動を実施しています。2017年からは、「ひとりひとつのSDGsを目指す」を環境イベントや出前授業のテーマに、活動しました。



小学校での出前授業「お買い物でSDGs」



環境イベントエコ博で、消費者とつかったSDGsツリー

### ◆地球温暖化防止を目指したスマートシティの店舗を建設



エリア内に、工業と住宅、そして店舗を建設し、それぞれの使用電力量を曜日や時間で分け合うことで、電力ピークを抑制するなど、エリア全体で環境負荷を低減するスマートシティに、エコ店舗を開店しました。



アビタテラス横浜綱島

### ◆エコ・ファースト推進協議会活動

様々な業界から選ばれたエコ・ファースト企業が集まり、持続可能な社会を目指して活動をしています。



エコ・ファースト推進協議会総会 エコとわごコンクール

### ◆エコ・ファーストの約束の進捗状況

	2017年度目標	2017年度結果	判定	参照	
<b>1</b> 循環型社会構築を目指し、廃棄物の発生抑制と資源循環を推進します。	●食品リサイクルループを全店に拡大します。	180店舗	食品リサイクルループ参加店舗 191店舗 (192店舗中)	○	P.29
	●再生利用等実施率を2018年までに80%達成します。	80%	再生利用等実施率 80.6%	○	P.28
	●食品廃棄物発生抑制を図り、2018年までに年間売上高百万円当りの発生量32kg以下を達成します。	30kg	年間売上高百万円当り 29.9kg	○	P.28
	●2018年までにレジ袋辞退率85%達成します。	85%	辞退率 85.6%	○	P.24
	●小型家電のリサイクル回収を推進します。		小型家電回収店舗 15店舗	○	P.21
<b>2</b> 持続可能な社会構築のために、環境教育を実施します。	●子ども環境学習を全店で、年間1万人の子ども達に環境教育を実施します。	1万人	エコお店探検隊 96回 (844人参加)、出前授業 10回 (511人参加) エコラリー 105回 (2,162人参加)、小中学校見学 86回 (5,635人参加)	△	P.34
	●消費者の行動変革による持続可能な社会実現のために、店舗で5万人の消費者に環境イベントによる啓発活動を実施します。	5万人	エコ博 10回 (50,000人参加) エコフェスタ、その他 4回開催 (8,000人参加)	○	P.47~48
	●店舗での省エネ・地域での資源循環を目指し、年間3万人の従業員に環境教育を実施します。	2.5万人	ISO14001取得 147店舗 26,900人に教育実施	○	P.11~12
<b>3</b> 消費者の行動変革による、持続可能な社会を構築します。	●環境配慮商品を開発・販売し、消費者にお買い物を通してエコライフスタイルを啓発し、地球温暖化防止を推進します。		環境配慮型PB商品eco!on 人気商品4品目のカーボンフットプリントを測定し、環境イベントで消費者に啓発	○	P.07
	●環境配慮型PB商品の容器包装を見直し、バイオマスプラスチックの活用や、軽量化を図ります。		PB商品の容器包装削と水性グラビア印刷を導入 環境イベントや出前講座で消費者に啓発 PB商品の容器包装削減実施	○	P.18
	●店舗開発において、スマートシティを研究・導入を図ります。		神奈川県横浜市のスマートシティタウンに、エコストア「アビタテラス横浜綱島」を建設	○	P.37~38
	●地球温暖化防止を目指したEV・PHV普及のため、充電器を大型店舗100店舗以上に設置します。	70店舗	充電スタンド設置店舗 56店舗 77台	×	P.16





# エコ・ファーストの約束



～環境先進企業として持続可能な社会構築の取組～

2014年6月18日

環境大臣 石原 伸晃 殿

ユニー株式会社  
代表取締役社長

佐古 則男

## 「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

ユニー株式会社は、食品循環資源の再生利用等を推進すべき食品等の小売業としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、持続可能な社会構築を目指し、「お買い物」を通して消費者と一緒に地域に根ざした環境活動を推進します。

### 1 循環型社会構築を目指し、廃棄物の発生抑制と資源循環を推進します。

- 食品リサイクルを適正かつ積極的に推進します。
  - ・地域のリサイクル事業者・農業者と連携し、地産地消の取り組みとなる食品リサイクルループを2018年度までに全店舗に拡大し、再生利用等実施率80%を達成します。
  - ・食品廃棄物の発生抑制を推進し、2018年までに、年間売上高(百万円)当りの食品廃棄物発生量を32kg以下を達成します。
- 容器包装廃棄物の発生抑制の取り組みとして、2018年度までにレジ袋の辞退率85%を達成します。
- 循環小型家電のリサイクル回収を実施し、限りある資源を有効に循環させます。

### 2 持続可能な社会(低炭素社会・循環型社会・自然共生社会)構築のために、環境教育を実施します。

- 次世代を担う子ども達に対して、お買い物を通して持続可能な社会を実現するために、学び、考え、行動する環境学習を全店舗において年間1万人の子ども達に実施します。
- 消費者の行動変革により持続可能な社会を構築するために、店舗で環境イベントを開催し、年間5万人以上の消費者にエコライフスタイルを啓発します。
- 店舗での省エネ・再生資源地域循環を目指し、自社の従業員及びテナント従業員年間3万人以上に環境教育を実施し、廃棄物削減・リサイクルを推進します。
- 当社と取引のある環境関連事業者(廃棄物・リサイクル関連等)に、法令遵守・循環型社会構築のための環境教育を実施します。

### 3 消費者の行動変革による、持続可能な社会を構築します。

- 環境配慮商品やサービスを、開発・提供することにより、お買い物を通して地球温暖化防止を目指したライフスタイルを推進します。
  - ・環境配慮PB商品の容器包装を環境設計し、バイオマスプラスチック製容器包装の拡大、また20%の商品の容器包装でトップクラスのリデュースを実施します。
- 地球温暖化防止を目指し、スマートシティを研究し導入を図ります。
- 電気自動車の普及推進のために、大型ショッピングセンター100店舗以上に充電設備を設置します。



ユニー株式会社は、上記取組の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。



# エコ・ファースト アーカイブ

— 未来の子ども達に美しい自然を残したい —  
『エコ・ファーストの約束』は10年目を迎えました!

2008年4月に総合小売業で唯一エコ・ファーストの約束を環境大臣と交わし、トップランナーとして10年環境活動を推進してきました。2014年に更新した約束も2019年3月で完了し、来年は新たな約束を更新します。これからもユニーは小売事業者として、お買い物を通して消費者と生産者、そして再生利用事業者ともパートナーシップを組んで持続可能な社会構築を目指します。

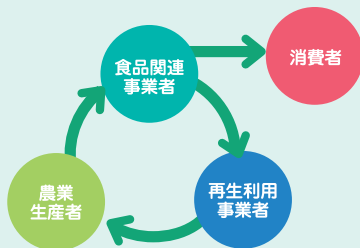
## 1 循環型社会構築を目指し、廃棄物の発生抑制と資源循環を推進します。



店舗から排出される廃棄物を、全て分別して計量することで、発生抑制とリサイクルを推進しています。また、お客様と一緒に、容器包装の使用削減・リサイクルに努めています。

### ●全店の食品残さを食品リサイクルループで資源化することを目指しました

店舗の廃棄物の1/4である食品残さを、堆肥や飼料にリサイクルして、野菜や米、豚や鶏卵を作ってもらって販売し、それをお客様に買っていただく、**食品リサイクルループ**を全店で実施し、リサイクル率80%を達成しました。



### ●容器包装廃棄物の発生抑制を図り、レジ袋辞退率85%を目標にしました

お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」使用削減に努めました。レジ袋の辞退率 85%を達成しました。

## 2008年4月 エコ・ファーストの約束を締結



エコ・ファーストの約束を閣下環境大臣と交わす



エコライフフェアに出展



2007年全国初の食品リサイクルループ認定『JAグループ・ヒラテ産業リサイクルループ』



第1回環境省食品リサイクル推進環境大臣賞 最優秀賞

### 2007年度 食品残さ

排出量 ..... 19,604t  
リサイクル量 ..... 6,656t  
リサイクル率 ..... 34.0%

### 2007年度 レジ袋

辞退率 ..... 20.6%  
使用枚数 ..... 310,559千枚  
使用重量 ..... 1,818t



2007年6月横浜市の店舗でレジ袋有料化を開始

## 2 持続可能な社会構築のために、環境教育を実施します。



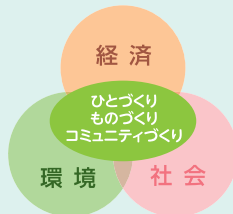
ユニーは地域に根差した小売事業者として、消費者や生産者、地域自治体、NPO、廃棄物関連事業者とパートナーシップを組み、ESDを実施しています。

### ●次世代を担う子ども達への環境学習を実施

ユニーの環境教育は、環境・経済・社会の調和を重視した、**ひとつくりものづくりコミュニティづくり**

### ●消費者と一緒に体験型環境イベント”エコ博”

スーパーの店舗には、環境や社会貢献に関心のある方、あまり関心のない方、様々なお客様が来店されます。お買い物に訪れた方たちが学べる体験型環境イベントを各地の店舗で開催しています。



### ●環境関連事業者連絡会

ユニーの廃棄物の適正処理やリサイクルなどに関わっている環境関連事業者に、法令順守や循環型社会構築について学ぶための環境教育を実施しています。



エコお店探検隊 環境にやさしいお買い物



第4回 夏休み自然探検 白川郷トヨタ自然学校



地球に優しい、体に優しい食卓エコライフ



環境関連事業者連絡会

## 3 消費者の行動変革により、持続可能な社会を構築します。



環境活動を推進しているエコストアに、徒歩や自転車、電気自動車でお買い物に行き、環境配慮商品を買うエコショッピング。そして、お買い物で地球環境や社会に貢献できるエコショップづくりに努めています。

### ●環境配慮商品のお買い物で、地球温暖化防止に貢献

ユニーの**環境配慮型PB商品ecolon**は、原料・製造・容器包装・販売・使用時・使用後といった、生産者から販売するユニー、購入するお客様、使用済みの商品や容器包装をリサイクルする再生利用事業者のつながり**バリューチェーン**で、**環境負荷を低減させた商品**です。



### ●来店方法を電気自動車にして地球温暖化防止するために充電スタンドの設置

お客様がガソリンやディーゼル自動車で来店されると、CO<sub>2</sub>やその他の排気ガスが大気を汚染します。環境負荷の少ない電気自動車を普及するために、充電スタンドを設置しています。



ecolonのタブ



第三者審査委員会



ecolon商品





## 2014年6月 エコ・ファーストの約束を更新



エコ・ファーストの約束を更新しました



エコ・ファースト推進協議会 エコとわごころ



16件(店舗所在地1府18県)で認定  
【不二産業・JA新潟みらいのリサイクルループ】



第22回食品安全安心・環境貢献賞受賞

### 2013年度 食品残さ

排出量……………18,650t  
リサイクル量……………11,099t  
リサイクル率……………59.5%  
(発生抑制を含む…69.6%)

### 2013年度 レジ袋

辞退率……………77.5%  
使用枚数……………109,528千枚  
使用重量……………821t

2014年2月全店の食品売り場で  
レジ袋無料配布を中止しました  
アピタ長津田店

## 2017年エコ・ファーストの約束達成状況



エコ・ファースト推進協議会総会



エコ・ファースト企業(中リン・ライオン)とのコラボレーション



2017年新たに認定  
【福井環境事業のリサイクルループ】



有料レジ袋はバイオポリエチレン25%含有で  
CO<sub>2</sub>を17%削減



もったいない大賞 農林大臣賞受賞

### 2017年度 食品残さ

排出量……………16,636t  
リサイクル量……………11,869t  
リサイクル率……………71.3%  
(発生抑制を含む…80.6%)

達成

### 2017年度 レジ袋

辞退率……………85.6%  
使用枚数……………68,852千枚  
使用重量……………548t

達成



エコロお店探検隊は2013年には114回  
1,070名の子ども達が参加しました。



2011年から日本モンキーセンターで  
生物多様性を学ぶサマースクール開催



体験型環境イベント エコ博は  
各地区で16回開催



廃棄物の資源循環システムなど海外から視察  
JICA



エコロお店探検隊は全店実施844名参加



地域の小学校へ出前授業  
子ども環境学習に511名参加



エコ博のテーマは  
「100年後の子どものためにSDGs」



先進環境施設見学(バイオガス発電)



ecolonを夏休みの自由研究に提案



消費者がお気に入りのecolonをプレゼン



環境負荷の小さい電気自動車普及に貢献

充電スタンド 26店舗 31台  
急速充電器 3店舗 3台設置



環境配慮商品を大学生と共同開発



電気自動車充電スタンドはCOOL CHOICE

充電スタンド 56店舗 77台  
急速充電器 4店舗 4台設置



ecolon  
マーガリヨ入の  
バターロール  
(容器包装)

CO<sub>2</sub> 約4.2g削減  
CO<sub>2</sub> 30%削減

ecolonのカーボンフットプリントを計測

エコ・ファーストの約束  
2019年3月完了!!

エコ・ファーストの約束を交わして10年、2回  
目の約束期間が完了します。2018年時点  
で、食品リサイクルをはじめ、ほとんどの項  
目が達成できています。EV・PHV充電スタ  
ンドも着々と建設していますが、達成が少し  
延びるかもしれません。

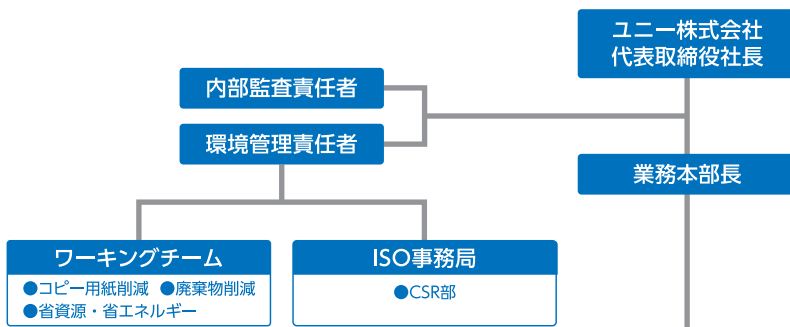
# 環境マネジメント



ユニーの環境理念に「持続可能な社会を構築するために、企業活動を通して貢献する」と明記しています。持続可能な社会とは、現在のことでだけでなく、未来に向かって地球環境を守り、人間が自然と共存し、誰もが平和で幸せに暮らせる社会です。この大きな目的を果たすために、ユニーはISO14001環境マネジメントシステムを用い、店舗や事務所の環境影響を調べて改善することに努めています。そして、お客様と一緒に「環境にやさしいお買い物」によって持続可能な社会実現を目指しています。

## 環境マネジメントシステム(EMS)の組織と活動

ユニーは営業活動の中で地球環境に対してさまざまな影響を及ぼしています。商品を生産者から仕入れ、運び、販売し、お客様に消費していただくバリューチェーンのそれぞれの過程で発生する環境に悪い影響(環境負荷)をできるだけ低減することを環境目標にしています。また、環境配慮商品の販売やエコストアの建設、容器包装の削減や廃棄物のリサイクルなど、環境をよくするための活動をさらに進めることも、環境マネジメントシステムで実践しています。このシステムは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(検証)・Action(見直し、改善)のスパイラルで環境方針を実現し、持続可能な社会構築のために持続的に改善していくものです。



### 各部門の代表的な環境目的目標

<b>業務本部</b> ●総務人事部 ●法務部 ●CSR部 ●情報システム部 ●物流部 ▶ 福沢本部移転にあたり、本部書類50%削減を目標に推進(総務人事部)。 ▶ 健康診断の活用(総務人事部)。 ▶ ITを活用した紙、使用エネルギー、労働時間の削減(情報システム部)。 ▶ 物流におけるCO <sub>2</sub> の排出量を削減(物流部)。 ▶ エコ・ファーストの約束を達成する(CSR部)。	<b>開発本部</b> ●管財部 ●建設部 ●店舗開発部 ▶ 店舗の改装に伴い、環境、お客様、地域、従業員に配慮した環境負荷の少ない設備機器導入を目指す。 ▶ 店舗改装に伴う老朽化冷ケースの入れ替え。 ▶ 既存店舗照明LED化の推進し店全体の電力量(kwh)約15%ダウンを目指す。 ▶ 新冷媒に関する社会動向調査。	<b>テナント本部</b> ●開発導入部 ●企画部 ●催事部 ▶ 専門店から排出される廃棄物の削減とリサイクルの推進。 ▶ 専門店に対し関連法令や最新技術などの学習会をとおして、法令遵守・リサイクル推進を促す。	<b>営業統括本部</b> ●管理部 ●商品・品質管理部 ●営業企画部 ●改善部 ●ECビジネス部 ▶ 店舗・行政と連動した環境負荷の低減に対する取組の推進。 ①環境啓発ポスターの掲示。 ②お客様の安全・安心に対する取組の推進(管理部)。 ▶ 不良品販売の撲滅(毎年10%削減、指標として衣・住は品質点検票、食品は不良販売報告 兼調査依頼書)(商品・品質管理部)。 ▶ 折込チラシの削減→ ①配布エリア適正化によるチラシ用紙の削減。 ②環境負荷の少ない媒体へのシフトによるチラシ用紙の削減(営業企画部)。 ▶ 理解活動を通じて改善手法の理解度を上げ、店舗小集団活動で改善手法を実践し、PDCAを回せる人材を育てる(改善部)。 ▶ ネットスーパーの利用を増やすことにより、一般消費者が排出する燃料由来のCO <sub>2</sub> を間接的に削減する(ECビジネス部)。
<b>経営企画本部</b> ●経営企画部 ●関係会社管理部	<b>衣料・住関連本部</b> (衣料担当) ●レディス部 ●メンズ部 ●インナー部 ●子供ベビー・靴服飾部 ●企画部 ▶ オーガニックコットン商品の企画・製造・販売。 ▶ 冷房・暖房への依存度を軽減する「カイテキヘア」商品の企画・製造・販売。 ▶ 在庫適正化のシステムづくり、過剰在庫削減による資源の節約。	(住関連担当) ●ヘルス&ビューティ部 ●ホームファインシング部 ●ハウスウエア&エレクトリック部 ●ホビー&ステーションアリー部 ▶ FSC認証紙使用商品の販売、及び販売を通じての森林保全をアピール。 ▶ 再生紙使用商品販売による森林木伐採の抑制。	<b>食品本部</b> ●ドライ食品部 ●鮮魚部 ●精肉部 ●青果部 ●コンセ部 ●企画部 ●プロセスセンター管理部 ▶ 店舗での食品廃棄物の発生抑制(47期対比97%目標)。 ▶ StyleONE商品・留型商品の拡販(包材削減の環境配慮商品)。
<b>関東営業部</b> ▶ 食品リサイクル率 関東営業部目標:50%。 ▶ レジ袋辞退率 関東営業部目標:70%。 ▶ リサイクルボックス設置数の向上。 ▶ エコロお店探検隊を実施(7~8月:アピタ全店)。 ▶ リサイクル工場見学を実施(8月:高崎店・前橋店)。 ▶ 充電スタンドの新規導入を推進。	<b>山静営業部</b> ▶ 「天かす」リサイクルの維持・継続。 ▶ レジ袋辞退率(年間) 山静営業部目標 80%以上の維持。 ▶ リサイクルボックス店頭回収の維持・継続(回収頻度・品目数の維持)。 ▶ 充電スタンドの新規導入を推進。	<b>北陸営業部</b> ▶ 食品残渣のリサイクル率 80%。 ▶ 福井県 福井環境でのループの実稼働。 ▶ レジ袋辞退率北陸営業部目標 86%。 ▶ リサイクルボックス回収品目の拡大(検討)。 ▶ 充電スタンドの新規導入を推進。	<b>その他営業部</b> ●北部営業部 ●尾張営業部 ●名古屋営業部 ●三河営業部 ●関西営業部 ●小型営業部 ISO活動のピアゴ店舗への拡大。

店舗 ※p12に店舗環境ISO推進体制の詳細を記載しています。



# 環境マネジメント(ISO14001)の取り組み

2004年1月に本社事務所がISO14001を認証取得し、その後関東事務所・山静事務所・北陸事務所がそれぞれ本部として認証取得しました。2008年2月、本社が各本部を統合、同年8月にはユースタを合併し組織変更・拡大を図りました。そして、2014年から店舗への認証取得を始めました。2018年7月時点では147店舗へと認証拡大しております。



本社 マネジメントレビュー会議



ピアゴフーズコア今池店 ISO審査



ピアゴ阿倉川店 ISO審査



ピアゴ久保田店 ISO審査



ピアゴ基目寺店 ISO売場内審査



ピアゴ妙興寺店 ISO売場内審査

## ◆147店舗にてISO14001を取得

ユニーでは店舗での環境活動をより推進していくためにISO14001の活動を全店へと拡大しています。2018年7月には、アピタ97店舗、ピアゴ50店舗の合計147店舗での認証取得になりました。店舗では、廃棄物削減・リサイクル推進・省エネ活動で成果をあげており、それが物の販売と共に企業の存在価値に繋がっている、と審査機関から評価されました。今後は全店舗へと認証拡大を図ってまいります。ISOの環境目標には、従業員から提案された環境側面をテーマに取り組んでいます。

## ◆店舗におけるISOの環境目標

- ① 電気使用量の削減
- ② 廃棄物の削減とリサイクルの推進
- ③ 排水水質基準の遵守
- ④ 環境関連法令の遵守
- ⑤ 営業と一体となった地域貢献活動



環境側面の特定

## ◆ISO14001推進のための社員教育

環境方針・環境目標や環境マネジメントの理解を深め環境活動を実践していくために、適用範囲の全従業員と関係する人々に教育を行いました。環境目標は、部門ごとに業務の環境影響調査を行い、環境側面を抽出して設定しました。「環境実施計画」策定について教育を実施しました。また、環境マネジメントの内部監査員養成研修を行い、認証取得者は418名になりました。



内部監査員養成合宿



本社従業員集合教育

## ◆緊急事態への対応

環境影響で重大なものに災害があります。愛知県稲沢市の本社では、2011年の東日本大震災レベルの災害が東海地方におこることを想定し、防災訓練を計画して実施しました。

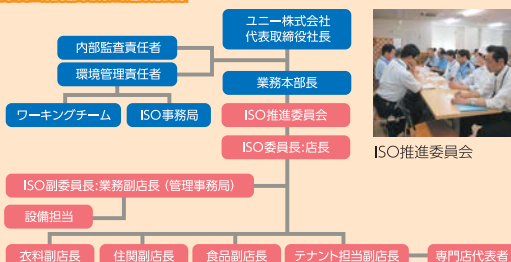


本社合同消火訓練

## ISO14001 認証取得に向けて

### 店舗環境ISO推進体制

店舗の環境ISO推進体制に基づくメンバーにより、月に1度、ISO推進委員会が開催されます。店舗で作成した環境実施計画書の具体的な数値を評価して、点検・見直しを実施し、具体的な施策を講じていきます。



ISO推進委員会

## Voice ピアゴ大和店 2018年7月ISO14001 認証取得

ピアゴ大和店は、2018年3月からISO14001の理解活動を開始しました。従業員の環境への意識が向上し、これまで推進してきた環境保全活動の精度を上げて取り組みました。その効果として、活動開始の3月から5月迄の環境目標は電気使用量の削減、廃棄物の削減、食品廃棄商品の削減の環境目標の全ての項目について大きく達成しました。



ピアゴ大和店 佐野 彰彦 店長

# 環境計画の概要

ユニーでは、エコ・ファーストの約束達成のためISO14001マネジメントシステムの範囲を拡大し、具体的な環境目標を設定しています。持続可能な社会を目指し、企業活動を通して低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現のためお客様と一緒に「環境にやさしいお買い物」を推進します。

環境方針	取り組み項目	2017年度目標
環境マネジメントシステムの構築	● ISO14001による全社における環境マネジメントシステムの構築	● エコ・ファーストの約束のフォローアップを環境大臣と行う
		● 環境マネジメントシステムの範囲を拡大し、アピタ全店舗で導入完了、さらにピアゴ店舗に拡大を図る
エコストアの実現	● 省エネ設備によるエネルギー削減	● 新店、改築店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定する
	● 環境配慮商品の販売による低炭素型ライフスタイルを提供	● 環境配慮型PB商品eco!onの容器包装の開発コンセプトの見直しを実施し、開発商品数及び売上げ拡大を図る ● 環境配慮商品のバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求する
環境負荷の低減	● 省エネへの取り組み	● CO <sub>2</sub> を原単位で1%削減する
		● 店舗エネルギー管理者に省エネ教育を実施する
	● 物流システムの見直し	● 使用エネルギーを1%削減する
		● 物流の合理化による環境負荷低減を図る ● 段ボール 2%削減
● 包装資材の使用削減	● PB商品の容器包装を見直し、包装資材の軽減化、バイオマスプラスチック製容器包装拡大を図る	
	● 包装資材 3%削減 ● レジ袋辞退率 80%目標(2018年までに85%達成を目指す)	
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	● 廃棄物排出削減	● 廃棄物排出総量 前年比 3%削減
	● 食品リサイクル推進	● リサイクルループに周辺店舗を組み入れ、規模の拡大を図る150店舗で実施 ● リサイクルループの一部見直しを行い、より有効な資源再生を行う
		● リサイクル率 65.0% ● 発生抑制 △31.9%(売上高100万円当り 30.0kg) ● 再生利用等実施率 76.0%
	● 店頭容器包装回収の推進	● リサイクルボックスの回収品目を増やす ● 全店4品目を回収する ● 食品トレイなどプラスチック製容器包装のリサイクル方法を見直し、より環境負荷の少ない、アップサイクルを目指す ● 一部店舗で透明プラ容器を回収リサイクルする
● バイオマスプラ製容器包装	● 使用品目を増やす ● 回収店頭を拡大する	
環境情報の開示と環境保全活動	● 環境情報の開示	● 環境学習DVD作成 ● 売場だけでなくHPでも環境配慮商品を紹介し、拡販する ● 店内表示に動画も使い、伝わりやすい情報提供を実施する
	● 環境保全活動	● クリーンキャンペーン全店で年2回実施
	● 環境教育、啓発活動の拡大	● 店舗の省エネ教育を実施 ● 子ども環境学習100回、農業体験10回、出前授業10回 ● エコ博を10回開催、エコフェスタを8回実施 ● 環境関連事業者連絡会セミナー開催
環境汚染防止	● 環境汚染物質の排出抑制と監視	● 全店舗での排水水質監視を実施 ● 低濃度PCBの適正管理実施 ● フロン排出抑制法対応を実施 ● 水銀汚染防止法への対応を図る



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2017年度結果	評価	2018年度目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境大臣とのフォローアップは実施されなかった</li> <li>●エコ・ファーストの約束をISO14001の実施計画に組み込み活動した</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エコ・ファーストの約束のフォローアップを環境大臣と行う</li> <li>●エコ・ファーストの約束をISO14001実施計画に組み込み活動する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たに38店舗が認証取得し、合計123店舗に範囲拡大</li> <li>●エネルギー、廃棄物排出状況、レジ袋削減、排水質管理、リサイクルなどの管理システムで目標管理を実施</li> </ul>	○	●環境マネジメントシステムの範囲を拡大する
<ul style="list-style-type: none"> <li>●照明器具にLEDを合計130店舗に設置、食品売り場の冷凍ケースに扉付き(リーチン)を導入した</li> <li>●アピタテラス横浜綱島の飲料売場に自然冷媒を用いたノンフロン冷蔵ケースを導入した</li> </ul>	○	●新店、改築店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定する
<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境配慮型PB商品ecolonの開発、販売を拡大した</li> <li>●売上高約20億円</li> </ul>	○	●環境配慮型PB商品ecolonの認知及び売上拡大を図る
<ul style="list-style-type: none"> <li>●一部商品にてCO<sub>2</sub>削減効果を算出し、お客様に訴求した</li> </ul>	○	●環境配慮型PB商品ecolonのバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求する
<ul style="list-style-type: none"> <li>●CO<sub>2</sub>原単位で2016年比 8%削減</li> </ul>	○	●CO <sub>2</sub> を原単位で1%削減する
<ul style="list-style-type: none"> <li>●全店で省エネ委員会を開催</li> </ul>	○	●店舗エネルギー管理者に省エネ教育を実施する
<ul style="list-style-type: none"> <li>●電気使用量 828,788kwh (92.4%) △7.6%</li> <li>●ガス使用量 19,772千m<sup>3</sup>(96.7%) △3.3%</li> <li>●石油使用量 5,298千ℓ (97.3%) △2.7%</li> </ul>	○	●使用エネルギーを1%削減する
<ul style="list-style-type: none"> <li>●輸送距離 2,173万km(93.5%)、エネルギー使用量原油換算 4,293kℓ(93.4%)</li> <li>●段ボール 5%削減</li> </ul>	○	●物流の合理化による環境負荷低減を図る
<ul style="list-style-type: none"> <li>●段ボール 5%削減</li> </ul>	○	●段ボール 2%削減
<ul style="list-style-type: none"> <li>●バイオマスプラスチック製容器の店頭回収、再生製品を作製した</li> </ul>	○	●PB商品の容器包装資材の軽減化を図る
<ul style="list-style-type: none"> <li>●レジ袋 548t (95.6%) ●包装紙 107t (93.0%)</li> <li>●紙袋 134t (92.4%) ●合計で前年比 △5.3%</li> </ul>	○	●包装資材 3%削減
<ul style="list-style-type: none"> <li>●全社概算・・・85.6%</li> </ul>	○	●レジ袋辞退率 85%
<ul style="list-style-type: none"> <li>●廃棄物総排出量 4.1%削減 ●廃棄物処理場、リサイクル現場を確認</li> </ul>	○	●廃棄物排出総量 前年比 3%削減
<ul style="list-style-type: none"> <li>●営業店舗所在地1府14県でリサイクルループを構築できた</li> <li>●リサイクルループ参加店舗 191店舗</li> </ul>	○	●リサイクルループ全店に拡大
<ul style="list-style-type: none"> <li>●リサイクル率 71.3%</li> <li>●発生抑制 △32.1%(2007年度比 売上高100万円当り 29.9kg)</li> <li>●再生利用等実施率 80.6%</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リサイクル率 72%</li> <li>●発生抑制 △32.5%(売上高100万円当り29.7kg)</li> <li>●再生利用等実施率 81%</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●牛乳パック 523t (98.0%) ●食品トレイ 279t (100.0%)</li> <li>●アルミ缶 671t (98.6%) ●ペットボトル 2,434t (103.5%)</li> <li>●リサイクルボックス回収実績 1.6%向上</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全店4品目を回収する</li> <li>●リサイクル回収量を増やす</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●透明プラスチック容器回収は未実施</li> </ul>	×	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●使用品目は増やせなかった</li> <li>●店頭回収を一時中断</li> </ul>	×	●バイオマスプラ製容器包装の品目拡大を検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境学習DVDは作成されなかった</li> <li>●環境配慮型PB商品ecolonなどの情報をHPにアップ</li> <li>●新店舗にデジタルサイネージを設置し環境情報を配信した</li> </ul>	△	●環境配慮型PB商品ecolonをHP等で紹介し、拡販する
<ul style="list-style-type: none"> <li>●クリーンキャンペーン全店で年2回実施</li> </ul>	○	●クリーンキャンペーン全店で年2回実施
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ISO理解活動の中で実施</li> </ul>	○	●ISOのシステムの中で環境教育を実施
<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども環境学習96回、農業体験10回、出前授業10回</li> </ul>	○	●子ども環境学習全店実施、出前授業の継続実施
<ul style="list-style-type: none"> <li>●エコ博を10回開催 ●メッセナゴヤ、EPOCに参加</li> <li>●エコフェスタ、その他4回実施</li> </ul>	○	●エコ博10回開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>●講演会、リサイクル施設見学会 2回実施</li> </ul>	○	●環境関連事業者連絡会セミナー開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>●排水水質検査全店実施、基準値以内法令遵守</li> <li>●低濃度PCBの適正管理を実施した</li> <li>●フロン漏洩検査の記録の不備が若干見られる</li> <li>●水銀汚染防止法への対応を図った</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全店舗での排水水質監視を実施</li> <li>●低濃度PCBの適正管理実施</li> <li>●フロン排出抑制法対応を実施</li> <li>●水銀汚染防止法対応を実施</li> <li>●受動喫煙防止の対応</li> </ul>

# 低炭素社会の構築

低炭素社会



2015年、地球温暖化対策の枠組み「パリ協定」が採択され、日本は2030年までに2013年度比、温室効果ガスを26%削減する目標を掲げています。ユニーでは、この目標に貢献するため低炭素型環境配慮商品や容器包装資材を採用し、消費者と共に「賢い選択」という意味の国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、推進しています。

## 地球温暖化とは

### 地球環境の現状

CO<sub>2</sub>などの温室効果ガス (GHG: Green House Gases)の増加により、地球表面から出てくる赤外線が吸収・再放出され大気中に熱が溜まり、地球温暖化が進んでいるといわれています。本来自然界で発生したCO<sub>2</sub>は、森林や海洋による吸収によりバランスが取れていたのですが、人間が化石燃料(石油や石炭、天然ガスなど)を消費するようになり、吸収しきれなくなりました。

地球温暖化は、化石燃料をエネルギーとして電気を起こしたり、自動車を走らせたり、冷暖房に使用することにより温室効果ガスを排出し、また熱を放出していることが原因といわれています。このまま地球温暖化が進むと、100年後には大気中の温室効果ガスがさらに増加し、平均気温が上昇し、多くの生き物が生存できなくなるといわれています。

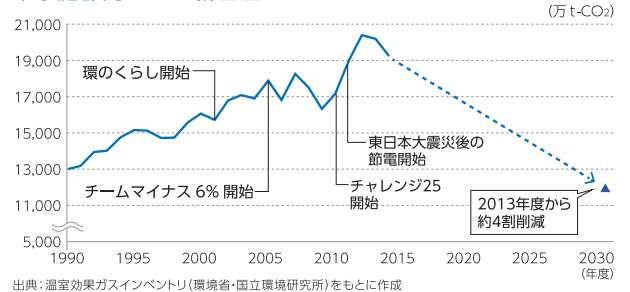
地球温暖化の一番の原因は二酸化炭素!!



### 家庭部門のCO<sub>2</sub>排出状況

国が2030年度までに目標を達成するには、家庭やオフィスから排出される民生部門の温室効果ガスを2013年度と比べて40%削減する必要がありますが、これまで行ってきた国民運動「環のくらし」「チームマイナス6%」「チャレンジ25」では効果が出ず、反対に排出量は増加していました。

#### ◆家庭部門のCO<sub>2</sub>排出量



## 国民運動 旗印はCOOL CHOICE

### ◆COOL CHOICEとは

国は地球温暖化対策を国民へ普及するために、「COOL CHOICE(クールチョイス)」活動を2015年より展開しています。COOL CHOICEは「賢い選択」という意味で、地球温暖化への危機感を共有し、一人ひとりの意識を変え、ライフスタイルを賢く選ぶことを目指しています。



ユニーは2016年5月に環境省の環境大臣がチームリーダーとして立ち上げた「COOL CHOICE推進チーム」に小売業代表として参加しています

### ◆「お買い物でCOOL CHOICE」を推進

ユニーの店舗では、お客様・地域社会・お取引先様とともに、持続可能な社会構築に向けたさまざまな環境活動を進めてきました。自社の省エネや廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進、環境配慮型PB商品eco!on販売など、企業として環境活動だけでは持続可能な社会を構築することはできません。お客様の生活をエコライフスタイルに変えていただくことが、ユニーの目指すCOOL CHOICEです。



### COOL CHOICE できるだけ1回で受け取りませんか キャンペーン～みんなで宅配便再配達防止に取り組むプロジェクト～



環境省が推進する、宅配便の再配達引き起こす環境負荷と、社会的損失を解決するため、ユニーは「COOL CHOICE できるだけ1回で受け取りませんかキャンペーン」プロジェクトに参加しています。このプロジェクトの一環として、新規にオープンしたラ フーズコア納屋橋店、アピタテラス横浜綱島においては、Packcity Japan株式会社と提携し、「宅配便受け取りサービス」を導入しました。通販市場と宅配の増加に対応し、お客様が営業時間内の受け取りたい時間に荷物を受け取ることができます。





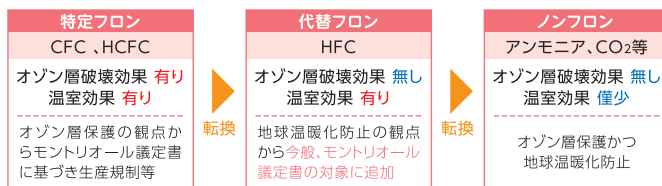
# フロン排出抑制法への対応

地球温暖化とオゾン層破壊の原因になるフロンの排出抑制を目的に、フロン排出抑制法が2015年4月1日に施行されました。業務用エアコン、冷凍冷蔵機器の管理者に、機器およびフロン類の適切な管理が義務付けられました。

## ◆ノンフロン製品への転換が迫られています

古い機器の多くに特定フロンのR22等のHCFCが使用されていますが、オゾン層保護法によって2020年の生産が廃止されます。また、2016年10月に開催されたオゾン層保護に関する条約の締約国会議でHFCの代替フロンも、オゾン層の破壊係数は低いものの、先進国は2019年から段階的に削減されます。

## ◆フロン対策の推移



## ◆ノンフロン冷蔵ケース

アピタテラス横浜綱島の飲料売場にはフロンガスを使用しないCO<sub>2</sub>冷媒を用いたノンフロン冷蔵ケースを導入しました。地球温暖化の原因物質の排出を抑える狙いがあります。



ノンフロン冷蔵ケース

## ◆フロン類算定漏えい量 (t-CO<sub>2</sub>)

フロン類の種類	R22	R404A	R410A	R134A	R407C	合計
2016年度	16,837	1,886	1,985	115	59	20,881
2017年度	14,856	3,474	2,121	2	46	20,453
前年比	88.2%	184.2%	106.9%	1.7%	78.0%	98.0%

# 低炭素社会を目指すエコストア

## ◆エコマーク小売店舗認定第1号のアピタ千代田橋店

アピタ千代田橋店は、日本環境協会が新たに認定基準を制定したエコマーク小売店舗第1号として2012年1月27日に認定されました。その後2023年までエコマーク認定期間が継続されます。ユニーは持続可能な社会を目指し、店舗で具体的に実践しています。その活動と成果がエコマーク小売店舗の認定基準に達していると認定されたのです。

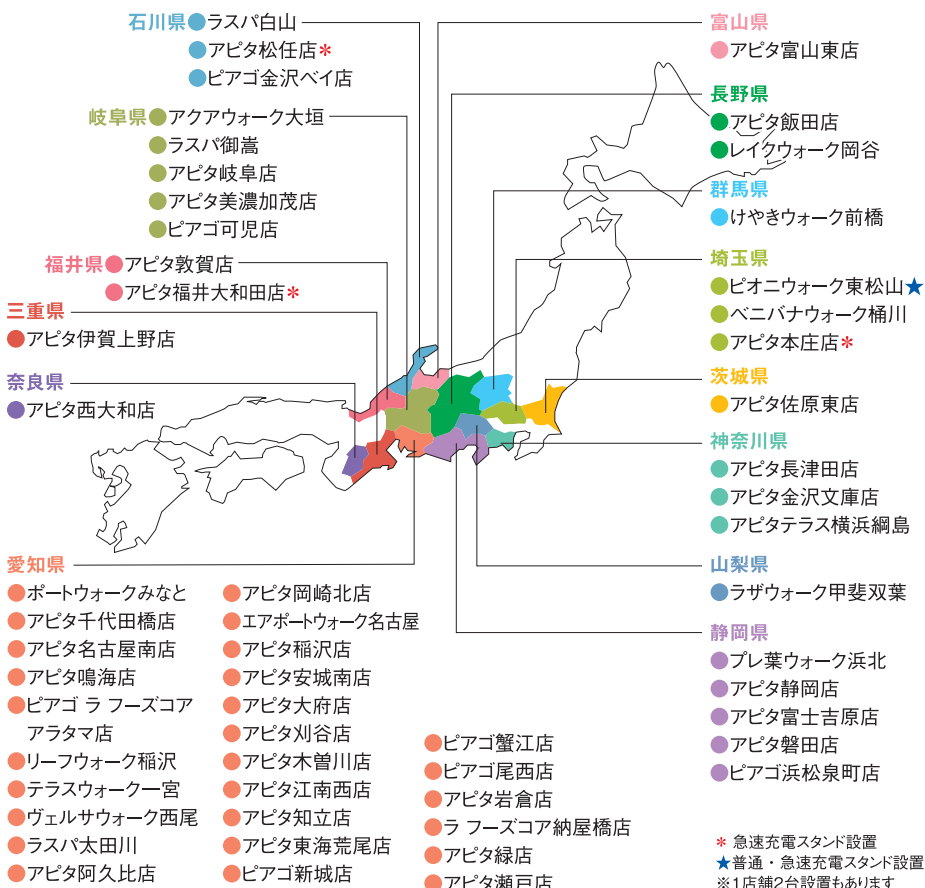


エコマーク認定証

# 電気自動車の充電スタンドを設置

ユニーの大型店舗やモールには1,000台以上の駐車場があります。お客様が自動車で来店されると、CO<sub>2</sub>やその他の排気ガスが排出されます。そこで、環境にやさしい来店方法として電気自動車を使っただけのために、充電スタンドの設置を推進しています。お客様がお買い物中に充電していただくことができ、遠方からも安心して来ていただけます。ユニーでは、2018年7月時点で、充電スタンド設置店舗数は56店舗、普通充電スタンド77台、急速充電スタンド4台です。また充電スタンド本体に、日本政府が推進する国民運動「COOL CHOICE」の旗印となるロゴマークを掲示して利用を促しています。

## ◆電気自動車充電スタンド設置店舗



EV・PHVの本格的な普及に向けて、関係事業主体が協働してモデル事業を推進することを目的としている「あいちEV・PHV普及ネットワーク」にユニーは、平成21年の設立時から構成員として参加し、モデル事業を推進しています。

愛知県EV・PHVタウン事業



アピタ緑店 充電スタンド

\* 急速充電スタンド設置  
★ 普通・急速充電スタンド設置  
※ 1店舗2台設置もあります

## 環境配慮型PB商品eco!on



### ◆環境に配慮したオリジナル商品「eco!on」(エコオン)

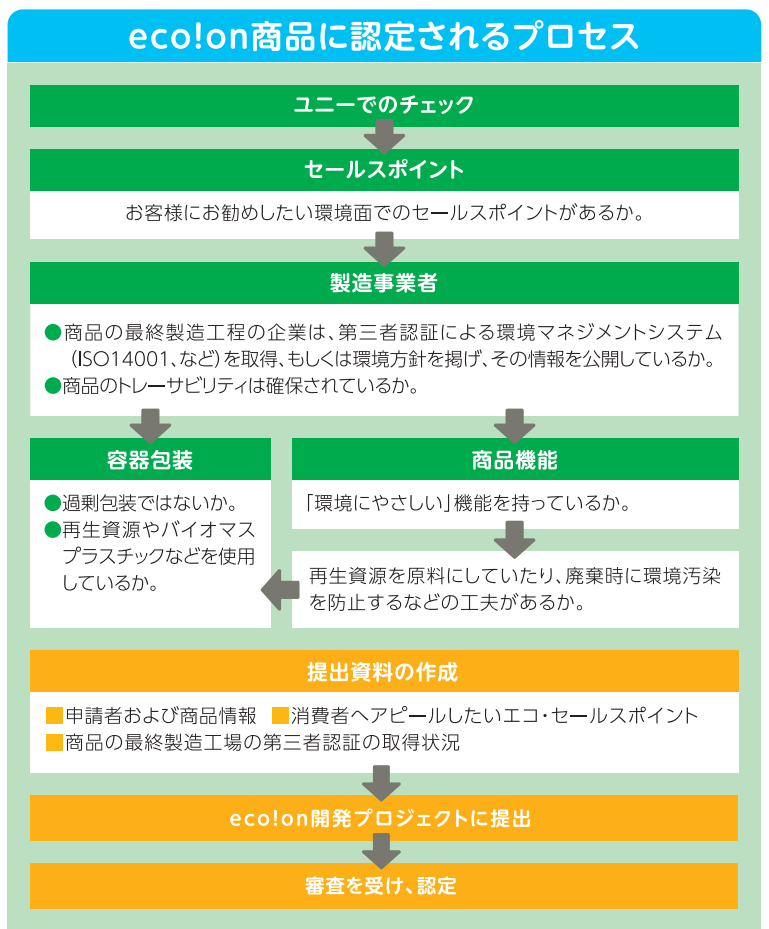
私達の普段の生活を省エネ・省資源、3Rといったエコライフスタイルにすれば、持続可能な社会構築に貢献できます。お買い物は価格やデザインだけでなく「環境にやさしい」という視点で商品を選ぶことも、エコライフスタイルにつながります。ユニーでは原料や製造過程、容器包装、使用時の省エネ・節水、使用後の再資源化など「環境にやさしい」商品を開発・販売しています。ユニーのPB(プライベートブランド)商品で、特に環境に配慮したeco!on(エコオン)は、商品開発担当者の申請書と添付資料をもとに、環境配慮商品としてお客様に提供できる商品であることを審査して決まります。



### ◆eco!onの考え方

環境配慮商品とは、原料・製造・容器包装・販売・使用時・使用後といった生産者から販売者、購入者、再生利用事業者などの「バリューチェーン」で環境負荷を低減させた商品といえます。ユニーの環境配慮型PB商品eco!onは、こうした環境負荷の少ない安全・安心な商品として開発・販売しています。商品を購入していただくことで、お客様の健康で快適なエコライフを支援し持続可能な社会構築を、生産者やお客様と一緒に推進していくことを目的としています。

- 1 お客様と一緒に育てていく環境配慮型商品です
- 2 ユニーが定める品質基準を満たしています
- 3 ユニーが定める環境に配慮した生産条件を満たしています
- 4 ecolon開発プロジェクトで審査し、専門家の意見をうかがっています



## 12 バリューチェーンにおけるSDGsマッピング

環境配慮型PB商品eco!on「牛乳パックをリサイクルしたトイレットペーパー」を原料供給、生産などのバリューチェーンにおいてSDGsマッピングを行い影響領域を特定しました。



## 4 環境学習で学ぶ環境配慮型PB商品eco!on

環境配慮型PB商品eco!onは購入していただいて初めて地球環境に貢献できます。ユニーでは環境配慮型PB商品eco!onを知って購入していただくために、さまざまなイベントや展示、環境学習を行っています。また小学生が店舗見学で使用する「環境学習ワークシート」には、環境配慮型PB商品だけでなく、エコマークやバイオマスマークなどの環境ラベルについて紹介し、売り場でラベルを探す体験も行っています。



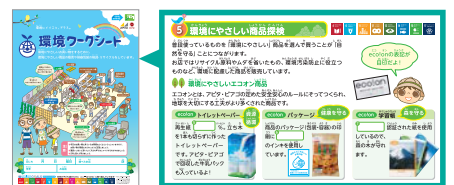
小学校への出前講座でeco!onをPR



環境イベントでeco!onを紹介



夏休み自由研究応援隊で展示



環境ワークシート表紙



今後ますます地球温暖化などが進んでいくと考えられます。これらの問題に対して、私たちが日々のお買い物を通して、環境に配慮した商品を選ぶという事が、これから近い未来、スタンダードになっていくことを期待します。

ユニーでは2018年1月より環境配慮型PB商品eco!onの容器包装印刷に水性グラビア印刷を採用しました。従来の油性グラビア印刷と比べて工場で使用する有機溶剤が大幅に削減でき、環境に優しい他、労働環境の改善や、中身の香り・品質の維持にも貢献するものです。2020年までに400アイテムを順次変更していくことを目指しています。



水性印刷商品  
認証マーク



## 人と環境と食品にやさしい「水性インキ」



エコ博で消費者に  
水性印刷をPRする

現在お店で売っている殆どの食品の袋の印刷は油性インキです。油性インキには人の身体と大気にも悪い影響を与える化学物質(VOC)が含まれています。そこでユニーの菓子や一般食品などの商品は「水性インキ」で印刷をするにしました。「水性インキ」を使用することにより、印刷工場働く人たちの健康によく、大気汚染を防ぐので夏の光化学スモッグ発生を防ぎ、袋の中の食品にもインキなどの臭いの影響を与えません。東京都は光化学スモッグ警報の出ないきれいな空の下で「東京オリンピック」を迎えようと(VOC)の抑制に努力しています。



富士特殊紙業株式会社  
会長 杉山 仁朗さん

eco!onの食品商品では、節水や水を汚さない、洗わなくても良い無洗米や、容器包装重量を削減したバターロールや食パンなど、様々な角度から「エコ」をキーワードにした商品があります。食品自体をエコ(オーガニック)に変えていくことはなかなか難しい事なのです。しかし、パッケージをエコに変えることならできると考えています。今回の「水性グラビア印刷」がまさにエコパッケージなのです。これからプライベート商品(スタイルワン、プライムワン)のパッケージをこの「水性グラビア印刷」に変えていきたいと考えています。



食品本部企画部  
部長 布施 正

## 環境配慮型PB商品eco!on



## 牛乳パックをリサイクルしたトイレットペーパーを開発

店頭で回収した容器包装(牛乳パック)をリサイクルして商品を開発、再度お客様に提供するということが重要だと考え商品を販売し続けています。この商品は、お客様、サプライヤー様とユニーがパートナーシップをとる事でこそ開発できる物だと考えています。

お店では子ども達から「パッケージが牛乳パックのようで面白い」と評判も上々です。



衣料・住開本部  
ヘルス&ビューティ部  
チーフバイヤー  
望月 浩貴



## 食品リサイクルループで出来た堆肥を商品化しました

当社は、リサイクルの食品残さで作ったエコ堆肥があるので何とかこの堆肥で環境にやさしい栽培セットと園芸培養土ができないかと想い開発しました。その結果eco!on認証も取れ有機物たっぷりの完全なオリジナルの商品ができました。この商品を販売することで消費者に求めている安全安心を形にして届けることができます。今後も園芸ファン人口を増やす為に花育になるようなイベントや商品を積極的に開発していきます。



培養土



食品本部青果部  
チーフバイヤー  
東上 敦

# 環境負荷

低炭素社会



地球温暖化・大気汚染の問題が深刻化する中、温室効果ガスの主な部分を占めるCO<sub>2</sub>の大気中濃度は年々上昇しており、その排出量の削減は、事業活動（事業所の維持・商品の輸送など）をしている企業にとって、責務であり急務であります。ユニーは地球環境にマイナスの影響を及ぼす環境負荷をできるだけ出さないよう、持続的に軽減していくよう、その原因を調べ対策を考え行動していくことを、従業員や関係者がそれぞれの役割の中で実践しています。

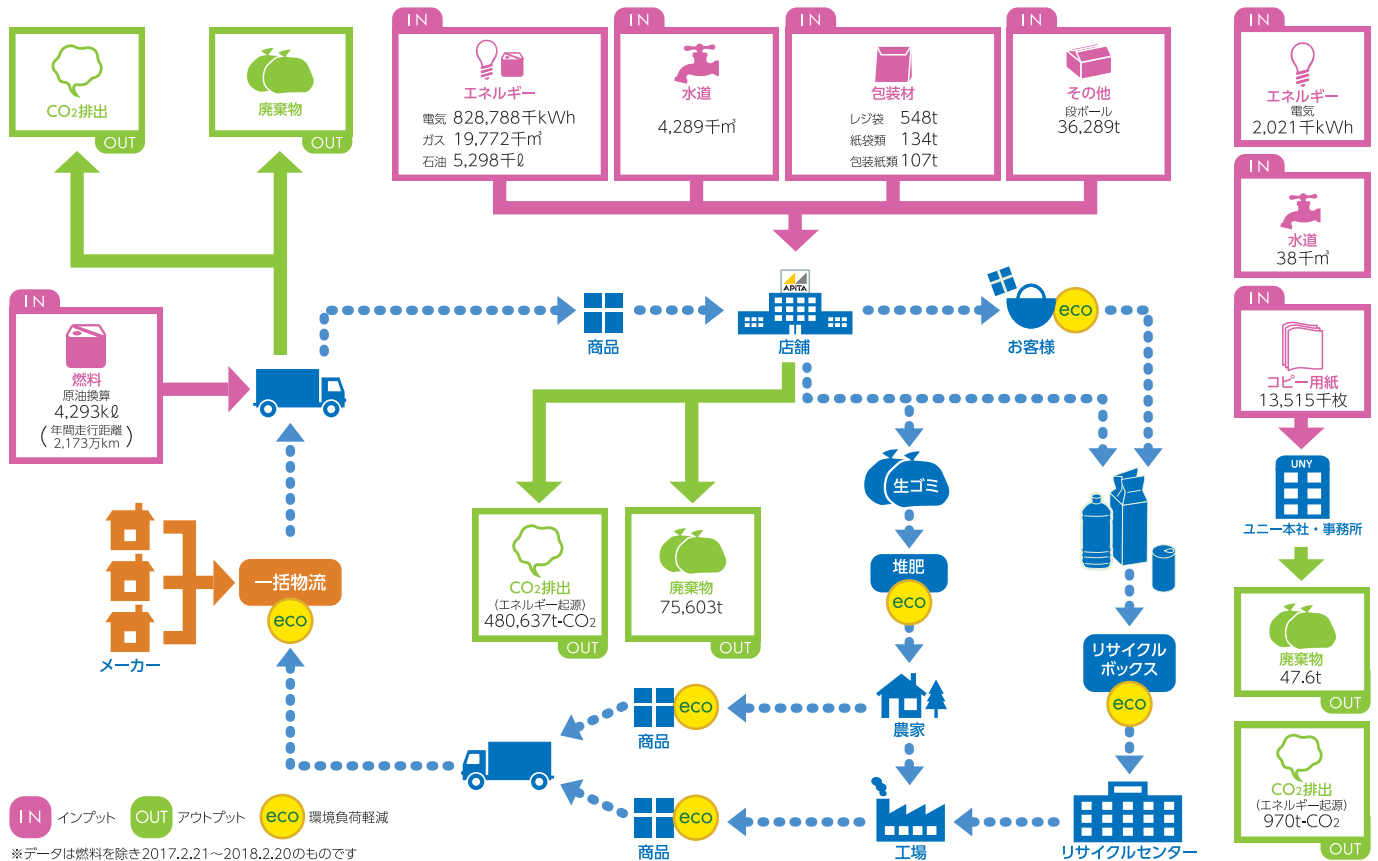
## 事業活動における環境負荷

ユニーの事業活動の中で環境負荷の大きな原因は、店舗でのエネルギー使用です。店舗では、照明や空調・食品の冷蔵・冷凍の陳列ケースなどに電気やガスなどのエネルギーを使います。また、商品の輸送や冷蔵・冷凍保管の倉庫などでも多くのエネルギーを使用しています。これらのエネルギーは化石燃料（石油、石炭、天然ガスなど）から得ているため、地球温暖化の原因といわれているCO<sub>2</sub>などを排出しています。それ以外にも、店舗から排出する廃棄物やお客様が商品と一緒に持ち帰る容器包装も大きな環境負荷の原因になります。ユニーでは、これらの原因を明らかにし、環境負荷の低減に努め、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。

### サプライチェーン排出量(スコープ3)の算定

ユニーは、サプライチェーン排出量において、スコープ1(直接排出)、スコープ2(エネルギー起源間接排出)に加えて、スコープ3(スコープ2以外の間接排出)の算定を推進しています。スコープ3のカテゴリ1(購入した製品・サービス)について、食品部門に限定して算定した結果、2017年度は1,289,303.28t-CO<sub>2</sub>eqでした。順次、衣料品部門、住居関連品部門の算定を進めていきます。

(環境省:サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.2.4)産業関連データベースの排出原単位購入者価格ベースに基づき算定しております)



### Voice

#### 環境負荷削減に向けての取り組み

私達物流部は、環境負荷削減に向けて「一括配送」、「混載推進」等で輸送の合理化を図り、CO<sub>2</sub>の発生抑制に取り組んでいます。その結果、以下のとおりになりました。

- エネルギー使用量は、原油換算で4,293kℓ、前年比93.4%
- 輸送量は、4,100万tkm、前年比93.2%(輸送距離 2,173.3万km)
- エネルギーの使用に伴って発生するCO<sub>2</sub>排出量は、11,407t-CO<sub>2</sub>、前年比93.4%
- 折りたたみコンテナ(オリコン)を積極的に活用しています。結果ダンボール購入金費用は、昨年比93.3%(一昨年対比 14.3%)に減少。

今期もオリコンを優先的に活用していきます。各センターにデジタコ、ドライブレコーダー等を導入し「エコ運転の啓蒙」に努めています。積載率UP、運行本数削減に向け、さらなる物流効率化に取り組めます。

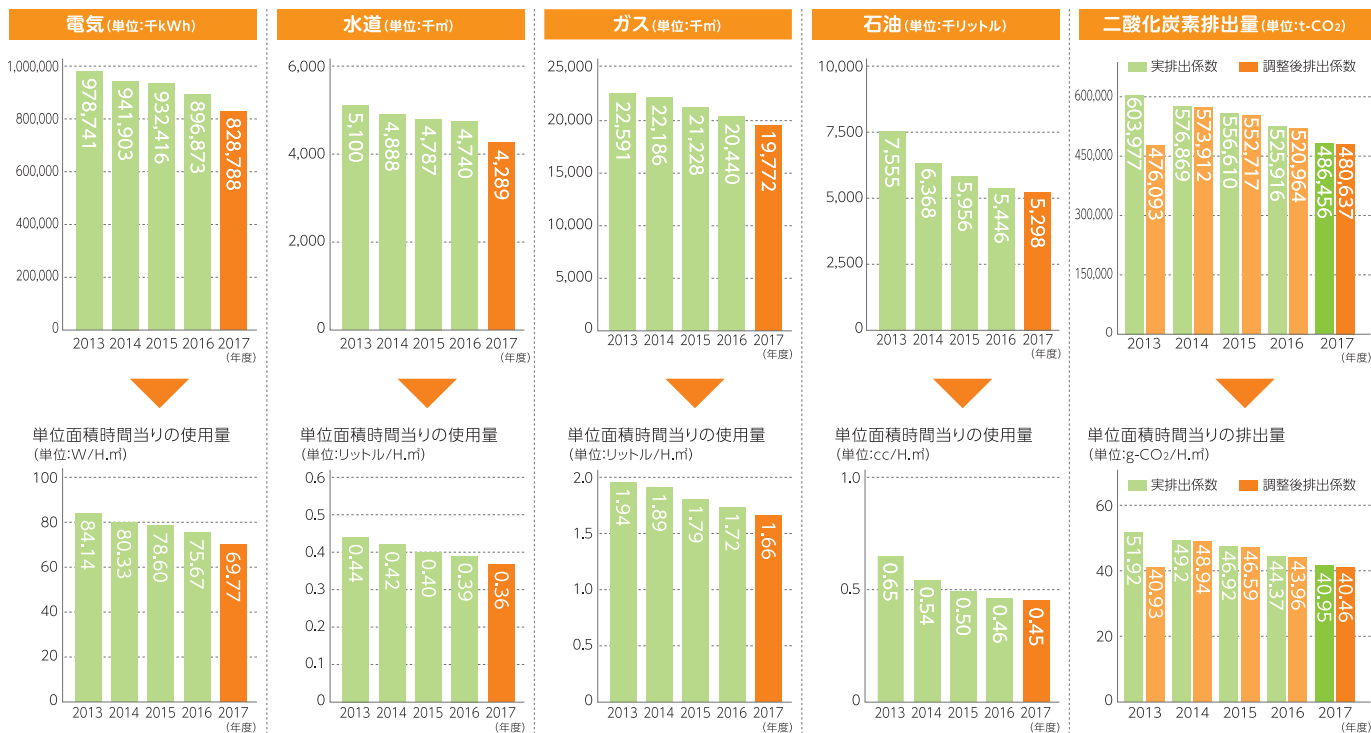


業務本部  
物流部長 浅井 盛希



# 省エネルギー・省資源活動

◆エネルギー使用量の推移 ※データは、各年度とも2017年2月21日～2018年2月20日までのものです。\*エネルギー使用量は店舗合計の数値



2017年度は38店舗でLED照明に切替を実施し、大きな削減効果に繋がっている。2018年度は23店舗に切替を予定している。

LED照明への切替の低発熱効果により店内熱量が減少し、空調使用を抑えたことも削減の要因です。今後は節水トイレの採用や雨水利用などにより、水道水の使用削減を図ります。

LED照明への切替の低発熱効果により店内熱量が減少し、空調使用を抑えたことも削減の要因です。今後も効率の良い設備転換により削減を図ります。

石油からガスへのエネルギー転換により石油の使用量は減っています。多くは、非常用発電機に使用されます。

◆5社の電気使用に伴う二酸化炭素係数 (平成29年度: t-CO<sub>2</sub>/kWh)

電気供給事業者	実排出係数	調整後排出係数
東北電力株式会社	0.000545	0.000548
東京電力エナジーパートナー株式会社	0.000486	0.000474
中部電力株式会社	0.000485	0.000480
北陸電力株式会社	0.000640	0.000624
関西電力株式会社	0.000509	0.000493

2017年度のCO<sub>2</sub>換算係数は下記より換算しました。

- 電気…環境省ホームページ「温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 電気事業者別のCO<sub>2</sub>排出係数(2016年度実績)(平成29年12月21日公表)
- 水道…独立行政法人国立環境研究所「水道に関するCO<sub>2</sub>排出原単位の算定根拠」(環境省推奨)
- ガス・石油…環境省ホームページ「温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(平成27年4月改訂後)」
- 二酸化炭素排出量…調整後排出係数…電気事業者の調整後排出係数(京都メカニズムクレジット・国内認証排出削減量を加味している)
- 単位面積時間当りの使用量…CO<sub>2</sub>排出量/営業面積×営業時間

## ◆省エネ活動

店舗では、照明や空調、冷蔵・冷凍ケースに多くのエネルギーが使われています。そのため、可能な限りの節電に取り組んでいるほか、LED照明やリーチン冷凍ケース等の省電力型機器を導入し、省エネルギーに努めています。空調の基本温度を管理し、電力のピークカットに取り組んでいます。2017年度の二酸化炭素排出量(エネルギー起源)は2006年度対比△29.9%(原単位)と削減に繋がっています。今後さらに国の目標である2030年度までに2013年度に比べ△26%(総量)を目指していきます。また物流に係るエネルギー削減は「一括物流」、「混載推進」等で輸送の合理化を図っており、2017年度のエネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量は、原油換算で前年比△6.6%でした。

## 商品によるCO<sub>2</sub>削減

ユニーでは環境配慮型PB商品 ecoIonを開発販売しています。そのなかでもユニー店舗の飲食店・小売店の厨房で使用済みとなった揚げ油を回収、精製して作った「あげ油リサイクルハンドソープ」は、原料に廃食用油を使用することで、1個あたり約495gのCO<sub>2</sub>を削減することに繋がると考えられます。



## ISO推進委員会(省エネルギー委員会)

店舗では、エネルギー使用量の削減を目的に月に1度ISO推進委員会を開催しています。メンバーは店長や各副店長の管理職と設備担当や専門店代表者などで構成され、毎月の電気、ガス、水道などの使用量の推移を確認し、削減の施策を検討し具体的に実施しています。ISO導入店舗は、これまでの省エネルギー委員会がISO推進委員会として施策を講じています。



## LED照明の導入

従来の白熱灯や蛍光灯に比べ消費電力の少ないLED照明の導入を推進しています。2017年7月までに130店舗で導入が完了しています。LED照明の導入により1店舗あたり消費電力が最大で25%削減の効果が期待できます。また売場・及び冷蔵・冷凍ケースを一部消灯したりするなど、明るさ感を損なうことなく節電に努めています。



## ライトダウンキャンペーンに参加

環境省主導のライトダウンキャンペーンに参加しました。これは、「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」の一環で、6月21日(夏至)と7月7日(クール・アースデー、七夕)両日には、夜8時から10時までの2時間程度、商業施設や家庭での一斉消灯を呼びかけたものです。



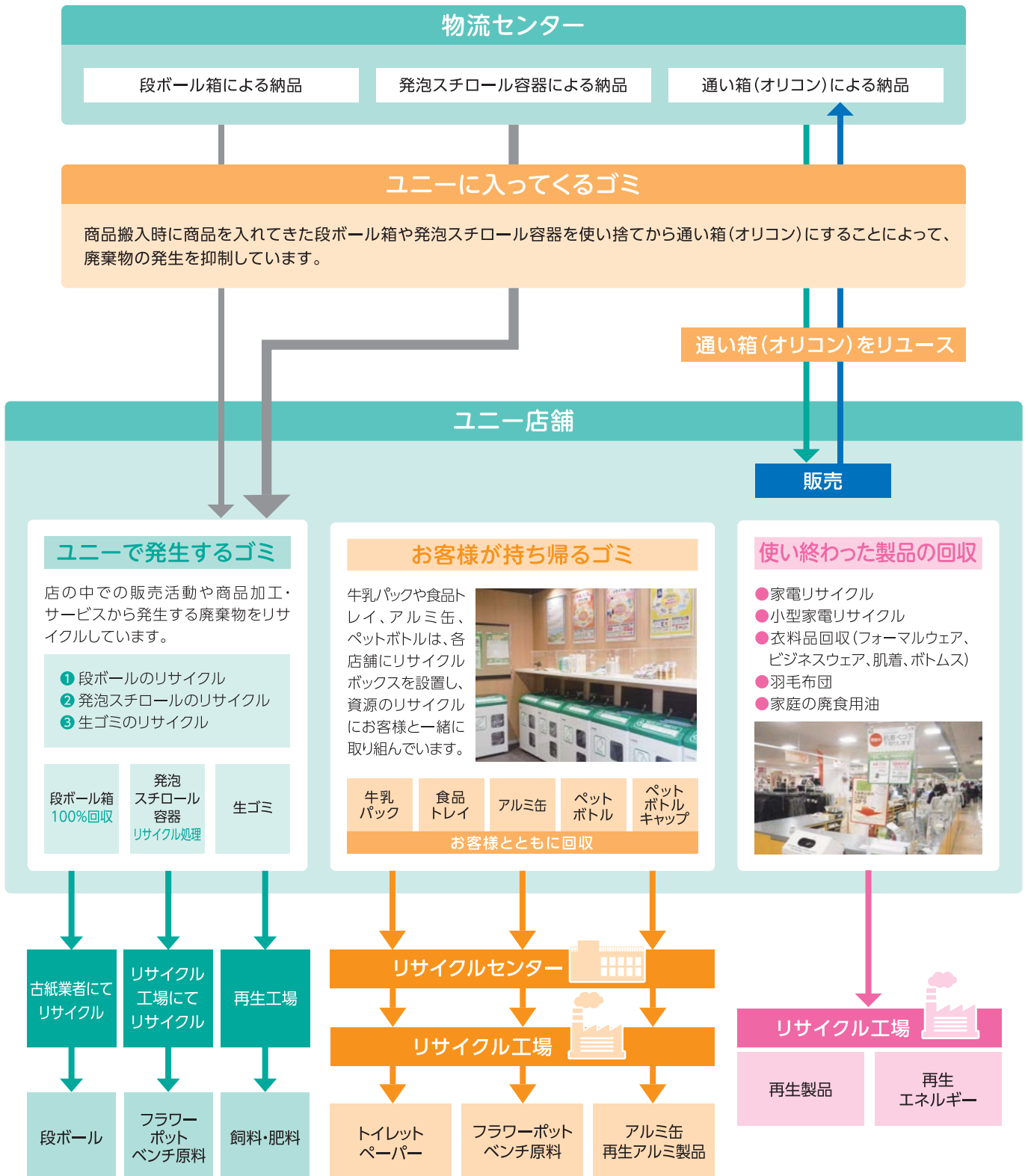
# 廃棄物削減の取り組み

循環型社会



ユニーでは全店舗に廃棄物計量器を導入し、直営売り場だけでなく専門店や共有部分から排出される廃棄物ごとに、排出場所・19種類に分別し計量しています。この活動により廃棄物の発生抑制やリサイクルを推進しています。廃棄物を削減するためには店舗や家庭から排出されたゴミになる容器包装を削減したり、使用済みの容器包装を店頭回収してリサイクルしています。プラスチックごみによる海洋汚染が問題となっており簡易包装などゴミの少ない商品の販売や、お客様から使い終わった製品の回収に取り組み、お客様とともに廃棄物の削減とリサイクルに取り組んでいきます。

## 廃棄物削減のための取り組み





# 廃棄物分別を徹底するために

ユニーでは廃棄物を削減し、資源として有効利用するためにバックヤードに廃棄物を分別するゴミステーションを設置し、直営従業員・専門店従業員など関連している人たちに分別・計量の教育を定期的に行っています。



廃棄物分別教育



「ユニーのゴミ図鑑」と教育用DVD



バックヤードの廃棄物分別「ゴミステーション」

## 廃棄物計量システム



売り場では廃棄物を種類ごとに別々の容器に分けて入れます。



廃棄物は排出場所・種類ごとにバーコードで管理し、計量器に載せ、重量を計ります。



シールを発行します。同時にデータは事務所、本社の端末に記録、集計されます。

# ユニーで発生するゴミ

ユニーでは2003年度から順次店舗に廃棄物計量器を設置し、店舗から排出される全ての廃棄物を排出場所ごとに分別計量しています。排出場所ごとに管理することで排出責任を明確にし、廃棄物の発生要因を追求し発生抑制に努めています。そして、排出された廃棄物は分別を徹底することで再生資源としての価値が上がり、リサイクルが進みます。

2017年度の廃棄物排出量は2016年度対比95.9%で4.1%削減しました。ユニーでは店舗でISO14001の取り組みと連動し、廃棄物

の削減、特に廃棄商品の削減に取り組んでいます。売場での見切りのタイミングを見直し、できるだけ商品が廃棄にならないように販売をしています。廃棄商品を削減することによって、廃棄物処理費用の削減、利益の確保、また作業時間の軽減につながります。

また、物流の商品納品方法を見直し、簡易包装とハンガー納品に取り組むことでダンボールを削減しています。今後も、廃棄物の削減に取り組む、排出された廃棄物は分別を徹底し、再資源化に取り組んでいきます。

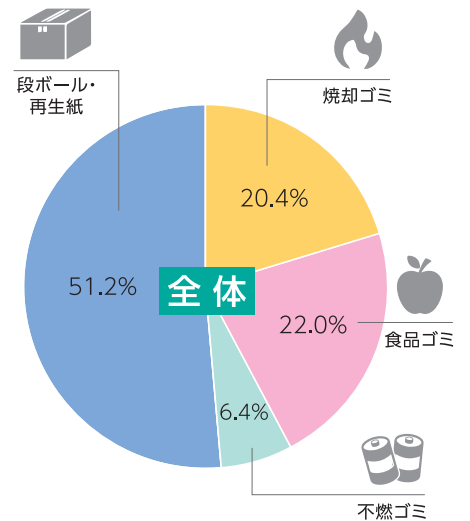
## ◆廃棄物排出量

(単位:t)

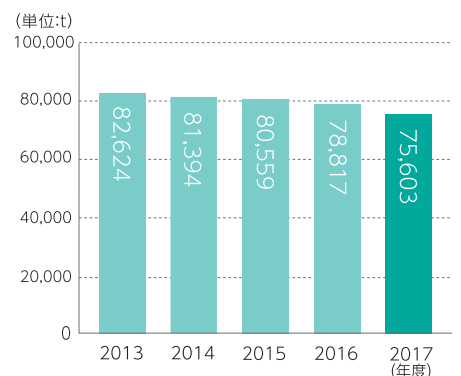
区分	種類	2015年度	2016年度	2017年度	前年比[%]
可燃ゴミ	一般可燃ゴミ	12,087	11,879	11,536	97.1%
	ビニール(食品系)	4,084	4,062	3,903	96.1%
	小計	16,171	15,941	15,440	96.9%
	生ゴミ	13,723	13,226	12,395	93.7%
	魚のアラ	2,088	2,067	2,141	103.5%
	てんかす	981	961	918	95.5%
	廃食用油	1,234	1,199	1,182	98.6%
小計	18,026	17,453	16,636	95.3%	
不燃ゴミ	発泡スチロール	823	799	734	91.9%
	プラスチック	429	423	417	98.5%
	ビニール(衣、住系)	867	869	885	101.8%
	ビン	1,396	1,474	1,532	103.9%
	缶	447	442	449	101.5%
	ペットボトル	416	451	439	97.4%
	陶器・ガラス	108	105	122	116.5%
	金属ゴミ	146	146	144	98.9%
	その他	96	94	93	98.9%
	小計	4,727	4,802	4,815	100.3%
紙類	段ボール	39,176	38,181	36,289	95.0%
	紙類(再生可)	2,459	2,439	2,423	99.3%
	小計	41,635	40,620	38,712	95.3%
合計		80,559	78,817	75,603	95.9%

※端数を四捨五入処理しているため、合計数値と一致しない場合があります。

## ◆廃棄物構成比率

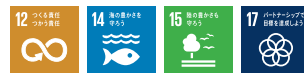


## ◆廃棄物総排出量の推移



# 容器包装とリサイクル

循環型社会



一般廃棄物排出量の削減(リデュース・リユース)と再生利用(リサイクル)を目的に、容器包装リサイクル法が施行されました。ユニーは特定事業者として再商品化やリサイクルに取り組み、家庭から出るごみの約6割(容積比)を占める容器包装やレジ袋の削減に取り組みました。ユニーは容器包装をできるだけ使わない販売、使った後の容器包装を廃棄物にしない、サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装を使用するなど、お客様と3Rを実施し環境負荷軽減に取り組んでいきます。

## 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- レジ袋無料配布の中止
- 贈答品などの簡易包装
- ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- トレイを使わない販売の検討や容器包装の小型化、薄肉化
- マイボトルやマグカップなどの利用促進

## 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- リサイクルによる店頭回収
- 再生資源としてトイレトーパーやベンチなどにリサイクル
- ペットボトルキャップを店頭回収し、自動車部品などへのアップサイクルを推進

## サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源(石油)を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

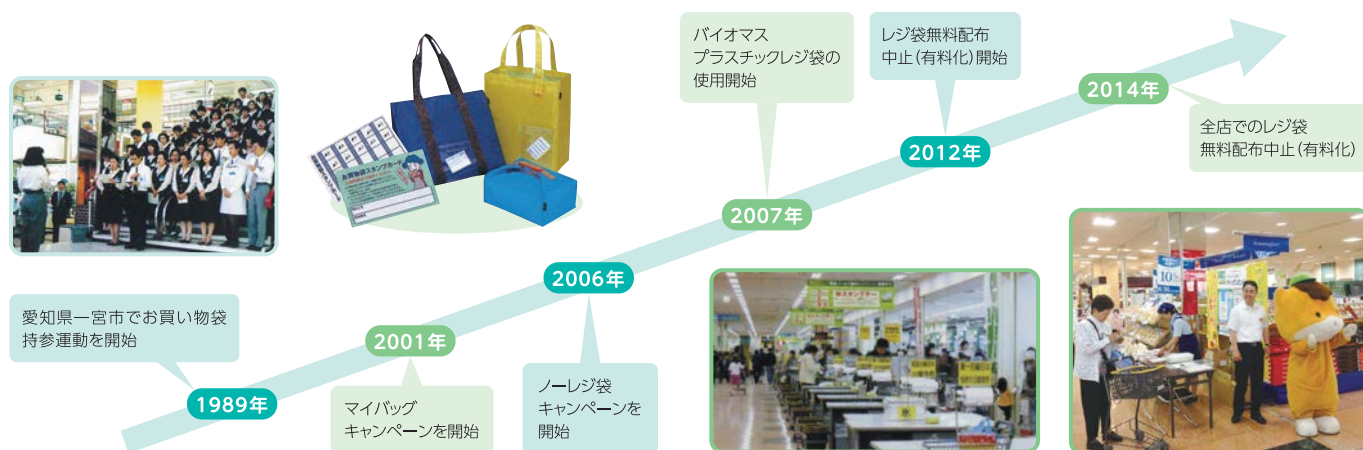
- 環境配慮型PB商品eco!onの容器にバイオマスプラスチックを使用
- 有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用
- 生鮮食品の販売に生分解性バイオマスプラスチック、ポリ乳酸製容器包装を使用

## 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

### レジ袋削減への取り組み

レジ袋の歴史は古く、1970年代にスーパーで商品の持ち帰り用に使われ始めました。薄くて丈夫、水にも強く便利なことから瞬く間に社会に浸透しました。ところが一度使えば破棄され、自然には分解しないことから、ゴミ増加や自然破壊につながると大きな問題になり、消費者団体などによる「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まり、ユニーでは1989年からレジ袋削減に取り組んでいます。

2001年からはマイバッグを配布、2006年には「ノーレジ袋キャンペーン」を展開したり、啓蒙活動を進めましたが効果が出ず、2007年6月、横浜市のピアゴ中山店(現在閉店)から「レジ袋無料配布中止(有料化)」を始めました。ユニーはこれ以降、自治体や市民との合意のうえ、地域の同業他社とも連携し、地域全体で取り組みました。廃棄されたレジ袋を焼却することでCO<sub>2</sub>が発生すること、原料である化石燃料(石油)の枯渇なども問題にされ、持続可能な会社の妨げになることから、ユニーでは2014年2月に全店の食品売り場でレジ袋無料配布の中止に踏み切りました。マイクロプラスチックの海洋汚染が問題となっており、引き続きレジ袋の削減に取り組んでいきます。



### 地域の環境保全活動に寄付

有料レジ袋を購入していただくと、ユニーは1枚に付き1円を地域の自治体の環境活動に寄付します。

● 2017年度実績  
26,217,118円



白山市から感謝状を受け取るピアゴ白山店森店長

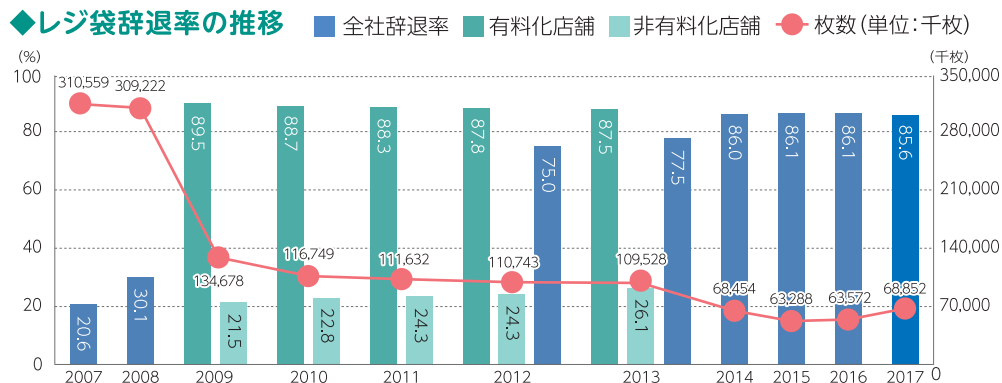
- 1 自治体が、レジ袋削減は「廃棄物の削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に知らせ、主体的に取り組むこと。
- 2 地域の市民団体が支援してくれること。
- 3 地域の小売業者など連携して参加すること。

自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し話し合い、協定書を締結するよう努める。



# レジ袋辞退率の推移とレジ袋使用量の推移について

ユニーでは2007年からレジ袋無料配布中止(有料化)を開始しました。当初はユニー全体で年間3億枚を超えるレジ袋を使用していましたが、2014年に全店の食品売り場でレジ袋無料配布中止に踏み切り、2017年度68,852千枚まで削減しました。容器包装リサイクル協会へ支払う委託金額もレジ袋の使用枚数の減少とともに減っていますが、2017年度はプラスチックの委託単価の影響で支払い金額が増加しています。



## ◆レジ袋使用量と容器包装リサイクル法委託金額の推移

年度	枚数(単位:千枚)	重量(単位:t)	委託金額(税込)
2007	310,559	1,818	2億9,729万円
2008	309,222	1,851	2億7,978万円
2009	134,678	1,029	2億2,272万円
2010	116,749	964	1億6,655万円
2011	111,632	851	1億6,154万円
2012	110,743	839	1億4,868万円
2013	109,528	821	1億5,804万円
2014	68,454	616	1億6,104万円
2015	63,288	587	1億3,557万円
2016	63,572	573	1億2,489万円
2017	68,852	548	1億3,665万円

※容器包装リサイクル法に基づき、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

## 東海三県一市グリーン購入キャンペーン

2002年より愛知県・三重県・岐阜県の東海3県と名古屋市の小売店が共催して使用済み容器包装のリサイクルや、商品そのものがリサイクル資源を活用して製造されたものを紹介など、「環境にやさしいお買い物」を消費者に啓発する活動を行っています。ユニーでは環境配慮型PB商品eco!onのCO<sub>2</sub>削減効果などを掲示しグリーン購入を啓発しました。



東海三県一市グリーン購入キャンペーンポスター



ブースにてユニーの取り組みを紹介



リーフウォーク稲沢(愛知県)



ヒルズウォーク徳重(名古屋市)

## サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

### バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装はプラスチック製のものが多く、ほとんど石油製品です。石油など化石燃料は限りある資源であり、使い捨ての容器包装に枯渇が心配される貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また、石油を産出する時、焼却処分する時にはCO<sub>2</sub>を排出し、地球温暖化の一因とされています。そこで、ユニーは2006年から植物由来のバイオマスプラスチック製容器包装を使用しています。



#### バイオスマーク

動植物を原料としたプラスチックで、使用後は水と二酸化炭素に分解され、自然に還ります。

#### ●バイオマスプラスチック(バイオポリエチレン)製容器包装

ユニーの有料レジ袋は植物由来のバイオポリエチレン25%含有品です。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは石油製品に比べ、17%CO<sub>2</sub>を削減しています。



#### ●バイオマスプラスチックを配合した詰替ボトルシリーズ

サトウキビを原料につくられたバイオマスプラスチックを使用しています。(透明ボトルの場合:約30% 半透明ボトルの場合:97%)化石原料の使用を抑制し、CO<sub>2</sub>削減に貢献します。



#### ●バイオマスプラスチック(ポリ乳酸)フルーツパック

青果売場ではとうもろこし(ポリ乳酸)を原料に作られたバイオマスプラスチックを年間約40t使用しています。ポリ乳酸100%原料でCO<sub>2</sub>発生量削減に大きく貢献しています。



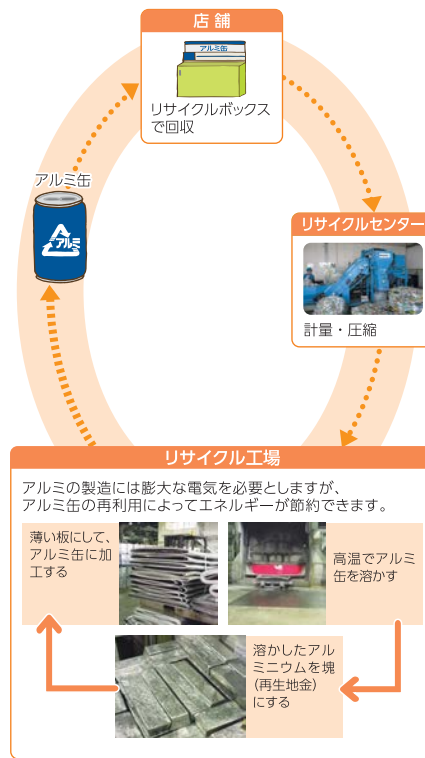




## ◆牛乳パックのリサイクル



## ◆アルミ缶のリサイクル



## ◆ペットボトルのリサイクル



## ボトルキャップ運動

ユニーでは回収したペットボトルキャップを、再生プラスチックの専門企業いその株式会社に売却し、NPO「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付しています。また、再生プラスチックは自動車部品の原料としてリサイクルしています。ユニーはこうした使用済み容器包装の「アップサイクル」を目指しています。



### ペットボトルキャップのリサイクル

「今こそ地球に恩返し」を経営理念とする当社にとって、市場回収品の素材をたくさん集めて、たくさんの自動車部品等に戻していくことが、社会的な使命です。自動車解体品(ELV)からの素材とともに、ユニー様のボトルキャップは、優良な素材として、活躍しています。キャップ回収に関わる皆さんに深く感謝申し上げます。



いその株式会社  
社長 磯野 正幸さん



エンジンルームの部品

## 下取り企画

ユニーではお客様から使用済み容器包装だけでなく、使用済みの商品を下取りし、資源として自動車内装材などにリサイクルしています。



下取り企画概要



- 下取り品目
- フォーマルウェア
  - ビジネスウェア
  - 肌着 ● ボトムス
  - 羽毛布団



自動車の内装材

※イメージ

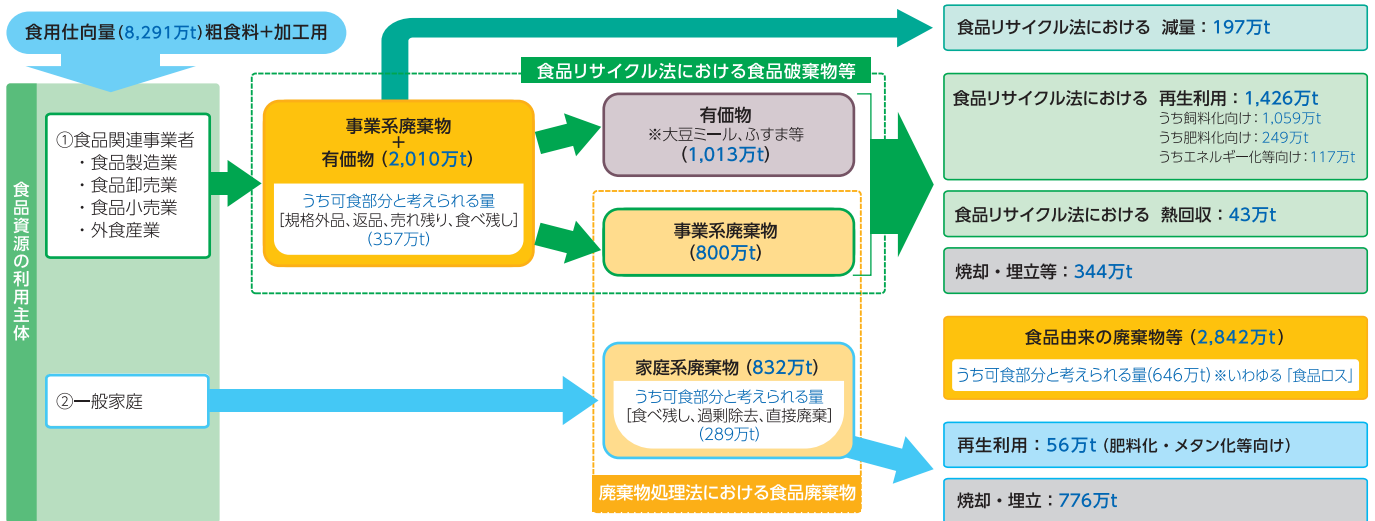


世界中で食品廃棄は大きな問題であり、日本では食料自給率が40%に満たないにもかかわらず、毎日たくさんの食料を廃棄しています。ユニーでは、食品リサイクル法を遵守し、未利用食品を食品リサイクルループによる地域循環型農業で利活用し食品ロス削減に努めています。

## 日本の食品廃棄物等の利用状況

食品リサイクル法における再利用率は平成26年と比べ約5%推進されました。しかしながら、焼却・埋立等のゴミは20%増加しています。また食品由来の廃棄分のうち可食部分、いわゆる食品ロスは若干増える傾向にあります。日本の食品廃棄は世界的にみて多いとされているので、その原因である家庭における食品ロスの削減について消費者と一緒に取り組みます。

食品廃棄物等の利用状況等(平成27年度推計)概念図



■資料：●「平成27年度食料需給表」（農林水産省大臣官房） ●事業系食品ロスについては、食品リサイクル法第9条第1項に基づく定期報告結果と農林水産省大臣官房統計部「食品循環資源の再生利用等実態調査結果（平成25年度）」等を基に、農林水産省食料産業局において推計。 ●家庭系食品ロスについては、「平成29年度地方自治体における食品廃棄物等の再生利用取組実態調査報告書」を基に推計（環境省環境再生・資源循環局）。 ●事業系廃棄物及び家庭系廃棄物の量は、「一般廃棄物の排出及び処理状況、産業廃棄物の排出及び処理状況」（環境省）等を基に環境省環境再生・資源循環局において推計。 ■注：●事業系廃棄物の「食品リサイクル法における再生利用」のうち「エネルギー化等」とは、食品リサイクル法で定めるメタン、エタノール、炭化の過程を経て製造される燃料及び還元剤、油脂及び油脂製品の製造である。 ●ラウンドの関係により合計と内訳の計が一致しないことがある。

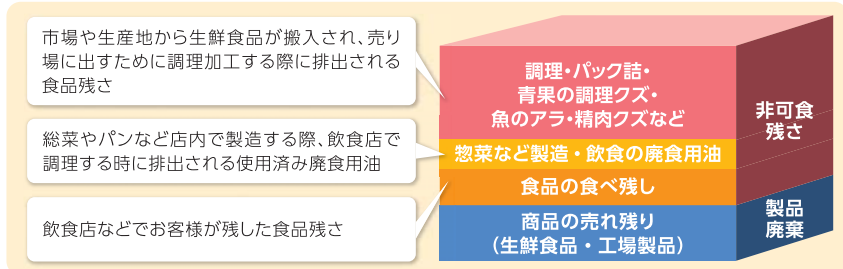
## 食品リサイクルの歩み

食品リサイクル法施行以来、環境関連事業者とパートナーシップを組み、様々な方法でリサイクルに努めています。ユニーでは「地域循環農業」を推進し、より環境負荷の少ない食品リサイクルループを目指しています。

- 2000年**
  - ◆福井市で地域循環の堆肥化事業に参加
  - ◆アピタ新守山店に熟乾燥処理機を導入
- 2001年**
  - ◆アピタ福井大和田店が地域循環堆肥化事業に参加
- 2002年**
  - ◆茨城県で堆肥化リサイクルに取り組む
  - ◆アピタ岡崎北店、アピタ東海荒尾店に真空乾燥機導入
- 2003年**
  - ◆富山市内店舗が富山エコタウン（バイオガス発電）に参加
- 2004年**
  - ◆アピタ伊那店、アピタ大和郡山店に真空乾燥機導入
  - ◆愛知県内でJA愛知経済連の協力により堆肥化事業開始
  - ◆アピタ鈴鹿店が堆肥化リサイクルに参加
- 2005年**
  - ◆アピタ松阪三雲店で堆肥で育った野菜の販売を開始
  - ◆アピタ瀬戸店、アピタ江南西店に真空乾燥機導入
- 2006年**
  - ◆横浜市内3店舗が、飼料化リサイクルに参加
- 2007年**
  - ◆愛知県で構築した「食品リサイクルループ」が、全国で初めて食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
  - ◆第1回食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞を受賞
- 2008年**
  - ◆アピタ前橋店、アピタ大垣店に真空乾燥機を導入
  - ◆愛知県尾張地域のリサイクルループが認定される
  - ◆アピタ御嵩店に真空乾燥機を導入
- 2009年**
  - ◆名古屋市と周辺部の店舗が飼料化リサイクルに参加
  - ◆千葉県、埼玉県、山梨県、石川県でリサイクルループの取り組み開始
- 2010年**
  - ◆神奈川県のリサイクルループが認定される
  - ◆千葉県でサークルKサンクス、ファミリーマートとともにリサイクルループを構築。「エコフィード」で育てた豚肉使用の惣菜「パン」を販売
- 2011年**
  - ◆千葉県、愛知県、岐阜県、京都府の飼料化リサイクルと三重県の堆肥化リサイクルのリサイクルループが認定される
- 2012年**
  - ◆京都府のリサイクルループに奈良県、滋賀県の店舗を加える
  - ◆福井県、新潟県、長野県のリサイクルループが認定される
- 2013年**
  - ◆静岡県、山梨県、埼玉県、群馬県、茨城県、栃木県、石川県のリサイクルループが認定され、1府18県下で15件のリサイクルループを構築する
- ◆第34回食品産業優良企業等表彰「環境部門」において、農林水産大臣賞を受賞**
- 2014年**
  - ◆2014愛知環境賞において銀賞を受賞
  - ◆愛知県三河地域のリサイクルループで生産された精米を使用したおにぎり、弁当をサークルKサンクスが限定販売
- 2015年**
  - ◆納品期限パイロットプロジェクトの功績で農林水産省より感謝状を受ける
  - ◆神奈川県横浜有機リサイクルが廃業、再生利用事業者を武松商事に変更
  - ◆岐阜県で飼料化のリサイクルループを構築
- 2016年**
  - ◆神奈川県、岐阜県のリサイクルループが認定される
- 2017年**
  - ◆福井県、富山県の再生事業者の都合によりリサイクルループ一時中止
  - ◆新たに岐阜県のリサイクルループに福井県、石川県、富山県を加入する取り組み開始
- 2018年**
  - ◆2001年から取り組んでいた福井環境事業とのリサイクルループが認定される
  - ◆関東エリアでの食品リサイクルループ取り組み開始
  - ◆第5回「食品産業もったいない大賞」農林水産大臣賞を受賞

# ユニーの店舗から排出される未利用食品(食品残さ)

店舗から排出される食品廃棄物は、非可食残さ(店内加工時に発生するキャベツの外葉や魚のアラ、使用済み食用油、食べ残しなど)と製品廃棄(消費期限切れ、賞味期限切れ、飲食食材廃棄)などの可食部分があります。非可食残さは発生抑制するとともに、食品リサイクルループなど堆肥や飼料など再生利活用を図ります。製品廃棄などの食品ロスは、適正仕入れ、加工に努め、期限の正しい理解など消費者と連携した取り組みを推進します。



# ユニーの食品リサイクル方針

ユニーでは持続可能な地域循環を目指し、安全でより環境負荷が少なく、経済的負担が重くない食品リサイクルループを目指します。

- 1 安全であり環境負荷が少ないこと  
(大気汚染・水質汚染を予防し、省エネであること)
- 2 再生資源として有効であること  
(有価資源になり再廃棄しない)
- 3 経費が抑えられること  
(公共処理料金との比較)
- 4 継続できる方法であること  
(リサイクルルートが確立していること)

# 食品リサイクル実績

国への報告数値「再生利用等実施率」は年々向上していますが、2017年度は初めて80%を超えました。

## ◆リサイクル実績

2017年度は、豊橋市のバイオガス化など新たなリサイクルルートが追加され、リサイクル量が大きく増加しました。また全社での排出量も減少したことにより、リサイクル率は71.3%と大きく向上しています。

店舗から発生する食品廃棄物(未利用食品)	2016年度			2017年度		
	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
生鮮食品の調理クズ(野菜・果物など)、消費期限・賞味期限切れや飲食の食べ残し	13,226	7,494	56.7	12,395	8,185	66.0
魚のアラ(魚介類の調理クズや頭・骨や皮など)	2,067	1,865	90.2	2,141	1,971	92.1
廃食用油(使用済み揚げ油)	1,199	1,199	100.0	1,182	1,182	100.0
てんかす	961	550	57.2	918	531	57.8
合計	17,453	11,108	63.6	16,636	11,869	71.3

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

## ◆食品リサイクルの推移

全社での削減活動により、食品廃棄物排出量は年々減少し、売上高百万円あたり29.9kgと国の目標65.6kgを大きくクリアしています。またリサイクルの国への報告数値「再生利用等実施率」は80.6%と昨年より5.7%向上しました。

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
食品廃棄物発生量(t)	19,605	21,436	22,908	21,210	19,944	19,089	18,650	18,432	18,075	17,453	16,636
リサイクル量(t)	6,656	7,561	9,444	10,378	10,812	10,874	11,099	11,066	11,126	11,107	11,869
リサイクル率(%)	34.0	35.3	41.2	48.9	54.2	57.0	59.5	60.0	61.6	63.6	71.3
再生利用等実施率(%)※	34.0	47.3	48.9	59.0	64.1	66.5	69.6	69.7	72.9	74.9	80.6
食品廃棄物等の発生原単位(売上高百万円当りの発生量:kg)	44.00000	35.83000	38.99000	35.64000	34.67696	34.15311	32.80502	33.03063	31.29166	30.43225	29.85494
発生原単位の対前年度比(%)	-	81.4	108.8	91.4	97.3	98.5	96.1	100.7	94.7	97.3	98.1

※当該年度の単純実施率に2007年度比の発生抑制を加味した値

# 食品リサイクル法

食品リサイクル法は2000年に施行され、2007年に改正、そして2015年再度見直しが行われました。従来の食品関連事業者の役割と責任だけでなく、国民や自治体にも発生抑制の役割が課せられました。第3回目の見直し、法改正への準備が2018年からはじまります。

## 1 食品廃棄物等の発生抑制(リデュース)の推進

- 食品関連事業者31業種は、発生抑制目標値を5年間で達成する努力
- 国は、食品ロスの発生状況を把握し、取り組みの効果を数値化
- 様々な関係者が連携して、フードチェーン全体で食品ロス削減国民運動を展開

### ユニーの取り組み

各種食料品小売業の発生抑制目標は、売上高百万円当り65.5kg以下ですが、製品廃棄削減を全社で進め、2017年度は29.9kgと達成しています。また、廃棄物分別・計量システムにより、食品残さも継続的に削減しています。

## 2 食品循環資源の再生利用(リサイクル)の促進

- 再生利用手法の優先順位は、第一に資源循環が継続する「モノからモノへ」(飼料・肥料)の再生利用を、環境負荷の低減に配慮しつつ優先
- 食品リサイクルループの形成を促進
- 登録再生利用事業者登録基準に、再生利用製品の製造・販売実績を配慮
- 食品廃棄物多量排出事業者(年間100トン以上)は、再生利用など実施状況を都道府県にも報告

### ユニーの取り組み

食品小売業の再生利用等の目標値は、平成31年度までに55%ですが、食品リサイクルループによる再生利用を全社で取り組み、2017年度は80.6%と達成しています。

## ◆食品ロス削減

食品廃棄物の中で、まだ食べられる食品ロスは全国で646万トンにもなります。このうち家庭からは昨年より増え約289万トン。食品関連事業者からは357万トンでした。食品廃棄は世界的にも大きな問題で、国連「持続可能な開発のためのアジェンダ」を踏まえ、SDGs12.3でも「小売、消費レベルで、一人当たりの食料の廃棄を半減させる」と明記されています。



## 日本の食品ロスの大きさ

国民1人1日当り食品ロスは、おおよそ茶碗1杯分のご飯の量に相当。

### 日本の「食品ロス」(約646万t)

事業系	家庭系
うち可食部分と 考えられる量 (357万t)	うち可食部分と 考えられる量 (289万t)

資料：農林水産省食料産業局(平成27年度推計)



## 食品リサイクルループの構築

ユニーは2007年1月に全国初の「再生利用事業計画」に認定を、環境大臣・農林水産大臣・経済産業大臣から受けて以来、各地で再生利用事業者・農業生産者とのパートナーシップを基に、食品リサイクルループの継続的運営と新たな構築を進めています。

### ◆リサイクルループを構成するパートナーシップ

食品残さを排出するユニーと、堆肥や飼料を製造する再生利用事業者、それを使って農畜産物を生産する農業生産者、そしてそれを販売して消費者に届けるユニーの、「食品リサイクルループ=命をつなぐ環」を回し続けることが、地域循環農業です。ユニーはこれからもパートナーシップを大切に、安全安心で生産者の顔の見えるリサイクルループを回し続けます。



### ◆リサイクルループを回す役割

再生利用事業者、農業生産者とパートナーシップを組むユニーの社内では、再生利用事業者を選び、堆肥や飼料を作るところまでは、環境担当者の役割です。農業生産物の品質確保と販売は、仕入れ担当者の役割です。

#### 環境担当者の役割

**食品残さをリサイクルするためにパートナーを探す**

- リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す
- 再生製品（堆肥や飼料）を利用する農業者を探す

再生利用事業者の製造する堆肥・飼料の品質確認。 地産地消を前提に生産技術の高い農業者と組む。

#### 仕入れ担当者・販売担当者の役割

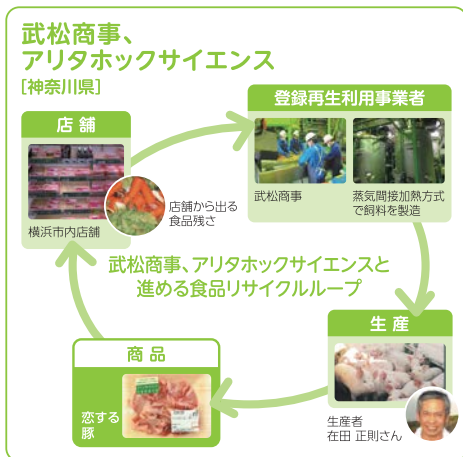
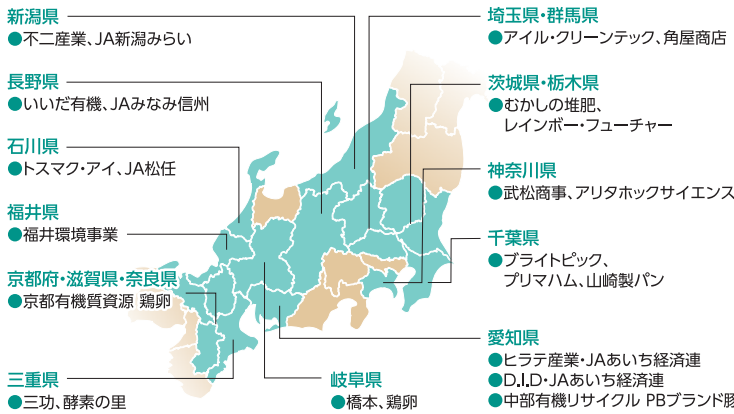
**リサイクル農作物を販売**

- 生産された農作物を販売するために、社内で検討する
- 農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを図る
- 売場ではリサイクル作物の特徴を消費者へ十分にアピールする

農畜産物の生産履歴・品質が社内基準を満たす。 販売計画を基に生産計画を立て購入契約を結ぶ。 売りに、「安全・安心な農作物」であることを明示。

## 各地で広がる食品リサイクルループ

ユニーの食品リサイクルループは、地域循環・地産地消で生産者と消費者を結び、安全・安心な農畜産物を提供します。現在では191の店舗でリサイクルループを回しています。



# 食品リサイクル普及に向けての取り組み

Voice

## 食品リサイクルループのパートナー

弊社は2009年8月、名古屋市守山区に食品リサイクル飼料化施設を設置し稼働を始めました。ユニー様とはリサイクルパートナーとして法令を遵守して食品リサイクル飼料化事業に取り組んでいます。製造する飼料は全量飼料メーカーに買い取っていただき、配合飼料の原料として配合され愛知県内の養豚農家、養鶏農家に利用されています。食品リサイクル飼料化事業並びに食品リサイクルループの認定は、日本国内における飼料自給率、食料自給率の向上に大きく貢献する事業であり、ユニー様のリサイクルパートナーとして今後も貢献してまいります。



中部有機リサイクル株式会社  
取締役社長  
前川 寛さん

◆消費者の農業体験と生産者との交流  
食品リサイクルループの堆肥を使った畑で、収穫体験を行いました。安全安心な作物を収穫し、生産者の思いや食べる大切さを学びました。



不二産業の芋ほり

◆JAあいち海部エコ部会

2005年から継続しているJAあいち海部エコ部会は毎年総会を開き、前年度の総括と今年度の計画を、ユニーも交えて決議しています。



第11回通常総会

# 消費期限と賞味期限

## ◆食品ロス発生抑制への取り組み

食品ロス発生の原因には、食品に添付されている「消費期限」「賞味期限」の存在があります。消費者にこの期限を正しく理解していただくことと、サプライチェーンでは現実に即したルールへの見直しを図っています。

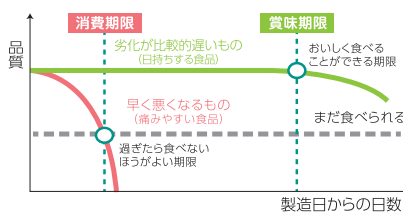
## ◆消費期限・賞味期限

消費者はこの「期限」に対する理解が不十分で、日付にこだわって購入するために店舗での廃棄につながったり、賞味期限を「食べられるまでの期限」と誤った解釈で、家庭での廃棄の主な原因になっています。また、店舗では期限が近づく商品の価格を下げて「お値打ち商品」として、販売を促しています。

**消費期限**  
安全に食べることができる期限

**賞味期限**  
おいしく食べることができる期限

## ◆消費期限と賞味期限のイメージ



Voice

## 消費者と事業者の協働の意義

ごみ・環境問題に関心の高い人は、講座やイベントに参加されますが、その数は人口に対し少なく、問題はそれ以外の人への情報発信です。しかし、ごみ・環境問題に関心の無い人も、スーパーに買い物に来ます。買い物ついでに情報発信ができる「店頭キャンペーン」は、双方向のコミュニケーションが可能という点で、とても有効な手段になっています。場所を提供して下さる事業者に感謝です。

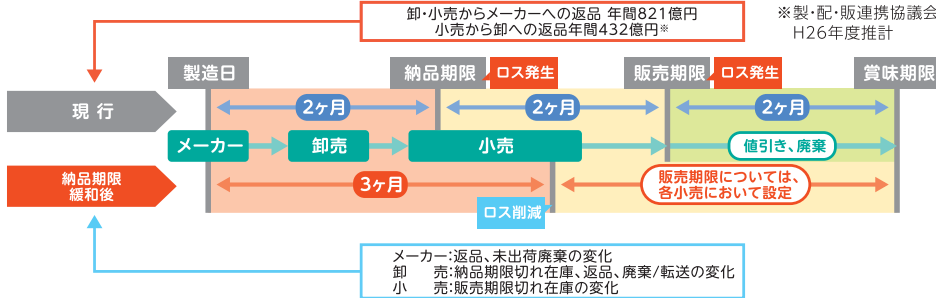


生ごみ出さないプロジェクト  
岩月 宏子さん

## ◆見直される3分の1ルール

メーカー、卸売り、店舗の物流の段階では3分の1ルールを見直し、販売期間を延長するように試行しています。

## ◆賞味期限6ヶ月の例



# 食品ロスの取り組みについて

ユニーでは商品の売れ残りなど、製品廃棄について削減に努めます。また、フードバンクなどの取り組みについて社会福祉活動を検討していきます。

## ◆食品ロス削減… 店でも家庭でも食品を捨てない

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ」において、食料の損失・廃棄の削減を目標に設定されました。2030年までの持続可能な開発目標17の中でも食料廃棄は大きな課題です。

## ◆食品廃棄と食品ロス

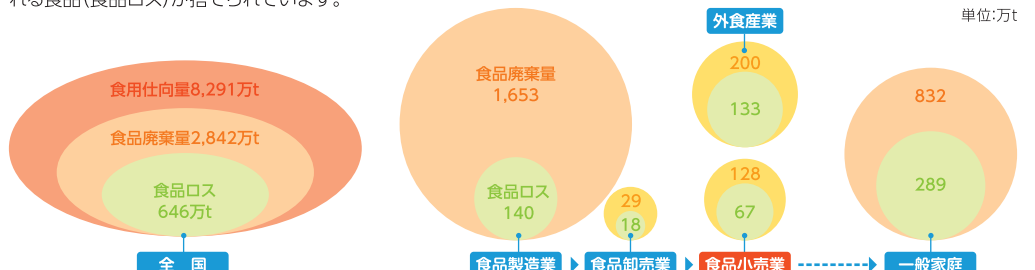
2015年度に全国に出回った食料は8,291万トンであり、そのうち約6割輸入しています。2,842万トン(食品仕向量の34.2%)が廃棄され、その中で646万トンのまだ食べられる食品(食品ロス)が捨てられています。

## ◆食品ロスはどこで発生しているのでしょうか

2015年の食品ロス全体の646万トンのうち、事業系は357万トンで55.3%、そのうち小売業は67万トンで18.8%でした。消費者(家庭)からは289万トンと微増、食品ロス全体の44.7%にもなります。フードチェーン全体で原因の項目を追究し、削減の取り組みを続けていきます。

12.3...2030年までに、小売・消費レベルにおける世界全体で一人当たりの食料廃棄量を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食料の損失を削減する。

12.5...2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、リサイクル、リユースにより、廃棄物の発生を大幅に削減する。



# 生物多様性

自然共生社会



ユニーでは生物多様性からの恵みを商品を通してお客様にお届けしています。こうした生物多様性を大切に、自然共生社会を持続可能にしていくために、次世代を生きる子ども達に自然や生き物との触れ合い、農業体験などを通して「いろいろな生き物と一緒に生きていくこと」を学ぶ環境学習を行っています。

## 命と暮らしを支える生物多様性

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私達人間を含めさまざまな生き物が生まれ、つながり合って生きてきました。その生物多様性がもたらす恵み「生態系サービス」によって、私たちの命や暮らしは支えられています。生物多様性条約では、この生き物のつながりを3つのレベルで分類しています。

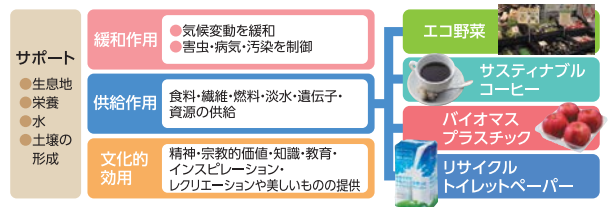
### ◆生物多様性の危機

地球上に約3,000万種の生き物がお互いにつながり合って生きている生物多様性。このかけがえの無い存在が人間の活動が原因で崩れ、毎年4万種の生命が絶滅していると推定されています。その原因は、①開発・乱獲により自然を破壊している。②里地里山などに人が手を入れなくなった。③外来種の持ち込み、化学物質の排出などで生態系を攪乱した。④地球温暖化の影響。などが挙げられています。

- 生態系の多様性**  
海や川、森、里、さまざまな自然があること
- 種の多様性**  
いろいろな生き物がいること
- 遺伝子の多様性**  
同じ種でも個体差があること

## 生物多様性を守る取り組み

私達が生きていくために必要な酸素は植物によって作られ、汚れた水は微生物などによって浄化されています。そして人間は他の生き物の生命を食べて生きています。そして、生き物からの「恵み」をもたらす生物多様性を守って作られた食べ物や製品を選んで購入することが、生物多様性を守ることにつながります。ユニーはこうした「供給作用」をお客様と一緒に「お買い物」を通して行っています。



## テーブルの上の生物多様性

ユニーの売場に並んでいる食品は「生物多様性の恵み」です。「私達は生き物の命をいただいて生きている」ことに感謝し、自然環境やそこで生きる生き物を保全して生産された食品を選ぶことで、生物多様性に貢献することが私達の務めです。

**●アトランティックサーモン**  
ノルウェーのきれいな海を守るために、養殖場から加工工場まで汚水を外に出さないシステムを構築、加工工場の汚水は魚油としてリサイクルしています。

**◆テーブルの上の生物多様性**

**●食品リサイクル～命をつなぐ環～**  
店舗から排出される食品残さ(野菜クズや魚アラなど)を原料にした堆肥を使うと、土壌を健康に豊かにする微生物やミミズが生きている畑や田んぼになります。こうした畑や田んぼで野菜や米が育てられています。

**愛知県ヒラテ産業・JAグループ【愛知県】**

店舗から発生した食品残さを熟処理機搭載のトラックで一次処理しながら運搬します。堆肥場で発酵させます。

**ヒラテ産業堆肥場**

運搬用トラック

**JAグループと進める食品リサイクル**

店舗 → 生産 → 店舗

愛知県内の一部店舗で販売

JAあいち中央でお米やチンゲン菜を栽培

**◆愛知県の伝統発酵食品(八丁味噌)**

八丁味噌は、愛知県の伝統的な発酵食品で、大豆と塩を原料に木製の樽に仕込む、昔ながらの製法で生産されています。

**●フェアトレードアイスクリーム**

ユニーは2017年より、日本初の国際フェアトレード認証アイスクリームである「ベン&ジェリーズ」の取り扱いを開始しました。「国際フェアトレード認証」を受けた原材料(砂糖・バニラ・ココア・コーヒー・バナナ)を使用し、オーガニック栽培であるため、生き物にもやさしく、お子様にも安心して食べていただけます。

**●サステイナブルコーヒー**

熱帯雨林の下でシェイドグロウン農法有機栽培で生産したコーヒーは、ジャングルの植物や畑の生き物の環境を守って生産されています。

消費者が購入することが、環境保全・社会貢献につながります。

スーパー等で販売

生産地・生産者

一杯のコーヒーから地球環境を考える

焙煎加工

環境に配慮した製造に努めています。

環境に配慮した農園は、生物多様性の保全に貢献し、働く人々の暮らしを支えています。

生産履歴が明確で安心・安全な生豆を、生産者との持続可能な関係で取引をします。



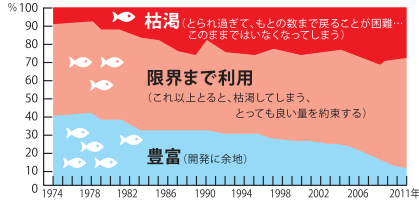
## 海の豊かさを守ろう

私達は海から魚やエビカニ、海草などの恵みを食料としていただいています。そして、海草などの水生植物によるCO<sub>2</sub>の吸収は、気候変動の緩和につながります。さらに、海には微生物から地球上で最大の哺乳類であるシロナガスクジラまで多様な生物が生息しています。

### ◆「海からの恵み」は限りある資源

魚類をはじめ海洋生物は、産卵などで命をつないでいます。人がそれらをとりにくくしてしまったり、いつか海の生き物はいなくなります。海洋資源を持続可能にいくために、適正な漁を捕獲すること、魚や貝を養殖することが必要です。世界管理機関WCPFCでは、クロマグロなどの漁獲枠を国ごとに決め、海洋資源の保全に取り組んでいます。

また、ユニーでは海を汚さない養殖方法で育てたサーモンを販売しています。



世界の水産資源ストックのグローバルトレンド 1974-2011年 (FAO, 2014, Fig.13, をもとに作成)

### ◆「海洋汚染」はプラスチックが原因

家庭から出るゴミの約60%が容器包装です。そしてそのほとんどがプラスチック製です。原因不明で死んでしまったカメやクジラの胃袋にはたくさんのレジ袋が詰まっていた。太陽の光と波で砕けて粉々になったプラスチックをプランクトンと間違えて食べた魚が死んでしまうこともあります。歯磨きや洗顔剤に入っている細かなプラスチック粒が、海に流れ込んで、プランクトンが食べてしまうことも起きています。



### ◆プラスチックゴミで海を汚さない

世界全体で使われるレジ袋を含めたビニール袋は年間5兆枚にもなります。何気なく使用しているビニールのうち50%は再利用されることなく廃棄されています。ユニーでは1989年よりレジ袋削減に取り組み、2007年からレジ袋無料配布中止(有料化)を開始しました。一度使えば廃棄され、自然には分解しないレジ袋は使わず、マイバッグでのお買い物をユニーは進めています。



## ノルウェーで養殖したユニーのアトランティックサーモン

ユニーのアトランティックサーモンは、ノルウェーのきれいな海を守るため、養殖場から加工工場まで汚水を外に出さないシステムを構築、加工工場の汚水は魚油としてリサイクルしています。また、ノルウェー最北端より一度も凍結せず、店舗まで配送しています。鮮度抜群で脂もっており、一押しアイテムです。是非ご賞味ください!



食品本部 鮮魚部  
バイヤー  
天野 雅之



## 海を守るためにできること

「海を守りましょう!」という言葉を目にしますが、海が身近でない人たちにとってはピンと来ないかも知れません。水族館の大きな役割の一つに、生き物を見たり触れたりすることで生き物たちの住む環境を考え、身近に感じてもらうということがあります。ポイ捨てしたゴミが海に流れると、細かくなって生き物たちが食べてしまいます。水族館で見た生き物たちの故郷である「海」をみんなで考え、できる方法で守ってあげられたらと思います。



名古屋港水族館  
柿添 太さん

移動水族館でアカウミガメと触れ合いました。また名古屋港水族館に訪れる子ども達の観察ノートを作成し、海の生き物について学ぶための支援をしています。



水族館からウミガメの赤ちゃんがやって来ました

## 陸の豊かさを守ろう

森林は地球上の陸地面積の約31%を占めており、植物は人間だけでなく、すべての生き物に生きるために必要な空気や飲み水、食料などを提供しています。また多様な生き物の生息地や、生活に身近な紙の原料の提供、気候変動への対処においても不可欠な役割を担っています。

### 陸の豊かさとお買い物の関係



オーガニック栽培作物は、3年以上農薬や化学肥料を使用していない農地で栽培したものだけが認められています。オーガニック商品は、土壌の環境やその土地に棲む生き物を守り、農地で働く人にも配慮している環境・社会・生き物にやさしい商品です。また、従来の方法からオーガニック農法に変えると、使用するエネルギーを削減できるので、CO<sub>2</sub>の排出量を大幅に削減できます。



ecolonの  
オーガニックコットンTシャツ

### ◆農業体験

食品リサイクルループで循環型農業を行っている畑や田んぼは、化学肥料や農薬を削減し、食品残さの堆肥を使った健康な土壌です。カエルの住む田んぼで農業体験を実施しました。



田んぼで田植えを体験しました



森は、日々の暮らしで大量に排出している二酸化炭素を吸収し、私達や生物に必要な酸素を供給することで、地球温暖化を緩和しています。また毎日使うトイレットペーパー、ノートなどの紙製品も森の恵みです。

### ◆森を守るドネーション企画

…エコとお買い物券(P41参照)  
家庭で不要になった衣料品を回収し、引き換えに配布したお買い物券で、森林再生のために「公益財団法人SaveEarth Foundation」に寄付しました。店舗で募集した親子で森林活動に参加しました。



SEF山武の森再生活動 間伐

### ◆FSC学習帳

ユニーの環境配慮型PB商品「ecolon」のFSC学習帳です。FSC認証は「森が適切に管理されているか」を審査・認証し、違法伐採や、保護すべき森林の伐採を防ぎます。



### ◆森の町内会

森を守るために間伐し、その費用を環境評価として価格に反映させた紙を選んで使うことで、森林保全に貢献する活動です。ユニーは2017年の環境レポートに2,543kgの森の町内会「間伐に寄与する紙」を使用し、長野県の森0.24haの間伐に貢献しました。



森の町内会



スーパーの売り場に並んでいる食品はすべて「生物多様性の恵み」です。「私達は生き物の命をいただいている」ことに感謝し、自然環境やそこで生きる生き物を保全して生産された食品を選ぶことが私達の務めです。

### ◆サステナブルコーヒー

コーヒーは日本では栽培していない作物です。世界でコーヒーを栽培している地域は生物多様性が豊かで、特に熱帯雨林の木の陰で栽培したコーヒーは上質です。私たちがそうしたコーヒーを選ぶことで、生物多様性保全に貢献することになります。



### ◆日本モンキーセンター小動物観察

店舗で実施したエコ博で、子ども達に生き物の命に触れ合うイベントを開催しました。地球上に生きるいろんな生き物と一緒に生きていることを学びました。



地球の仲間と直接触れ合う事で笑顔がこぼれました

# 子ども環境学習



ユニーはESD(持続可能な開発のための教育)の考え方を取り入れた環境学習に取り組み、現在のことだけでなく未来のことを考え、子ども達が美しい自然の中で生きていくための「力」を育むことを願い、活動しています。そして、2015年「持続可能な開発目標(SDGs)」が国連サミットで採択され、今後はESDが、持続可能な開発目標であるSDGsに盛り込まれることで、「持続可能な開発」への更なる貢献を目指していきます。

## ユニーは、持続可能な社会をつかっていくために環境学習を実施しています。

ユニーは、持続可能な社会を担う子ども達がお店探検や農業体験・自然探検などを通じて、環境、社会貢献、食糧問題、命の大切さなどを学び、美しい自然の中で生きていくための「力」を育むことを願い活動しています。

**リサイクル工場見学**

- 廃棄物がリサイクルされる現場を見学

**地元NPOや地元企業とのコラボレーション**

- 地域のいろいろな方から学ぶ

**循環型農業体験**

- 食品廃棄物が再生資源になる過程の見学
- 循環型農業で収穫体験
- いろいろな生き物と一緒に生きていることを学ぶ
- 畑の恵みをいただく

**リデザインプロジェクト**

- 「地球」「若者」「障がい者」とつながる



**エコロお店探検隊**

- 地球に優しいお買い物
- 廃棄物をリサイクルする仕組みの見学
- ゴミを減らす取り組みの見学 ●廃棄物を使ったエコ工作

**夏休み自然探検隊**

- 白川郷の自然の中で体験学習

**モンキーサマースクール**

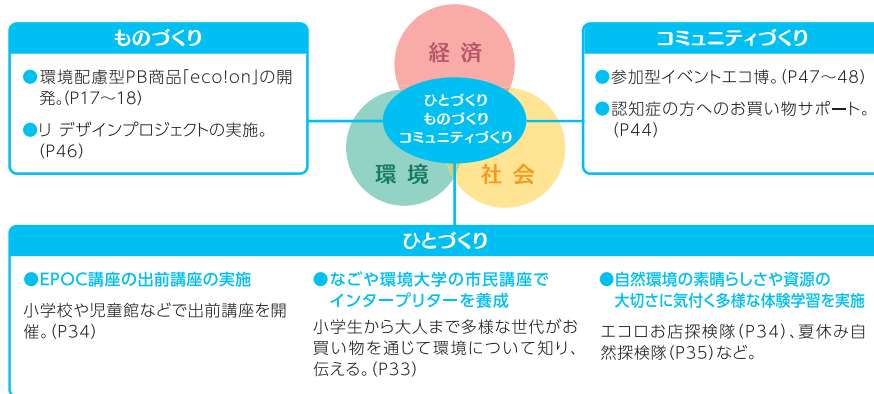
- サルの生態について体験学習

**インタープリター養成**

- お店探検隊やエコ博で案内役(インタープリター)を行ってくれる人材を育成

## ユニーの環境教育

ユニーでは、環境・経済・社会の調和を重視した、ひとつくり・ものづくり・コミュニティ作りを進めています。環境活動・社会貢献活動において、お客様、地域の方々、お取引様、従業員などが一緒になって持続可能な社会をつくることを目指し、そして、お店に皆が集う地域のコミュニケーションスペースとしての機能づくりにも取り組んでいます。



## 日々の暮らしからSDGs達成を目指す

ユニーが実践しているESDの中で、まず思い浮かぶのは「お店探検隊」です。2002年にスタートし、全店舗で実践されているプログラムです。例えば、子ども達が自宅から持参した使用済みのトレイやペットボトルをお店のリサイクルボックスに入れる。それらを原料にした「eco:lon」商品をお店で探す。子ども達が、地球の資源を何度も使うことの大切さに気づき、家族に伝え、行動に変化をもたらす。店員や社員は、子ども達の気づきや様子から、自分の仕事により誇りをもつ。お店につながる子ども、大人、店員、社員が一緒になって、有限な資源の循環を可能にしているESDプログラムです。そして、誰もが取り組むことができる学びと行動です。この日々の暮らしに結びつくプログラムは、SDGsにつながっています。今後もお店のリソースを斬新に活かしたSDGs達成に向けてのオリジナルESDプログラムの積極的実践を期待しています。



特定非営利活動法人 ボランティア・ネイパース 主任研究員 新海 洋子さん

## 地域ので伝える

地域に密着したスーパーマーケットのユニーは、地域の方々と一緒に活動を行っています。地域のNPOやボランティアなどと協同で地域の子どもの環境学習を行っています。

### ◆インタープリター養成講座

2007年からなごや環境大学で「お買い物で地球を守るインタープリター養成講座」を開催しています。地球に優しいお買物をテーマに、大人から子ども達までが、講座の中でお買物を通じて環境について知ってもらい、それを家族や友人などに伝えることを目的にしています。講座を卒業した受講生はユニーのエコ博やイベントで活躍するインタープリターとなっています。



スーパーの環境への取り組みやエコ商品学ぶ エコ博で活躍するインタープリター

### ◆環境紙芝居

2004年より名古屋学芸大学の学生さんと一緒に環境紙芝居を制作しています。肉声でお話を読むことで大人も子どもも家族で楽しみ、共感いただけるよう取り組んでいます。2018年は名古屋学芸大学に加え愛知教育大学と名古屋芸術大学3校により制作を行い、4作品を作品化予定です。



紙芝居を制作した名古屋学芸大学生



# エコロお店探検隊

2001年にたった1店舗からスタートした「エコロお店探検隊」も2017年には96回実施し、844名が参加しました。普段お買い物に行くスーパーマーケットでの環境の取り組みの工夫を知り、共感し、これからの持続可能な社会を生きる子ども達がグリーンコンシューマーとなることを望みます。

## 1 リサイクルの秘密を知ろう

### リサイクルボックス

飲み終わったり食べ終わったあとの容器をリサイクルボックスに持ってきてくれると新しいものに生まれ変わります。



### バイオマスプラスチック

バイオマスプラスチックは植物由来のプラスチック。野菜や果物、卵の容器として使用しています。



## 2 環境にやさしいお買い物をしよう

### eco!on商品

環境配慮型PB商品 eco!onの環境にやさしい秘密を知りましょう。



### 環境ラベル

文房具にも実は環境にやさしい商品が沢山あります。



### ピアゴエコクイズラリー

日常のお買い物に便利な食品の品揃えを中心とした「ピアゴ」のお店では、子ども達自身がお店を回りラリー形式でクイズに答えに行くことでユニーの環境の取り組みや環境に優しい商品を知ることができる「ピアゴエコクイズラリー」を実施しました。2017年には105回、2,162名が参加しました。



再生紙100%のトイレットペーパーを見つける子ども達



自分が出来るエコな行動を「エコ宣言」

### 自由研究応援隊

「お買い物からCOOL CHOICE」をテーマに夏休みの自由研究のヒントになる展示や実験、環境配慮型PB商品eco!onの紹介を行いました。



夏休み自由研究応援隊で展示

## 3 お店の裏側を探検しよう

### ゴミの計量体験!

従業員が働く、いつもは入れないお店の裏側では、ゴミを分別して計量しています。



### オリコン組み立て体験

段ボールを減らす取り組みとして、折りたたんで何度でも使える「オリコン」を使っています。



## 4 エコ工作にチャレンジしよう

### リサイクル工作

普通ならゴミになる物を材料にしてリサイクル工作で生まれ変わります。



任務完了!

# 地域社会へ出前授業

子ども達が分かりやすく学び、楽しく体験し、環境問題を身近な問題としてとらえる事ができるように出前授業を開催しています。

### ◆EPOC講座

EPOCは中部地区を活動拠点とする環境パートナーシップクラブ(EPOC)で業種や規模の垣根を越えた企業が集まり、地域社会で活動しています。ユニーが所属する「次世代交流分科会」では子ども達が分かりやすく学び、体験する講座を開きました。ユニーは「環境にやさしいお買い物」をテーマにユネスコスクールをはじめとする小学校、地域の児童館へ出前・見学講座を開催。



名古屋大学学童保育所ポピンズスクール

リサイクルの取り組みや、環境配慮商品、再生資源を使ったリサイクル工作を通じ、身近なスーパーマーケットでのお買い物が地球に優しいお買い物になることを伝えました。

### ◆地域へのお出前講座



桑田児童センター



名古屋土曜学習プログラム



春日井市立石尾台小学校



## 地球と仲良くなる

地域に密着したスーパーマーケットのユニーは、地域の方々と一緒に活動を行っています。地域のNPOやボランティアなどと協同で地域の子ども達の環境学習を行っています。

### 白川郷

アピタ・ピアゴ夏休み自然探検隊を開催し、「持続可能な社会」を生きる子ども達に、自然環境の大切さを感じてもらい、地球環境の中で強く生きていくための力を身につけてもらいたいと考え、2005年から継続して夏休み自然探検隊を開催しています。2017年は小学4年生～6年生24名が「つながろう自然と仲間と」をテーマに世界遺産白川郷で自然体験をしました。

#### 自然とのつながり ～資源やエネルギー生き物たちからの恵みを学ぶ～

**白川郷合掌集落 フォトウォーク**  
撮影テーマは「心のふる里 私のベストショット1,2,3」。白川郷の魅力を散策しながら見つけました。

森では、動物たちがかじった木の実も見つけました。

**森のお別れパーティー**  
火おこしに挑戦! ピザやサンドイッチを作り、自然探検隊で出会った仲間と、森の中で手作りパーティーを楽しみました。

**クギを一本も使わず、自然の材料で建てられた合掌家屋。**  
地元の人とふれ合い、先人の知恵を学びました。

**環境とエネルギーの実験**  
水力発電に挑戦! 班のみんなで協力し、小川の水流を利用して、電球を点灯させました。(自然エネルギーの実験)

**思い出ナイト**  
火を囲んで、2日間の思い出や自分の想いを語り合いました。

**テーブルマナー講習**

### モンキーサマースクール

2011年より公益財団法人日本モンキーセンターでサマースクールを開催しています。「ぼくの私の好きな生き物」をテーマに応募した23名と愛知県犬山市の日本モンキーセンターで生き物を思いやる心、自然や未来について考え、人間に一番近い生き物であるサルを通じて命の大切さを学びました。

いろいろなサルの生態を学び、知ることで、霊長類の多様性を学びました。

サル達の好きな葉っぱ集め体験や、おやつ作りを通して、サルによって食べ物の種類や大きさが違うことを学びました。

**鉄板に人工ダイヤの細かい粒をのせて、磨製石器づくりに挑戦!**  
道具を作る大変さを体感しました。完成した石器で、夕飯の肉を切りました。

**エンリッチメントの目的**  
●野生の暮らしに近づける  
●やってほしいこと／やってほしくないこと  
●いろいろな動物を自分で選べる

※エンリッチメントとは、飼育されている動物達が楽しく、豊かに暮らせるためのいろいろな工夫のこと。

## 循環型農業体験

店舗から出るキャベツの外葉や魚のアラなどの未利用食品を原料にして作った堆肥でお米や野菜を育て、店舗で販売しています。良い土から美味しい野菜が作られることを自分達で見て触って収穫の喜びを感じました。



【JAあいち中央】エコ堆肥を使った田んぼで田植え

【JAあいち海部】エコ野菜「落花生」の収穫

【三功】エコ堆肥を使用した畑でさつまいもを収穫



# コラボレーションで伝える

関連する事業者とコラボレーションし環境学習を行っています。地元の大学で富士山の水について知ったり、容器包装リサイクルの工場では様々なリサイクル体験学習を行いました。

## ◆中央化学株式会社

店頭回収した食品トレイを、ベンチにリサイクルしています。食品トレイがどのようにリサイクルされているか見学し、プラスチックの化学実験を行いました。食品トレイをリサイクルすることで石油資源の削減につながります。



店頭回収した食品トレイ

## ◆公益財団法人Save Earth Foundation

公益財団法人Save Earth Foundationの協力で森林散策・植樹・収穫体験を行いました。サンプスギの間伐や千葉県の木である「イヌマキ」の植樹や「ベビーリーフ」と「かぶ」の収穫体験し、自然の恵みと大切さを学びました。



子ども達で協力して植樹しました

## ◆丸富製紙(株)工場見学

丸富製紙では店頭のリサイクルボックスで回収した牛乳パックをトイレトペーパーにリサイクルしています。牛乳パックをリサイクルすることで森林を守ることに繋がります。



大きな原反ロールに驚く子ども達

## ◆常葉大学 ワークショップ

常葉大学の山田教授や大学生達によるワークショップを行い、水の循環や、水についての実験などにより富士山について学びました。



水の循環を学びました

## 環境教育

ユニーが環境大臣と交わしたエコ・ファーストの約束に「持続可能な社会構築のために、環境教育を実施します」と明記してあります。持続可能な社会を実現するために、従業員だけでなく、お客様や自治体、取引先、同業社にも、必要な知識や技術を習得するための講習や見学を行っています。

### 従業員教育

#### ◆新入社員教育

新入社員オリエンテーションでは、社員として必要な環境方針の理解や店舗・事業所での環境保全活動、地域社会貢献活動などの教育を実施しています。



#### ◆管理職教育

管理職に登用された社員には、それぞれの役割を果たすために必要な環境保全・社会貢献に関する法律や知識、技術教育を行っています。特に店舗の廃棄物・排水管理・エネルギー管理に関わる管理職には、法令遵守について講習を実施しています。



#### ◆ISO14001集合教育(本社・各地区営業部)

環境マネジメントの適正な運用と、部署や店舗の業務から環境側面を抽出し、環境実施計画を策定、目的目標を達成するために必要な力量を得るための教育を行っています。



#### ◆テナント・その他の従業員教育

店舗に出店しているテナントやそこで働く人達に、ユニーの行っている環境保全活動を理解し協力してもらうための教育を実施しています。特に廃棄物の分別計量システムや排水水質管理に関する教育は、店舗ごとにマニュアルやDVDを使って行っています。



### 社内コミュニケーション

#### ●従業員環境マニュアル

社内規定をまとめたポケットガイドに環境のページを設け、廃棄物分別などのマニュアルを記載しています。



#### ●新入社員テキスト

新入社員に対して基礎教育を行うためのテキストに、環境に関する基本的な事項や遵守すべき法令について記載しています。



#### ●社内報での情報の共有化

毎月発行する社内報に、環境・社会貢献のスペースを設け、会社や店舗での取り組み、成果などの情報を全従業員が共有し、従業員の環境意識を高めています。



### ユニーと一緒に環境教育

#### ◆店舗見学の受け入れ

消費者団体や環境市民講座などの店舗の環境施設や環境活動の見学を受け入れています。特に廃棄物分別計量や食品リサイクルループに関心が高いようです。



#### ◆環境関連事業者連絡会

ユニーと取引のある一般廃棄物や産業廃棄物、リサイクルなどに関係する事業者を集めて、毎年2回情報交換と環境関連法令、先進技術施設見学などの勉強会を開催しています。ユニーの目指す環境保全活動と同じ価値観で実施してもらうために行っています。



#### ◆愛知県議会環境委員会視察

本社所在地愛知県の県会議員がユニーの食品ロス対策について、店舗施設及び環境活動の視察と、意見交換会を行いました。



#### ◆海外からの見学

食品廃棄については世界中の大きな問題であり、ユニーの廃棄物分別計量システムによる削減・リサイクルに関しては、海外からも注目されています。



### 社外コミュニケーション

#### ●ホームページ

環境・社会貢献のページには、社内外の最新情報や、環境配慮商品の紹介、環境イベント情報などを掲載し、広く情報を開示しています。



#### ●環境壁新聞

店舗の環境掲示板には、ユニーの環境活動やイベントなどの情報や、エコライフスタイルに関する記事を掲載した「やさしくらしPress」を掲示し、消費者への生活提案を行っています。



#### ●環境教育用DVD

環境活動を紹介するDVD「食品リサイクル」「容器包装リサイクル」「生物多様性」を作成し、環境学習やイベントで上映し、消費者や関係者に理解と協力を促しています。



# ピック・アップ・エコストア

## 次世代都市型スマートシティ アピタテラス横浜綱島

「Tsunashima サステナブル・スマートタウン」(神奈川県横浜市)はパナソニック事業所跡地を開発した、住む、暮らす、働く、訪れる空間を複合的に構築し、「この街が、未来をつくっていく。Innovating the Future Together.」をコンセプトに、街に関わる企業や自治体、地域の方々が先進的な知恵・技術・サービスを掛け合わせイノベーションを育む、都市型スマートシティです。地域の持続的発展に貢献し、持続可能な開発目標SDGsの推進や政府が進める超スマート社会Society 5.0の実現に寄与するスマートタウンを目指しています。「まちづくり構想書」では持続可能な街の実現に向けて、CO<sub>2</sub>排出量の2005年度比40%削減、新エネルギー等利用率30%以上など先駆的な数値目標を設定しています。また、景観やデザイン、持続可能で快適な暮らしを実現するための規定、スマートサービスなどを定め、街全体が統一感を持ち運営されることが特徴です。



Tsunashima SST  
YOKOHAMA

サステナブルスマートタウン

### 1 スマート技術開発施設 (Apple)



### 2 タウンエネルギーセンター (東京ガスグループ)



### 3 プラウド綱島SST (野村不動産)

スマートタウンでの新たな暮らしを提案する次世代型レジデンス。次世代都市型スマートシティにふさわしい先進的な環境配慮や、情報活用による各種スマートサービスが享受できる集合住宅。

### 5 慶応義塾大学綱島SST国際学生寮 (慶応義塾大学)



日本の伝統文化と先進技術が融合し、共に暮らし・学ぶ価値を最大化する国際学生寮。タウン内でのイベントや住民とのコミュニケーションを通じて、これからの社会を担う心豊かな国際人を育成。

スマートエネルギーネットワークを実現する都市型エネルギーセンター。街の中心に位置し、街全体に低炭素で災害に強いエネルギーを提供。住宅含む複合街区での、コンパクトなエネルギー面的融通の合理的モデルを実現。

### 4 タウンマネジメントセンター (パナソニック)

「イノベーション」と「様々な交流」を生み出す拠点(国政学生寮1F)。街の様々なサービスや取り組みの中核を担うべく各タウンサービスのマネジメント拠点や災害支援拠点のほか、「イノベーションスタジオ」「エクステンジスタジオ」を設置。

### 6 水素ステーション (JXTGエネルギー)

これからの水素社会をリードする情報発信型水素提供フィールド。燃料電池自動車への水素供給を行うとともに、ショールームでは水素の特性や活用の取り組みについてわかりやすく紹介。





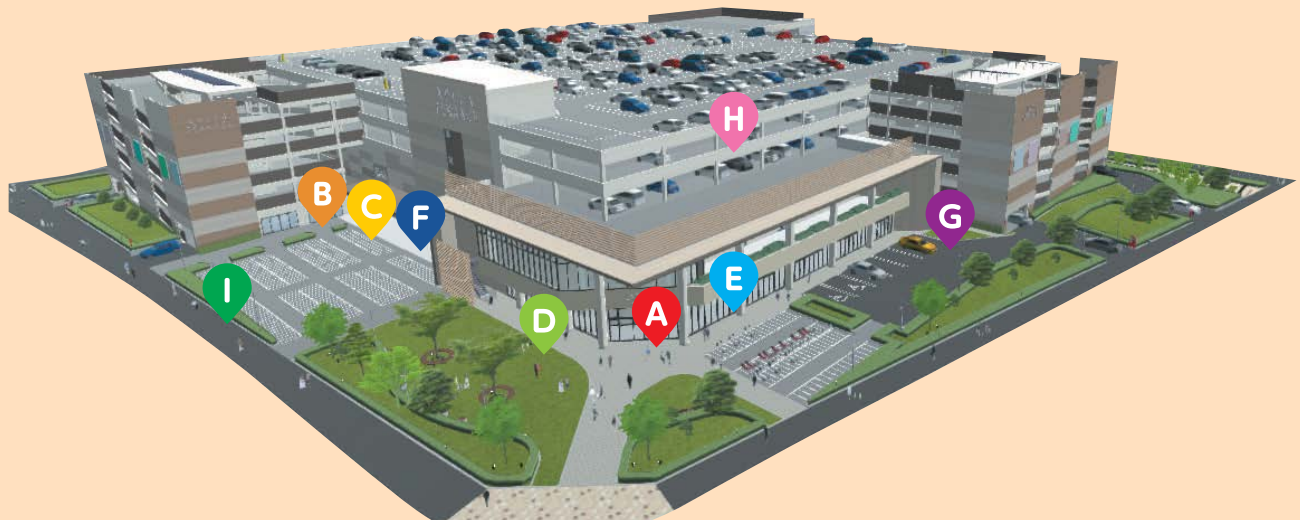
## 7 アピタテラス横浜綱島

2018年3月にオープンしたアピタテラス横浜綱島は、Tsunashima サスティナブル・スマートタウンの中心を担う環境配慮型次世代ショッピングセンターです。街を活用した先進的な実証を継続的に実施すると共に、地域の人たちが集う新たな情報発信・コミュニティ交流の場を創出し、地域の方々が集うコミュニティスペースを目指します。

### A Smart City Information Modeling (SCIM)



株式会社大林組が構築したスマートシティを発展していくためのさまざまなサービスを提供するプラットフォームで、3次元情報を駆使し、街全体をコンピューター上で詳細に再現することで、街のあらゆる面を「見える化」する。エネルギー、セキュリティ、花粉、紫外線などさまざまな情報を集約しサイネージに反映、屋内外3箇所のデジタルサイネージで配信。



### B 街受ロッカー



ネットスーパーでの注文商品を店舗設置のロッカーに配達。利便性向上に加え、配達効率の向上により、CO<sub>2</sub>と人件費の削減に繋げる。

### C 多言語翻訳システム



さまざまな国の方とのコミュニティツールとして活用。

### D 多機能防犯カメラ



人検知機能を搭載した多機能防犯カメラを設置。安心安全に加え、店舗の改善にも活用。

### E 天窓照明



空を見上げる感覚を得られる空間演出照明。空間へ明るさだけでなく、「開放感」と「活性感」を提供。店舗空間の価値向上や来店顧客の心理的効果の検証を実施。

### F ノンフロン冷蔵ケース



フロンガスを使用しない次世代型冷媒(CO<sub>2</sub>)を用いた冷蔵ケースを導入。

### G カーシェアリング



カーシェアリングを敷地内駐車場に設置し、エコで快適なタウンモビリティを提案。

### H 電気自動車充電スタンド



電気充電スタンドを設置し環境に優しい来店方法を提案。

### I サイクルシェア



電動アシスト付き自転車が、専用サイクルポートで自由に借りたり返したり乗り捨ても出来るサイクルシェアサービス。

### スマートシティの中心を担う店づくり



アピタテラス横浜綱島  
店長 佐藤 欣博

アピタテラス横浜綱島はパナソニック事業所跡地に開発された次世代都市型スマートシティ「Tsunashima サスティナブル・スマートタウン」の商業エリアに出店しました。

当店は環境に配慮した次世代ショッピングセンターとして、スマートタウンおよび地域の「食・健康・コミュニティ」醸成の中心を担う施設として、便利で快適な日常生活を提供するだけでなく、新しい価値を提供できる商業施設を目指します。

スマートシティならではの取り組みとしては、タウン全体でのエネルギーの見える化や屋外環境データを店舗のマルチメディアサイネージで発信。安心安全が広がるまちを目指して多機能防犯カメラ、外国人とのコミュニケーションツールとして多言語翻訳機、ネットスーパーの受け取りもできるマルチユースロッカーなどを導入しています。

また、地域住民のコミュニティを囲むことを目的とした地域貢献施設として、放課後学童クラブ、生きがい就労支援スポット、貸会議室を設置しています。

今後もスマートシティの中心を担う施設として、新しい価値を提供してまいります。

# 店舗での取り組み



ユニーの店舗では赤ちゃんから年配の方まで、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、すべてのお客様が快適にお買い物を楽しんでいただけるように、店内のさまざまな工夫をしています。また、地域の方々の協力の下、「地球にやさしいお買い物」を進め廃棄物の削減・分別の実施、環境にやさしいプライベートブランド商品の販売などに努めています。その他、大規模災害時には避難拠点としてご利用いただけるよう一部店舗には防災設備を導入し、地域の方々が集うコミュニケーションスペースを目指します。

(※掲載設備は一部店舗で設置の場合がございます)

## 環境に配慮した設備や工夫

“環境に配慮した店づくり”を目指しているユニーの店内では、ゴミの減量、リサイクルや省エネを推進するため、さまざまな設備を用意するとともに、販売方法にも工夫をしています。特にお客様とともに進めるゴミの減量に関しては、お客様が利用しやすいように、リサイクルステーションのほか、各所に分別ゴミ箱を設置しています。

### 1 リサイクルステーション

牛乳パックをはじめ、アルミ缶・トレイ・ペットボトル・バイオマスプラスチック製卵パックなどお客様のお買い上げ後にゴミになるものを回収し、リサイクルしています。



### 2 分別ゴミ箱

店内各所に「燃やせるゴミ」や「燃やせないゴミ」など分別するためのゴミ箱を置き、ゴミを分別回収しています。



### 3 環境配慮型PB商品eco:lon

原料・製造工程・使用時・容器包装廃棄時などの環境負荷を低減した環境に配慮した商品を開発・販売しています。



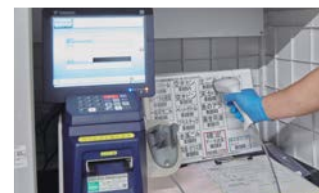
### 4 情報の開示

ユニーの取り組みをポスターなどで紹介・報告しています。



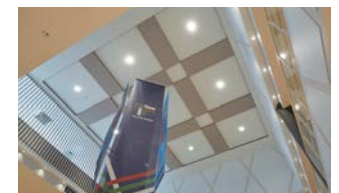
### 5 廃棄物計量システム

各売場やテナントから排出される廃棄物を分別し、計量することにより、減量やリサイクルの促進を図ります。



### 6 LED照明

屋外、屋内の照明にLEDを採用。消費電力を大幅に削減し、CO<sub>2</sub>の排出を抑制します。



### 7 太陽光発電

屋根の上や外壁に太陽光パネルを導入。太陽光で電気をつくり、得られたエネルギーを館内でも使用しています。現在の発電量をモニターで確認することができます。



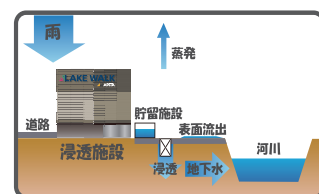
### 8 壁面緑化

外壁に壁面緑化を導入。ヒートアイランド対策と断熱効果があり建物の温度上昇を抑え、空調使用量の削減にもつながります。



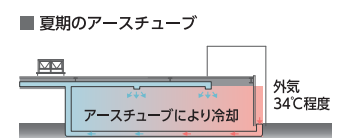
### 9 雨水浸透施設 (レイクウォーク岡谷)

敷地外に放出される雨水量を25%削減しています。地下水の保全、平常時の河川流量の確保、洪水の防止を図っています。



### 10 クール・ヒートレンジ (ピアコ曇江)

地中熱を利用して行う空調。店内に冷えた新鮮な空気を送ることができ、空調による電力使用量を約1.8%、施設全体の年間CO<sub>2</sub>排出量を約0.6%削減します。





## バリアフリー新法

ユニーはすべてのお客様に快適にご利用いただける店づくりに取り組んでおります。バリアフリー新法とは、「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」で、平成18年12月20日に施行されました。



## 大規模災害への備え

大規模地震や災害が発生した時に地域の避難拠点として利用いただける設備を設置しています。

### かまどベンチ



非常時の炊き出しに利用できるベンチです。

### 災害用トイレ



災害時

スツールの中に便器が収納されているので組み立てて使用します。

## ユニバーサルデザイン



### 11 多目的トイレ

車椅子でご利用いただけるトイレです。また、妊婦の方やお年を召した方もご利用いただけます。



### 12 車椅子の無料貸し出し

店内でご利用いただける車椅子をご用意しています。



### 13 優先エレベーター

混雑時などに車椅子の方が優先的にご利用いただけます。音声案内・点字表示をし、低い位置に操作ボタンを付けました。



### 14 段差のない入り口

駐車場と店内の段差にはスロープをつけ、公道入り口から各玄関まで誘導ブロックを設置しました。



### 15 おもいやり駐車場

入り口の近くに、おもいやり駐車場を設置しました。体の不自由な方、高齢者の方、妊産婦の方など優先の駐車場です。



## お子様連れの方への配慮

### 16 小さなお子様の遊び場

小さなお子様に安全に遊んでいただけるように、床や遊具にソフトな素材を使用した遊びのスペースを設けています。



### 17 ベビー休憩室 (赤ちゃんルーム)

お子様の授乳やおむつ替えにご利用いただけるベビー休憩室 (赤ちゃんルーム) を設けました。



### 18 子ども用トイレ設備の設置

男性用トイレにもベビーシートを設置したり、子ども専用トイレを設置しました。



子ども専用トイレ

## よりよく利用していただくためのサービス・工夫

### 19 アピタのおいしい水

飲料やお料理に使用していただける水を提供する浄水機を設置しました。



### 20 危険防止の工夫

危険防止のために、店内の階段には手すりを付け、足元に誘導ブロックを設置しました。



### 21 電気自動車充電スタンドの設置

地球温暖化防止の取り組みとして、電気自動車用充電スタンドを設置しました。お買い物しながら充電ができます。



### 22 ファミリーマートサービススポット

ファミリーマートのPOSレジやマルチコピー機、マルチメディア端末[Famiポート]を設置し、宅配便の取次や公共料金などの各種支払、チケットなどのサービスを提供いたします。



# 社会貢献・地域貢献



ユニーは地域の皆様や企業、自治体、NPOなどと一緒社会貢献、地域貢献活動を推進しています。今後も地域のコミュニティとしての役割を果たしながら、誰もが安心してお買い物をしていただける店舗環境を整備していきます。

## お買い物を通じた環境・社会貢献

ユニーとメーカーが協働でお買い上げに応じた寄付をする「ドネーション企画」は、お客様の思いを社会貢献や自然保護に役立て、メーカーと消費者を結びます。

### ◆盲導犬育成キャンペーン

ユニーでは日清ペットフード商品の売り上げの一部をお客様に代わり「認定NPO法人全国盲導犬施設連合会」に112万円を寄付させていただきました。また店舗でもパトラッシュ募金箱を設置し、お客様から280万円の寄付が集まりました。店舗でのパトラッシュ募金額が累計1,000万円を超え今後も盲導犬育成に協力していきます。



感謝状を受け取る佐古社長

### ◆日本ハム自然体験ツアー

日本ハム商品をキャンペーン期間中にお買い上げいただいたお客様を招待し、大自然の中で親子で火おこしや森の溪流探検を体験していただく自然体験ツアーを開催しました。



みんなで協力して川を上りました

### ◆未来に心がつながる!絵本プロジェクト

2012年から花王と協働で、東日本大震災復興応援企画「未来に心がつながる絵本プロジェクト」を実施し子ども達に絵本を贈っています。2017年3月28日～5月1日までの期間に、花王対象商品をお買い上げ1点につき1円を積み立て、総額約106万円で、保育園、幼稚園、小学校などに約750冊の絵本を贈りました。



学校法人愛泉学園認定こども園 千歳小羊幼稚園 絵本贈呈式



絵本をもらって喜び子ども達

### ◆ハーゲンダッツアイスクリームで玩具をプレゼント

2015年からハーゲンダッツと協働で復興応援企画を実施しています。2017年12月の1ヶ月間にアイスクリームお買い上げ1点につき1円を積み立て、359,086円で熊本県の高木保育園と、宮城県のNPO法人へ玩具を贈りました。



熊本県御船町高木保育園



玩具で遊ぶ子ども達

## エコとお買い物券プレゼント企画

家庭で不要になった衣料品や羽毛布団を回収し、リサイクルしています。衣料品や羽毛布団をお持ちいただいたお客様に割引券として使用できるエコとお買い物券を差し上げています。1枚の使用で割引金額の1%を緑化活動や熊野古道の保全活動に寄付しています。



エコとお買い物券

### ◆エコとお買い物券使用実績と寄付金額

	寄付金(円)	寄付先
2017年度	1,560,000	公益財団法人 Save Earth Foundation

## 羽毛布団リサイクルで熊野古道保全活動

ユニーの寝具取り扱い全店にて、家庭で不要になった羽毛布団の下取り回収を行い、羽毛をリサイクルする取り組みを実施しました。この下取り収益金と、回収枚数に応じて配布した円引き券利用1枚につき割引金額の1%を積み立て、熊野古道をはじめとする世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の環境保全に役立てる取り組みを行いました。多くのお客様のご協力により和歌山県世界遺産協議会へ40万円、東紀州地域振興公社へ35万円を寄付し、熊野古道伊勢路保全活動体験ツアーや参詣道保全活動(道普請 みちづしん)等に活用します。

また、羽毛布団はエコランド(有)へ回収され、河田フェザー(株)が洗浄し、再生した羽毛を「グリーンダウン」としてリサイクルします。

これにより羽毛の安定供給、環境保全(資源の有効活用、焼却処分にとまなうCO<sub>2</sub>の排出抑制)などに貢献します。



店舗での羽毛布団下取り回収



熊野古道の清掃活動



道普請を行ったアピタ薬名店の皆さん



「タコ」(専用の道具)で道をならす



## エシカルなお買い物

アピタ・ピアゴの店舗でフェアトレード商品を取り扱い、販売することで生産者の生活改善や自立、生産地の環境保全などを支援したいと考えています。

2013年から毎年、名古屋市内の店舗でフェアトレード名古屋ネットワークや名古屋市、学生ボランティアとの協働でフェアトレード推進に取り組んでいます。2018年は東海三県一市グリーン購入キャンペーンでNPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク代表の原田さとみさんのトークショーやパネル展示などを行いました。ユニーはフェアトレード商品を品揃え・販売することで、お客様はその商品を選んで購入することで、生産地の子ども達を助けるフェアトレードを支援できることを伝えました。



フェアトレードについて講演する原田さとみさん



フェアトレード商品



### お買い物からフェアトレードを考える

フェアトレードとは、「公平・公正な貿易」のことで、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易のしくみです。フェアトレードチョコレートはオーガニック認定農家より厳選したカカオ豆のみを使用したチョコレートで、ミルク・ダークなど中心に様々な香り・風味を楽しめる商品も多くあります。ユニーでは、生乳を使った製法で作った濃厚な味のミルクチョコ「キャドバリー デイリーミルクバー」などを取り扱っており、これらの活動を継続的に取り組んでいます。



食品本部 ドライ食品部  
部長 勝野 真二

## 地域貢献活動

ユニーの店舗は「地域のコミュニティセンター」として、公職選挙の投票所や地域イベント開催、ボランティア活動の拠点など「地域活動の場」の提供や、活動を推進しています。また、店舗の外に出て、公共施設や講演などで環境啓発活動や地域支援活動を行っています。

### ◆クリーンキャンペーン

ユニーでは毎日店舗周辺の清掃活動を行っていますが、6月と10月の環境月間には、通学路や、公園、遊歩道など範囲を広げて一斉清掃を行なっています。本社はグループ会社も参加して地域の清掃活動を行っています。



ごみゼロ運動いなざわを本社で実施



本社周辺の清掃



アピタ岡崎北店 クリーンキャンペーン

### ◆環境デーなごや(愛知県名古屋市)

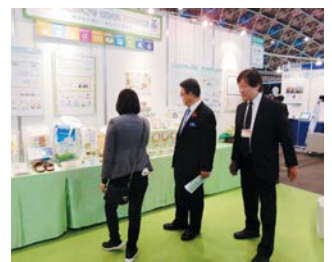
名古屋市と企業・市民団体が共同で、楽しく環境について学んだり体験を通して、生活をエコにする啓発イベントです。名古屋市は環境に関心のある市民が多く、ユニーの環境紙芝居には、小さなお子さんから高齢者まで、たくさんの方が集まりました。



市民に紙芝居を読む大学生

### ◆メッセナゴヤ2017環境展示会

名古屋市商工会議所主催の日本最大級 異業種交流展示会 メッセナゴヤ2017にユニーは環境をテーマに出展しました。国が進める「持続可能な開発目標(SDGs)」は、お買い物での商品選びや、3R行動で実践することなどに関係することを多くの市民に知っていただきました。



SDGsの展示をみる大村愛知県知事(中央)

### ◆健康フェアを開催

稲沢市とユニーグループ健康保険組合共催で、「いきいきいなざわ健康フェスタ」をリーフウォーク稲沢で開催しました。お買い物に来店された参加者の皆さんは自分の体の状態を知り、生活習慣病予防や食事についてアドバイスをうけました。塩分測定コーナーではユニーオリジナル減塩商品を紹介しました。



自分の体の状態をチェック

### ◆AJU自立の家・車いすセンター、小牧ワイナリーの支援

1982年より支援を続けている「AJU自立の家・車いすセンター」に2017年度は60万円を寄付しました。また、障がい者就労支援施設で栽培したブドウを醸造したワインを店舗やエコ博で販売しています。ユニーはこれからもワインの販売を継続し、消費者に購入いただくことで支援を続けます。



AJU自立の家の皆さんと佐古社長

## 地域のNPO・企業とのコラボレーション

ユニーはNPOや地元企業のボランティアと、お客様の家庭で不要になった衣料品を回収しています。回収した衣料品はNPO法人日本救援衣料センターを通じて、アジア・アフリカに送りました。

### ◆衣料回収実績

実施日	衣料回収店舗	協力機関	衣料回収量(t)	衣料提供者人数(名)
2018年5月30日	アビタ千代田橋店	名古屋を明るくする会 NPO法人日本救援衣料センター	10	200
2018年6月 2日	アビタ安城南店	デンソーグループハートフルクラブ	7	301
2018年6月 9日	アビタ刈谷店	デンソーグループハートフルクラブ	10	316



デンソーハートフルクラブの皆さん



アビタ刈谷店での海外支援衣料回収活動



アビタ千代田橋店 名古屋を明るくする会

## 地域の緑化活動を支援

地球温暖化を防ぎ、ますます気温が高くなる夏の暑さを緩和するためには、地域に緑を増やすことが有効です。植樹や花壇整備など地域の緑化活動を支援し、地球温暖化防止と緑地の生物多様性に貢献しています。

### ◆名古屋市名城公園 花の山プロジェクト

名古屋市名城公園・花の山エリアにある「ユニーの花壇」を市民ボランティアと一緒に花植えをしたり雑草を駆除したりする活動を行っています。小さな子どもも家族と一緒に参加していただいております。花の苗などの費用は名古屋市店舗のレジ袋有料化による収益金の一部を利用しています。



花植えをするボランティアの親子

### ◆大垣市「レジ袋市民の森」活動

アクアウォーク大垣には大垣市環境市民会議との協働で作上げた「レジ袋市民の森」があります。大垣市環境市民会議、岐阜県園芸福祉協会西濃支部協会の市民が「グリーンサポーター」として木や花の管理に活躍しています。



グリーンサポーターの皆さん

## 募金活動

### ◆WFP(世界食糧計画) 支援活動

ユニーは食品を扱う企業として国連WFP協会に加盟し、従業員を対象にワンコイン募金活動を実施しています。本社や店舗では毎月第一日・月曜日にポケットのワンコインを募金してもらい、開発途上国の子どもの給食プログラムに贈っています。2017年度は約130万円寄付しました。



エコ博でブース展示

### ◆世界の医療団～スマイル作戦キャンペーン～

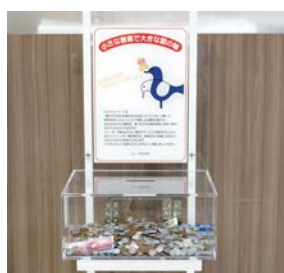
先天性の病気やけが、戦争などで顔に傷を負った発展途上国の子供達に医療支援をすることで笑顔を贈る活動です。2017年度には21店舗で開催し、320名が参加して、子ども達にメッセージを贈り、260万円(年間)の寄付金振り込みの手続きをしていただきました。



店頭で取り組みを説明

### ◆愛の1円玉募金

店頭で「愛の1円玉募金箱」を設置し、お客様・取引先様から善意のお金を募っています。2017年度は全店合計約100万円になりました。集まった募金は地域の社会福祉協議会などに寄付し、地域のために活用されています。



愛の1円玉募金箱

### ◆UNHCR(国連難民高等弁務官事務所) 支援活動

宗教や人種、政治的な立場が異なるという理由で迫害を受け、内戦や生命さえ脅かされて故郷から逃げ、他国に避難した難民の方々が安心して暮らすに帰れるように支援活動を行っています。2017年度は24店、428名が988万円(年間)の寄付振り込みの手続きをしてくださりました。



店舗で活動の様子



# 誰もが楽しく安心してお買い物をしていただける店舗づくり

## ◆ユニバーサルデザイン店舗調査

障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)が2016年4月に施行され、障がいのある相手の立場や気持ちに配慮して、可能な範囲で柔軟に対応する必要があります。ユニーでは高齢者の方、障がいのある方、妊婦の方、小さい子ども連れの方、外国人の方などを含む、誰もが楽しく安心してお買い物をしていただける店舗づくりを推進します。ユニバーサルデザインのコンサルティング会社ミライコ協力の下店舗設備の調査を行い、今後の店づくりに活かしていきます。



レジの高さを調査



駐車場の幅の調査

## 高年齢者や認知症のお客様のために

### ◆認知症買い物セーフティーネット

ユニーでは認知症の方にも安心してお買い物を楽しんでいただけるようにサポートしています。従業員に認知症への理解と見守りの役割を担ってもらうための教育を行い、店内での困りごとや対応で支援しています。現在59店舗で認知症サポーター教育を実施し、サポーター人数は約4,200人になりました。今後も自治体やNPOと連携し、啓発イベントや認知症サポーター教育を行い認知症の方を支援する体制を整えていきます。



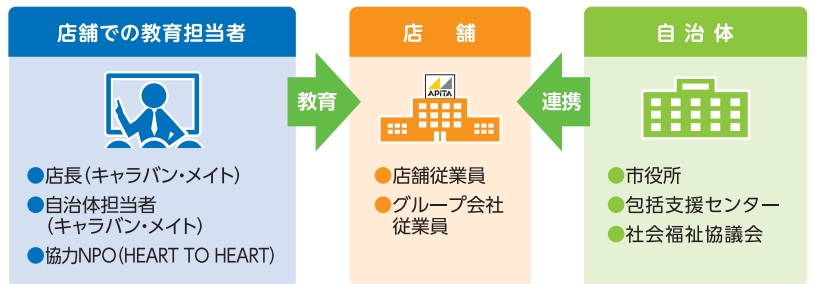
店舗で認知症サポーター教育を実施



認知症に関するアンケートを実施

### ◆認知症買い物セーフティーネット店舗(ユニー独自の規定基準)

- 店長が規定の教育を受けた認知症サポーターである。
- 店舗の従業員の中に認知症サポーターがあり、今後も積極的に認知症サポーターを増やすための教育を行っている。
- 店舗がバリアフリー法認定施設である。
- 地域のお客様に認知症について理解してもらうための啓発イベントに積極的に取り組んでいる。
- 自治体、地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携し認知症のお客様への対応ができる。



### ◆認知症カフェ(オレンジカフェ)の開催

認知症カフェ(オレンジカフェ)は認知症の方やご家族、地域住民、認知症に関心のある誰もが気軽に集まって仲間づくりや情報交換を行う拠点です。

認知症と診断された方やその家族はどこで相談できるかわからない初期ケアの解決にもつながるため、ユニーの店舗を利用して今後も認知症カフェ(オレンジカフェ)を開催していきます。



アピタ千代田橋店でオレンジカフェを開催



#### 店舗でオレンジカフェを開催

本庄市の65歳以上人口は27%を超え、高齢化に伴い認知症の方も増えています。

アピタ本庄店では本庄市介護福祉課、本庄南地域支援センターの協力の下「認知症サポーター養成講座2018」

を実施しました。また、2018年1月よりフードコートの一画を開放し、「オレンジカフェ」の定例開催をスタートいたしました。オープンなスペースで「毎月定例開催することで安心してお買物も楽しんでいただける取り組みを行っています。今後も本庄市、地域包括支援センターと連携し地域貢献に取り組んで参ります。



アピタ本庄店  
店長 森山 修



#### 認知症買い物サポートを支援

2018年3月から、フードコートの一画をお借りして、月1回の認知症カフェ「オレンジカフェ日回家」の取り組みが、アピタ東海荒尾店・アピタ千代田橋店にて始まりました。認知症カフェは、国の施策にも掲げられていますが、お店の中での設置はとてとても画期的で、新聞やテレビなどでも取り上げていただきました。買い物がてら気楽に行けて相談もできると、お客様からもとても好評です。



NPO法人  
HEART TO HEART 代表  
尾之内 直美さん

## 被災地支援活動・防災活動

日本列島は地震や津波、異常気象による大雨や突風などで、各地に甚大な被害をもたらされています。ユニーは被災地の方々への支援活動として、お買い物を通じたお客様からの善意をお届けしました。

### ◆あそぼうさい

自治体や市民ボランティア、NPOの協力で地震や台風、大雨などの自然災害時、いざという時、子どもや大人が災害時に役立つ「ワザ」を遊びながら楽しく学べる防災イベントを店舗で開催しました。



あそぼうさい 災害持ち出しリュックをつくってみよう (リーフウォーク稲沢)



防災イベント ママポーチを作ってみよう (アピタ大府店)



あそぼうさい イベント (ヒルズウォーク徳重)

### ◆みちのく未来基金

東日本大震災で親をなくした子ども達の進学を支援する為、2012年から10年間みちのく未来基金に参加しています。2017年には87名の高校生が希望の道を歩み始めました。



「門出の会、旅立ちの会」

### ◆ベルマーク運動

2012年の開始より7回目となるベルマーク運動を行い、東日本大震災被災地の子ども達に文具を贈りました。2018年2月1日から2月28日の期間で約71万点が集まり、寄贈しました。サービスカウンターに回収箱を置いてお客様に呼びかけのほか、事務所や休憩室にも箱を置くなど、従業員も一緒に取り組みを行っています。



ベルマークを寄贈するキリンビバレッジの皆さんとユニー

### ◆災害義援金募金活動

ユニー・ファミリーマートホールディングスの従業員とお客様から、台湾東部地震の義援金を花蓮県政府社会局へ、西日本豪雨災害義援金を日本赤十字社へ寄託しました。今後も大規模災害の際には義援金募金活動を推進してまいります。



店頭での募金活動

## “お客様の声”人にやさしく、環境にやさしい店づくりのために

### ◆お客様の声がユニーを変えます。

ユニーでは各店舗に「お客様の声のポスト」を設置しています。ポストには店舗施設や商品・サービスなどさまざまなご意見ご要望、お問い合わせ、またご指摘やお叱りの言葉が寄せられています。これらの「お客様の声」には店長が必ず回答し、店舗施設や商品、サービスなどに反映させております。ポストに寄せさせていただいた「お客様の声」は、地域のお客様のより良い生活を築いていくためのメッセージであり、ユニーの羅針盤でもあります。これからも、お客様からのメッセージを真摯に受け止め、お客様に支持され期待される店づくりに努めてまいります。



お客様サービス メンバー

環境、社会貢献に対してのご提案、ご要望など貴重なご意見もいただいております。今後の取り組みの参考とさせていただきます。また、お客様よりいただく心温まるお褒めの言葉は、従業員一同の更なる励みとしてありがたく思っております。

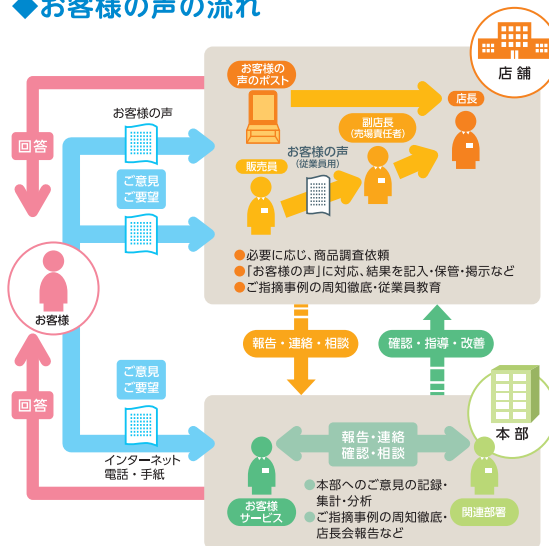
### ◆お客様の立場でさまざまな改善に努めています

お客様からお寄せいただきましたご意見、ご要望、ご質問などのうち、全体的な内容につきましては店舗から本部へ報告され、毎週とりまとめたうえで本店内、各地区本部、関係部署へフィードバックされ商品開発や品揃え、売場づくりやサービス改善に活かされています。こうしてお客様の声が全社の改善につながるのです。お客様サービス担当は、年中無休でお客様の声をお聞かせいただけるよう対応しております。よりたくさんのお客様の声を聞き、なおいっそう従業員の意識を高め、お客様に気持ち良くお買物をしていただけますように努めてまいります。

内容	件数	構成比
ご意見・ご指摘	2,240件	61%
お問い合わせ・ご要望	1,381件	37%
お褒め	69件	2%

※データは2017年2月21日～2018年2月20日(ユニー本部受付分)のもです。

### ◆お客様の声の流れ





# Re DESIGN PROJECT (リ デザイン プロジェクト)

エシカルなものづくり「リ デザイン プロジェクト」は「地球」「若者」「障がい者」そして買ってくださる「お客様」がつながります。

規格外製品や端材などの循環資源を繊維商社や企業などからご提供いただき、それらを使ってデザイン学校の生徒達がデザインします。商品は地域の障がい者施設の方々に生産していただき、ユニーの店舗で販売します。お買い物を通じてつながりあい、地域貢献・社会貢献をすることができます。リ デザイン プロジェクトは、作り手と使い手の「商品と使い手」をみんなでつなぐ環です。

ユニーはリ デザイン プロジェクトで持続可能な社会の構築を行い、SDGsの目標達成に貢献します。



## 素材 地域未利用繊維素材の「ものづくり」

- 愛知県尾張地方の地域未利用繊維素材を使用し製品化
- 繊維業者の開発担当者が学校を訪れ若者達に教育を実施
- 使われない素材を再びものづくりの舞台に上げ、魅力ある製品を生み出す

### ●25社5組合協力 (今まで協力していただいた企業・団体)

(株)板倉産業、(株)イノアックコーポレーション、(株)イノアックリビング、(株)ウエストボックス、オパレックス(株)、首飾(株)、CANTON、かきもと(株)、陸山(株)、清原(株)、興和(株)、タキヒョー(株)、(株)高正商店、田宮服飾(株)、(株)テクスワン、(株)テクノフォームジャパン、(株)東新化工、豊島(株)、パール金属(株)、丸安ニット(株)、三ヶ日工業(株)、プランニングオフィス・ラグーン(株)、和吾毛織(株)、日本毛織物等工業組合連合会・岐阜県毛織工業組合・津島毛織工業組合・尾西毛織工業組合・尾北毛織工業組合、名古屋毛織工業組合、一般財団法人カケンテストセンター、(株)パンサー



審査会の様子



企業・団体からの生地提供

## デザイン 若者の「才能の発掘と発表の場」

- 若者は障がい者の限られた技術を理解し制約のある中でデザイン
- 近い未来である就職後のものづくりを体感する



ユニー大賞を受賞した学生と 佐古社長



表彰式

- 愛知文化服装専門学校
- 岡学園トータルデザインアカデミー
- 成安造形大学
- 中部ファッション専門学校
- 名古屋学芸大学
- 名古屋コミュニケーションアート専門学校
- 名古屋ファッション専門学校
- 名古屋モード学園 8校344名参加

## 販売 品質基準を満たすエシカルな商品

- ユニーの品質基準を満たすため検査機関で確認
- 若者のデザインと障がい者の技術を踏まえ、パイヤーが商品化指導
- ユニーは商品を販売し消費者は購入することでエシカルなお買い物につながる

- アピタ稲沢東
- アピタ長津田
- アピタ東海荒尾
- アピタ知立
- アピタ千代田橋
- アピタ江南西
- アピタ長久手
- アピタ木曽川
- アピタ安城南
- アピタ北方
- アピタ名古屋南
- アピタ豊明
- アピタ静岡
- 13店舗



## 生産 福祉と若者のコラボレーション

- 障がい者が技術を学びながら働く福祉施設にものづくりを託す



コンテスト説明会にて 施設や縫製技術について説明



表彰式での交流



生産者風景

- 障がい者就労継続支援B型事業所 chord
- 障がい者就労継続センターあいさんハウス
- 社会福祉法人すぎな作業所えがお
- 愛知自立支援センターともこー
- 社会福祉法人あさひ会 守山作業所
- 社会福祉法人 名古屋身体障害者福祉連合会 名身連第一ワークス・第一デイサービス 等

これまで  
約1万名が  
社会貢献に参加

- 繊維業者やメーカー 28社 ..... 未利用繊維素材が再びものづくりに活かされることを知る廃棄予定の約1万m、約3tの素材を使用
- 若者8校 2,694名 ..... 若者の才能の発掘と発表の場の提供、素材や技術制約のある中でものづくりを知る
- 障がい者支援施設 239名 ..... 障がい者就労機会提供。エコな素材で自分たちの技術が活用され、働きがいを知る
- アピタインターネットショッピング・ユニー13店舗 ..... 品質基準を満たすエシカルな商品づくりの責任を果たす
- 消費者 4,974名 ..... 普段のお買い物のエシカルなお買い物になることを知る

## 愛知県主催「2018愛知環境賞」優秀賞受賞

愛知環境賞は、愛知県が主催となり2005年より実施し、循環型社会の形成を促進することをねらいに、環境負荷低減に先駆的で効果的な技術や事業などを表彰する制度のことです。未利用の繊維素材を活用し、学生によるデザインと福祉施設でのものづくりを融合した地域社会に根ざした循環プロジェクトに取り組んだことは、環境意識の向上と地域の環境活動の推進に大きく貢献するもの、と評価され、受賞しました。



表彰式にはタキヒョー(株)滝澤社長、興和(株)五藤様、津島毛織工業協同組合(日本毛織物等工業組合連合会)安達様にもご出席いただきました

## 環境省主催 第1回 グッドライフアワード特別賞受賞

グッドライフアワードは、環境への負荷をより少なくし、「よい暮らし」実現のためのアイデアや仕組みを表彰するアワードです。リ デザイン プロジェクトが評価され、第1回「グッドライフ特別賞」を受賞しました。



表彰状

※企業、団体、学校は順不同

## お店でエコライフを体験できるエコ博



ユニーでは、全国のモールや大型ショッピングセンターで地球にやさしいライフスタイルの体験ができる【エコ博】【エコフェスタ】を開催しています。普段お買い物に訪れるいつもの店で【エコ博】を開催することにより、環境に興味のある方も、そうでない方も、大人も子どもも楽しみながらエコライフを知り、体験していただけます。

【エコ博】では一般のお客様がお買い物をきっかけに、環境に興味を持っていただけるよう楽しく学べる展示やエコ工作、ステージイベントを行っています。未来の地球をまるごととっておくために、今一人ひとりができることを考え、行動につなげるきっかけになるよう活動しています。

また、環境活動を積極的に推進している地域に根差した団体様、企業様とパートナーシップを大切に定めることにより【未来に地球をまるごととっておく】というメッセージをより強く発信できることになると考えています。



## エコ博 テーマ:SDGs



一般のお客様にSDGsを知っていただき、ひとりひとりのゴールを決めて宣言をしていただきました。SDGsを自分事ととらえ、行動するきっかけになるよう呼びかけました。



### リーフエコ博(2018年6月2・3日)

### アquaエコ博(2018年6月30日・7月1日)



ユニーの展示ブースでSDGsを説明



山崎製パン エコプロダクツの紹介



ライオン 節水・つめかえ商品の紹介



大垣市環境市民会議 紙漉き体験



キリン 容器包装削減の取り組み



明治 リターナル瓶を使った宅配の紹介



劇団シンデレラ SDGsミュージカル



花王 いっしょにecoの紹介



## 91社の行政・企業・団体・NPOと協働で実施しました

\*行政・企業・団体・NPOは順不同

### ◆行政

静岡県くらし環境部環境局 / 静岡市環境局環境創造部環境総務課 / 静岡市環境局ごみ減量推進課 / 山梨県 森林環境部 / 山梨県 エネルギー局 / 甲斐市 環境課 / 山梨県地球温暖化防止活動推進センター(公益財団法人 キープ協会) / 長岡市 / 新潟県地球温暖化防止活動推進センター / 白山市役所 / 神奈川県 / 横浜市 / 岐阜県環境生活部環境管理課 / 岐阜県環境生活部廃棄物対策課 / 御高町役場 / 名古屋市環境局環境活動推進課 / 名古屋市環境局環境企画課 / 名古屋市環境局2R推進実行委員会 / 三重県環境生活部地球温暖化対策課 / 三重県環境学習情報センター / 富山県 / 愛知県環境部環境活動推進課

### ●企業

ライオン(株) / 花王グループカスタマーマーケティング(株) / 丸富製紙(株) / (株)富士川クリーン / 朝日酒造(株) / 福井テレビジョン放送(株) / 協栄産業(株) / (株)テレビ神奈川 / 日本環境設計(株) / 井村屋(株) / 味の素AGF(株) / キリン(株) / (株)昭和 / (株)パックタケヤマ / 富士特殊紙業(株) / (株)明治 / 大日本印刷(株) / 中央紙器工業(株) / 山崎製パン(株) / いそ(株) / 珈琲工房ひぐち / 富山テレビ放送(株) / 北陸電力(株)

### ●団体

ストップ温暖化しずおか / 全国盲導犬施設連合会 / 静岡市一般廃棄物組合連合会 / 静岡一般廃棄物処理業協同組合 / 静岡リサイクル事業協同組合 / 公益財団法人 静岡県産業廃棄物協会中部支部 / 一般社団法人 清水資源リサイクル協会 / 一般財団法人 静岡市環境公社 / しずおか市消費者協会 / 公益財団法人 やまなし環境財団 / エコ環境練馬甲斐 / 認定NPO法人 スペースふう / 富士山こどもの国 / 富士サファリパーク / サガノユウキ / かみもち / 新潟地方気象台 / 金沢エコライフくらぶ / アースサポーター福井会 / 福井市環境推進会議 / 福井小水力利用推進協議会 / 特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会 / 愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company部 / 公益財団法人 日本環境協会エコマーク事務局 / 生ごみ出さないプロジェクト / 劇団シンデレラ / ミニ天井 / 名古屋市立工芸高等学校 / 東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会 / 東海子どもの本ネットワーク / NPO法人もりの学自然学校 / いまいせ心療センター / AJU自立の家 / グリーンダウンプロジェクト / 名古屋商工会議所 エコワークキング / 人と動物の共生センター / 富山市カーボンオフセット運営協議会 / 公益財団法人 環日本海環境協力センター / 公益財団法人 とやま環境財団 / 国立立山青少年自然の家 / 岐阜県園芸福祉協会西支支部 / 竹竹パンプ隊 / 公益財団法人 日本モンキーセンター / リサイクル楽団 / トヨタ白川郷自然学校 / 名古屋水族館



◆2017年～2018年エコ博、エコフェスター覧

年	期間	名称	開催店
2017年	8月5・6日	ラスパ御嵩エコフェスタ	ラスパ御嵩(岐阜県)
	9月9・10日	リバーサイド千秋エコ博	リバーサイド千秋(新潟県)
	9月30・10月1日	アピタ松任エコ博	アピタ松任店(石川県)
	10月14・15日	アピタ長津田エコ博	アピタ長津田店(神奈川県)
	10月14・15日	アピタ静岡エコ博	アピタ静岡店(静岡県)
	11月3・4日	ラザウォークエコ博	ラザウォーク甲斐双葉(山梨県)
	11月18・19日	アピタ福井大和田エコ博	アピタ福井大和田店(福井県)
2018年	1月20・21日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	ヒルズウォーク徳重(愛知県)
	1月27日・28日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	アピタ松阪三雲店(三重県)
	2月3・4日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	リーフウォーク稲沢(愛知県)
	2月10・11日	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	ラスパ御嵩(岐阜県)
	5月5・6日	アピタ富山東エコ博	アピタ富山東店(富山県)
	6月2・3日	リーフエコ博	リーフウォーク稲沢(愛知県)
	6月30・7月1日	アクアエコ博	アクアウォーク大垣(岐阜県)



エコ博 テーマ:COOL CHOICE

普段の暮らしの中で行っている選択に【CO<sub>2</sub>を抑えるモノ・コトであるか?】という視点を加え、未来のために【賢い選択=COOL CHOICE】をすることで、普段の生活をエコライフにするお手伝いをします。



ラスパ御嵩エコフェスタ(2017年8月5・6日)



岐阜県環境生活部環境管理課 省エネ比較



全国盲導犬施設連合会 盲導犬の訓練方法の紹介

リバーサイド千秋エコ博(2017年9月9・10日)



長岡市環境部・新潟県地球温暖化防止活動推進センター/自転車発電



朝日酒造 長岡の自然であそぼう ススキでバツをつくってみよう

アピタ松任エコ博(2017年9月30日・10月1日)



トヨタ白川郷自然学校 エコでおしゃれなコースターづくり



白山市 エコたわしを作ろう

アピタ長津田エコ博(2017年10月14・15日)



協栄産業 ペットボトルリサイクルぬりえ教室



横浜市 「楽描きマイバッグ」をつくろう!

アピタ静岡エコ博(2017年10月14・15日)



静岡リサイクル事業協同組合 プルタブ プレスレットづくり



静岡一般廃棄物処理業協同組合 サンドプラスタ

ラザウォークエコ博(2017年11月3・4日)



山梨県地球温暖化防止活動推進センター 地球のストラップ作り



富士サファリパーク ふれあい動物園

アピタ福井大和田エコ博(2017年11月18・19日)



福井テレビ 牛乳パックでオリジナルハガキを作ろう!



名古屋港水族館 出張水族館・ウミガメとのふれあい

アピタ富山東エコ博(2018年5月5・6日)



北陸電力 オリジナルエコバッグづくり



富山市カーボンオフセット運営協議会 とやまの森づくり応援

# 食育活動



心身ともに健全な社会に向けて、国を挙げて取り組まれている食育。ユニーでは、皆様の「健康なからだ」と「豊かなこころ」づくりを応援します。子ども達の「食」への興味・関心を育て、親子や親しい人同士で食の楽しさを発見・実感するきっかけになるよう、「おいしく」「たのしく」をモットーに、さまざまな食育活動に取り組んでいます。

## ユニーの食育

心身ともに健全な社会のため、子どもから大人まで食に関心を持ち、正しい知識を身につけ、おいしく楽しい食生活を送っていただけるよう食育活動に取り組めます。

### ◆食育理念

私たちは、食と食に関わる情報の提供を通して、食の大切さや楽しさを地域のお客様と共有化します。

### ◆食育方針

- 1 食材本来の味や特性を活かした調理や料理ができる技を培います。
- 2 食材のルーツをたどることにより食べ物を大切にする心を養います。
- 3 食材の持つ栄養素とその働きを理解することにより体を養います。
- 4 新鮮かつおいしい食材を提供することにより味覚を養います。
- 5 合理的な手法を用いた商品選択により安全・安心な食材提供に努めます。

## 日本高血圧学会減塩委員会主催「JSH減塩食品アワード金賞」を4年連続受賞

2014年に「スタイルワンヘルシー」シリーズを発売して以来、減塩タイプの商品開発に取り組んでいます。2018年には4年連続して「JSH減塩食品アワード金賞」を受賞、「減塩キムチ」が選ばれました。

また、日本高血圧学会減塩委員会の減塩商品リスト(食品含有量の少ない食品紹介)には当社の商品55アイテムが掲載されています。

今後も更なる商品開発に取り組み、同委員会が制定した「減塩の日(毎月17日)」を盛り上げ、お客様の健康に貢献できる商品を提案してまいります。



白菜キムチ



### ◆5ADAY(ファイブ・ア・デイ)食育体験ツアー

「1日5皿分(350g)以上の野菜と200g以上の果物を食べましょう」をスローガンとした活動を推進しています。



### ◆365キッチン

お客様の「食」に関する悩みを解消するために、おいしくて、手軽で、健康に良いメニューを、毎日提案しています。素材について、調理について、栄養について、食のことなら何でもスタッフにご相談ください。



### ◆収穫体験(生産者との取り組み)

お客様が農産物の栽培から収穫までを生産者と触れ合いながら体験することにより、売り場の野菜・果物を身近に感じていただくことも大切な食育と考えています。



### ◆あいち食育サポート企業団の活動

私たち愛知発祥の食品関連企業14社は、食を通じて、みなさまの「健康なからだ」と「豊かなこころ」づくりを応援します。「おいしく」「たのしく」をモットーに、様々な食育支援活動に取り組んで参ります。

2007年	「あいち食育サポート企業団」の結成
2008年	「地域に根ざした食育コンクール」で最優秀賞
2011年	愛知県図書館に食育絵本110冊を寄贈
2013年	「野菜を食べよう!レシピコンテスト」を開催
2017年	「親子で減塩料理教室」を開催



### ◆プライムワンフレッシュ「悠健豚」食育イベント

アピタ、ピアゴのオリジナルポーク「悠健豚」を使って食育イベントを実施しています。イベントにはバイヤーも参加し、イベントを通してユニーのプライベートブランド、オリジナル商品へのこだわり、安全安心への取り組みなどをご紹介しています。





# 働きやすい職場環境づくり

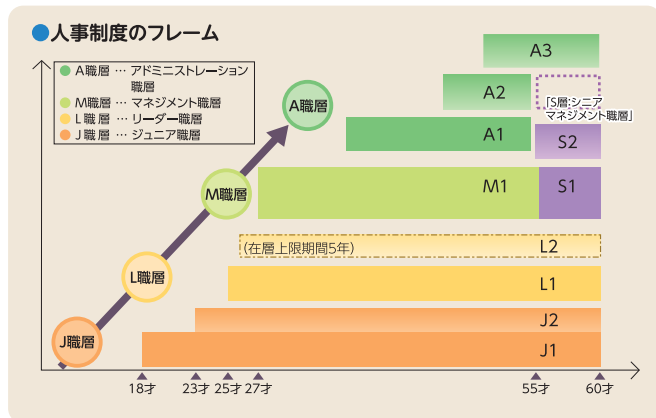


ユニーでは従業員一人ひとりが、自ら学び、考え、動く「考動」する人材になることを目指しています。流通小売業に従事するビジネス人としてのスキルアップのみならず、広く社会に貢献できる人間力を育成するのが、ユニーの人材に対する考え方です。安定した雇用環境や実力重視の人材登用、充実した福利厚生など、従業員一人ひとりを強力にバックアップしています。

## キャリアアップ制度

ユニーを支えているのは「人」。その能力を最大限に発揮させていくことが、会社の成長につながっています。そこでユニーでは、配属においても本人の希望を考慮しています。毎年、全社員を対象に自己申告を実施し、今後のキャリアについて本人の希望を確認しています。配属希望の部署やそのために取り組んでいる自己啓発などを調査することで、その後の配属に活かしています。

営業店舗で店長を目指して仕事している方、商品部でバイヤーとして世界中に商品の買い付けに行く方、スタッフ部署で営業の企画を立案している方など、各人の能力・適性により活躍できるフィールドはたくさん用意されています。



## 充実の教育体系

キャリアに応じて必要な教育研修を実施。自己啓発を勧め、従業員の成長をサポートしています。

### ● 研修

新入社員から管理職まで各職層別に研修を実施。



### ● 従業員キャリアアップ

従業員のキャリアアップを手伝うため、150講座におよぶ通信教育講座を案内。受講修了者には、会社が半額相当を支給するので、とてもお得に学ぶことができます。



### ● サービス介助士資格

高齢者の方や障がいを持つ方にも安心して買い物に来ていただけるよう、店舗の店長や副店長などの管理職を中心にサービス介助士資格の取得を勧めています。現在までに、約1,900名(2017年まで)以上が取得しています。



### ● 技能研修

特別勤務者(パートタイム)の方には、生鮮部門担当者を中心に商品加工技術のある方に技能給を、福祉用具専門相談員やグリーンアドバイザー、自転車安全整備士、ホームヘルパーなどの資格を取得し、仕事に活かしている方にライセンス給を支給しています。



## ワークライフバランスへの取り組み

### ● 半日年休制度

付与された年次有給休暇のうち6日間を半日に分割して年間12回取得可能。年次有給休暇をより取得しやすくするため、2006年より導入しました。

### ● 育児休暇

本人、または配偶者の出産日から2年以内に有給の休暇を5日取得可能。2016年より導入しました。

### ● 65歳までの再雇用制度

定年を迎えた従業員がその後の生活の安定を図るため、再雇用されることを希望した場合、65歳までをキャリア社員として再雇用し、長年培った知識・経験・専門能力・技能を活用できるようにしています。

### ● 自社商品割引購買制度

自社商品を割引で購入可能。同居家族も同条件で利用できる「家族証」を発行しています。

### ● アニバーサリー休暇

本人および家族の誕生日を対象の記念日として、記念日を含む月度にアニバーサリー休暇として、1年間に2日の年次有給休暇を取得することができる制度です。ここでいう家族とは、配偶者、父母、子、配偶者の父母、孫を対象とします。

### 次世代法に基づく基準適合一般事業主認定企業

仕事と子育ての両立を図るために必要な、雇用環境の整備などを進めるための「一般事業主行動計画」を策定し、基準に適合した一般事業主として2008年に認定されました。



### 愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録

労働者が男女ともに仕事と家庭を両立させながら働くことができる職場環境づくりに取り組んでいる企業として認められ、2003年に愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録しました。



## 採用について

正社員採用においては、新卒採用のみに拘らず、中途採用(非正社員からの雇用転換含む)も実施し、お客様ニーズに対応するための多様な人財が確保できるように努めています。また、入社後少しくとも長期間勤務していただけるように、OJTを基本とした研修制度や福利厚生・休日休暇制度を充実させており、平均勤続年数は20年を超えます。

## ダイバーシティ

### ダイバーシティの取り組み

ダイバーシティとは、性別や年齢、国籍や人種、障がいの有無、宗教や価値観など、個々の違いを受け入れ、認め合い、活かしていくことです。個性を活かし、一人ひとりが最大の能力を発揮できる風土をつくることで、充実した働き方ができます。

#### ◆従業員一人ひとりが活躍できる職場を目指して

現在日本では、全国民が活躍できる社会を目指して「働き方改革」を打ち出し、政府や各企業が取り組みを進めています。しかしながら子育てや介護への支援がまだまだ整っていない状態は続いており、仕事と生活を両立することが難しく、ライフスタイルの選択がしづらい状況にあります。小売業では女性従業員比率が高く、お買い物にいらっしゃるお客様にも女性が多いことから、女性の能力発揮への期待も大きく、今後、仕事と家庭の両立支援がより強く求められる職業であると言えます。

### ユニーで働く従業員の現状

現在ユニーでは192店舗で2万3067名が働いています（アルバイト・出向者を除く）。そのうち、女性は1万7903名で全体の77.6%と、多くを占めています。社員だけで見ると、女性は全体の19.8%にあたる903名。そのうち女性の管理職の割合は管理職全体の6.4%で、店長2名、部長職4名、副店長30名、チーフバイヤー、チーフマネジャー12名、その他管理職115名を合わせて163名が女性管理職として働いています。（2018年6月時点）

ユニーでは男女ともに管理職として活躍できる労働環境の整備に向け、2019年までに女性管理職の割合を10%以上にすることを目標として、行動計画を推進しています。

#### ◆働き方改革を推進

育児・介護など家庭生活と仕事を両立するためには、長時間労働の是正や休日取得促進など働き方改革が必要です。ユニーでは、人的生産性を向上させるレイバースケジュールングプログラム（LSP※）により作業の無駄を省く改善活動や、計画的年休制度による年休取得促進など、運営面と制度面の両面から働き方の改善に努めています。

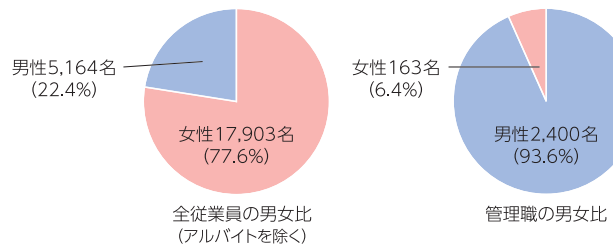
また、子育てや介護をしている従業員の支援となるよう、制度改正にも取り組んでおり、結婚、出産、育児、介護、配偶者の転勤などの理由でやむを得ず退職をした正社員について、退職後5年以内に正社員として受け入れる「再雇用制度」や、様々な事情により転居を伴う転勤が困難な場合、自宅から通勤できる範囲に勤務先を限定できる「勤務地限定制度」などを導入しています。制度を整えることによって、パートから正社員への転換も促進し、より一層従業員が活躍できる場を広げられるよう、取り組みを続けていきます。

※LSP：達成したい目標を決め、それを実現するために必要な作業・手順、時間等を設定し、誰がいつどんな作業をどのくらいの時間で行うか計画し管理すること。

#### ◆出産休暇・育児休業・介護休業取得者

		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
		男	女	男	女	男	女	男	女
出産休暇	正社員	0	28	0	35	0	18	0	24
	パートナー社員・キャリア社員・パートタイマー	0	44	0	57	0	27	0	39
育児休業	正社員	0	20	0	39	0	39	0	37
	パートナー社員・キャリア社員・パートタイマー	0	28	0	38	0	47	0	60
介護休業	正社員	0	1	0	3	3	2	4	1
	パートナー社員・キャリア社員・パートタイマー	1	22	0	23	1	25	0	22

#### ◆従業員概要



#### Voice

#### ダイバーシティ推進に向けて

生産性人口が減少する中、ダイバーシティを推進するということは、企業にとっても働く従業員にとっても重要なことと考えています。従業員一人ひとりの事情が異なる中、仕事と生活の両方を充実したものにするため、そして働きたい人が働ける職場にするために、制度の整備、職場環境の改善に努めていきたいと考えています。



業務本部 総務人事部長  
松下 絵美

### 輝く女性の気持ち研究所「デージーラボ」

「毎日は、もっと、ときめいていいはず」そんな想いを胸に、楽しくてシアワセな毎日のお手伝いができるようアイテム・企画をバラエティ豊かに提案するもので、ユニーで働く女性従業員が部門の垣根を越えて結成した研究所です。SNSやリーフレットを活用したくらしに役立つ情報のお届けをはじめ、お客様参加型イベントの開催やライフスタイルのご提案、こだわりを詰め込んだ商品開発をおこなっています。2014年9月に発足した「デージーラボ」は、寝具・インテリア・キッチン用品、バレンタイン向けチョコレートなど住居関連品を中心に開発し、ご好評をいただきました。今後は食品・衣料品に領域を広げて進めてまいります。今後も女性のお客様に満足していただける商品・サービスの開発に取り組んでまいります。





## 女性のキャリア

### ◆ユニー×ウーマン 女性のキャリアの取り組み

ユニーでは子育て中の従業員のために「育児短時間勤務」という制度があります。この制度を利用しているワーキングマザーに、仕事や子育てについてお話を聞きました。

#### 〈育児休業〉

社員、パートが申し出ることにより、子どもが1歳に達するまでの間、男性でも女性でも育児休業をすることができます。さらに子どもの1歳誕生日前日時点で保育所に入所できない場合は1歳6ヶ月経過直後の4月末日まで、1歳6ヶ月時点で入所できない場合は2歳経過直後の4月末日まで育児休業を延長することができます。

また、父母がともに育児休業を取得する場合、1歳2ヶ月までの間に、1年間の育児休業を取得できます。

#### 〈育児短時間勤務〉

子どもが小学校3年生の終期に達するまでの期間、正社員は最大2時間半、パートは最大2時間、1日の所定労働時間を短縮した勤務をすることができます。2017年度では、正社員132名、パート52名が利用しました。

#### 〈子育て関連休暇〉

子どもが生まれた日から小学校入学するまでの間に5日間、有給の「育児休暇」を男性、女性ともに取得できます。

また、子どもが小学校入学の始期に達するまでの期間は「看護休暇」を1年間に5日取得できます。看護休暇は半日単位(パートは1時間単位)での取得が可能です。

#### Voice



### 仕事とプライベートの両立について

働きながらいろいろな場面において選択をする機会があります。中でも結婚や出産は、女性にとって大きな決断を必要とします。私は結婚して子育てをしながら働くことを選択しました。3人出産し、いずれも1年の育児休業を取り、その後保育園に通わせながら育児短時間勤務制度を利用して働くことができています。家族の協力と職場の理解があるからこそ、このような選択ができたと思います。どうしても「仕事と家庭の両立」と言われますが、仕事と家庭の軸が2つあるからこそ、気持ちを切り替えながら取り組むことができています。これからも仕事をしながらの子育てになりますが、今の自分にできること、限られた時間の中で優先すべきことを常に考えながら効率よく仕事をして、プライベートも充実させて過ごしたいと思っています。



アピタ鳴海店  
ハウスウェア&  
エレクトリック担当  
山田 麻里

#### Voice



### メンバーの理解がある職場環境

子どもを預けて働く事に当初は迷いもありました。復職した今は、家庭の外にも自分の居場所がある事が嬉しいです。仕事と育児の両立は、夫と一緒に働く上司、メンバーの理解・協力があってこそだと痛感しています。子どもが1歳になる復職予定の時期、保育園が満員で育児休業を3ヶ月延長しました。また、入園できて最初の半年は子どもが体調を崩すことが多く、急に仕事の休みをもらおう等、迷惑をかける事が多々ありました。しかし、その度に「仕事の事は大丈夫。子どもを優先して」と皆が声をかけてくれ、安心して働くことができています。職場に先輩ママがたくさんいる事も心強いです。今では、子どもが理由での急な休みも減り、毎日「ママ今日おしごと? いってらっしゃい!」と元気な笑顔で送りだしてくれ、忙しい日々ですが、家庭も仕事も新たな視点で見ることができるようになりました。自分自身、成長を実感しています。



山静営業部  
採用担当 マネジャー  
吉野 陽菜

## 障がい者雇用

ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいのある方も活き活きと働ける職場環境をつくるため、障がい者雇用に取り組んでいます。毎年、特別支援学校や施設から職場体験の受け入れも実施しています。ユニーは2016年に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(いわゆる「障害者差別解消法」)を鑑み、さらに対応を進めていきます。

\*2018年度の障がい者雇用率については  
厚生労働省へ提出した値(平成30年6月1日現在)

#### ◆障がい者雇用率

2015年	2.29%
2016年	2.27%
2017年	2.52%
2018年	2.48%

## 多様な人々

外国人の雇用や、LGBTへの対応について、「〜らしい」という固定概念から解放し、一人ひとりが違うことを当たり前のこととして受け入れることが大切だと考えています。自分では気がつかないうちに人を傷つけてしまった、ということにならないよう、それぞれの従業員が尊重し合える職場作りに取り組めます。

## ライフ&ファミリー介護

### ◆ユニーの介護関連制度

2016年には介護休業日数を拡大、取得回数の制限も撤廃し、より利用しやすい制度を目指して制度を改定しました。

#### 〈介護休業〉

要介護状態(負傷、疾病又は身体上若しくは精神上の障害により2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態)にある対象家族を介護する従業員は、1人につき通算365日まで介護休業を取得できます。通算365日以内であれば、複数回に分けて取得が可能ですので、必要なときに、必要な日数を取得することができます。

#### ◆介護休業を取得するには・・・

介護休業を取得する日から2週間前までに、申請に関するチェックリストと申請書を人事へ提出します。介護休業期間中、賃金は支給されませんが、雇用保険に加入し加入年数などの条件を満たした方は、介護休業を開始した日から93日まで介護休業給付金が支給されます。給付対象の方へは、人事より申請のご案内をお送りし、手続きをしています。

#### 〈介護短時間勤務〉

介護休業と同様、要介護状態の対象家族を介護する従業員は、介護休業と合わせて通算365日まで介護短時間勤務をすることができます。介護短時間勤務では、1日の労働時間を、社員は2時間半、長時間パートは2時間短縮することができます。

#### 〈介護休暇〉

要介護状態の対象家族を介護する従業員は、1年間に5日(対象家族が2人以上の場合10日)介護休暇を取得できます。介護休暇は半日単位(パートは1時間単位)での取得が可能ですので、病院への送り迎えなど家族のサポートをしたあとで仕事をすることもできます。

#### Voice



### 介護と仕事の両立に向けて

介護はいつまで続くかわからず、いつどのような変化があるかわからないことから、先が見通せない不安が生まれるものと考えています。また、定型どおりの働き方が困難になる方もいらっしゃいます。介護をしながらでも仕事をしっかりと続けるためには、柔軟性のある制度が必要になると思います。自分にあった働き方をするために制度を利用してもらえるよう、制度の周知や利用しやすい風土作りに努めてまいります。



業務本部 総務人事部  
マネジャー 近藤 真由美

# ユニーグループ総合福祉センター「ユアアイコン」

ユニーとグループ会社各社の従業員とその家族の生涯福祉の実現のために、会社と労働組合の共同事業として設立されました。主な福利厚生事業として、お祝い金やお見舞金の慶弔活動、社内セーフティネットとしての共済保険制度の提供、各種セミナーや健康支援となるイベントの開催、レクリエーション活動などへの補助金の給付、そして、宿泊・レジャー関連施設の斡旋など幅広い活動を行っています。

## 従業員同士の交流や絆づくり、心身のリフレッシュのために

### 行楽・レクリエーションへの補助

店舗・事業所ごとに、日帰りのバス旅行の行楽を行うなど、従業員の心と体のリフレッシュや健康増進、従業員同士のコミュニケーションや親睦を深めることを目的としたレクリエーション活動を行っています。



また、従業員と家族も一緒に参加できる行事として、会社と共同開催の中日ドラゴンズ応援会や、労働組合と共同開催のディズニーなどテーマパークへのご招待イベントを開催しています。2017年度は1,400名を超える参加があり、大いに盛り上がりました。

### サークル活動への補助

共通の趣味を持つ仲間と同好会をつくり活動することで、活発な職場づくりに活かしています。現在も、スポーツ系ではボウリング・ゴルフ・ハイキングなど、文科系では書道・手芸・将棋など、約40のサークルが多岐にわたって活動しています。

### 宿泊施設・レジャー施設の斡旋

従業員が充実した余暇を過ごせるよう、リゾートホテルやアミューズメントパーク、冠婚葬祭の式場などと契約し、従業員とその家族が割安な法人料金で利用できるようになっています。利用については専用ガイドブックを発行し、従業員全員に配布しています。毎年、宿泊施設、日帰りのアミューズメント施設合わせてのべ6,000名を超える従業員とその家族の利用があります。



## 従業員の健康な身体づくりのために

### 健康ウォーキングの開催

家族やOB・OGも参加できるウォーキング大会を4つの地域で開催しています。仕事をはなれ、自然の中やテーマパークを歩くことで、運動の楽しさを実感するとともに、従業員同士の交流を図る場にもなっています。



2017年は大河ドラマゆかりの地「龍潭寺」で行うなど、開催場所にも話題性を持たせ、楽しみながら歩けるよう、イベント要素も兼ねたコースになっており、毎年500名を超える参加があります。

(ユニーグループ健康保険組合と共同開催)

### 健康セミナーの開催

年2回、夫婦でも参加できる1泊2日の体験型セミナーを開催し、毎回30名前後の参加があります。

食習慣や運動習慣を見直すきっかけづくりを目的とし、管理衛生士などの資格を持った社外講師による食の講義をはじめ、ストレッチやウォーキングも取り入れた講義を行っています。(ユニーグループ健康保険組合と共同開催)



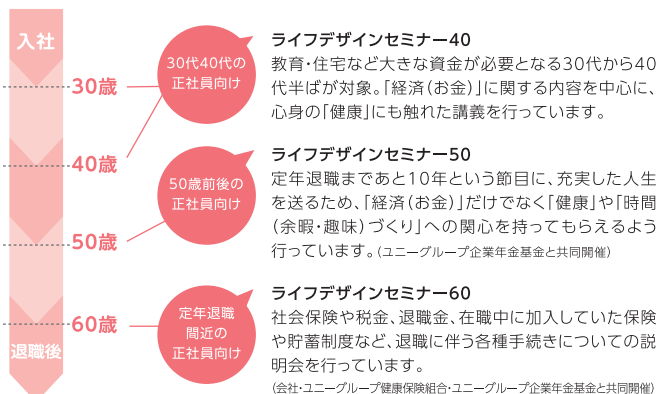
### 人間ドックへの補助

会社の定期健康診断だけでは発見しづらい、がんなど重篤な病気の早期発見・早期治療を目的とした人間ドックが手軽に受診できるよう、40歳・45歳・50歳・55歳の正社員を対象に、2017年度から補助を行っています。初年度は、約230名が補助を利用し、人間ドックを受診しています。

## 従業員が安心して働ける環境づくりのために

### ライフデザインセミナーの開催

正社員を対象に、在職中はもちろん、定年退職後も充実した生き方・暮らし方ができるよう、先を見据えた人生設計を支援するためのセミナーを、年10回程度開催しています。社外から専門講師を招いて、専門性の高い内容を提供しています。



### 保険制度・貯蓄制度の斡旋

従業員だけでなく家族までを対象にし、5,000名を超える加入者のスケールメリットを活かした団体保険を提供しています。それぞれの雇用形態のニーズや家庭の状況に合わせた複数のコースを設定し、選択できるようになっています。また、財形貯蓄や拠出型企業年金保険など、有利な貯蓄制度も提供しています。



## 従業員へのタイムリーな情報発信のために

### 情報誌やホームページでの情報提供

イベントやセミナーの募集や制度の情報提供のため、ユニーグループ健康保険組合、ユニーグループ企業年金基金と合同で、従業員向け情報誌を隔月発行し、全員に配布しています。また、ホームページや掲示板でも随時情報発信しています。





# 第三者意見

## 未来の子ども達のためにエコ・ファースト企業としての今後の取り組みに期待する

環境レポート2018の表紙の写真からは、多くの子ども達の「ここに私がいる!」「これ僕だよ!」の元気な声が聞こえてくるようです。表紙ページが、取り組み報告ページとして無駄なく使われていて、環境学習を受けた全ての子ども達の顔を登場させるスタイルはユニーさんの温かさを感じさせてくれます。

レポート3ページの見出し「ユニーは100年後の子ども達のためにSDGsに取り組んでいます。」は、横軸に「ユニーの重点テーマ」、「ユニーの取り組み」、「関連するSDGs」のアイコンがあり、縦軸を「環境」、「社会貢献」、「従業員」として、目次に戻らなくても、順番に読まなくても、縦軸に関連するいいことプラスの取り組みを知りたいれば簡単にアクセスできるように作られ分かりやすく親切的な構成です。

同ページに掲載されているG7での食品リサイクルの取り組みに対する講演は、国際的にも高い評価があったことと思います。繊維のリサイクルの取り組みも非常に興味をもって拝見しました。繊維関連事業者が多い愛知県の地域特性を生かした、環境、福祉、若者を結んだ地域循環の環の取り組みは、持続可能な社会への貢献として、食品リサイクルループと同様に今後とも継続してほしい取り組みです。

そのあとに続くページは、社長インタビューのページですが、「地域に信頼される条件として、商品やサービス」を第一に挙げられ次に「事業活動を通じて地域社会や地球環境を正しく維持・継続していくことも永続的な信頼においては非常に大切です」と話しをされていて、ページの流れと相まってユニーさんへの信頼度があがる構成となっています。

バイオマスプラスチック容器、次世代型冷媒(CO<sub>2</sub>)の冷蔵ケースの導入など様々な次世代へ向けた取り組みは働く人にとって誇りにできる事業展開だと思えます。

ユニーさんの財産である環境方針とこれまでの取り組みを後退させることなく、未来の子ども達のためにエコ・ファースト企業としての今後の取り組みに期待しています。



主婦連合会 会長・環境部長  
コンシューマーズかながわ代表  
適格消費者団体消費者支援かながわ理事

### 有田 芳子

1980年代から複数の非営利組織で環境保全、食の安全などの推進に関わる。食育分野では食品リサイクルを中心に情報発信を行っている。3R、食育、食品安全などの審議会等に参加。

## 「社会と一緒に貢献している」という共感をステークホルダーに分かり易く伝えて欲しい



中部大学 工学部教授 入学センター長  
名古屋大学名誉教授  
理学博士

### 佐野 充

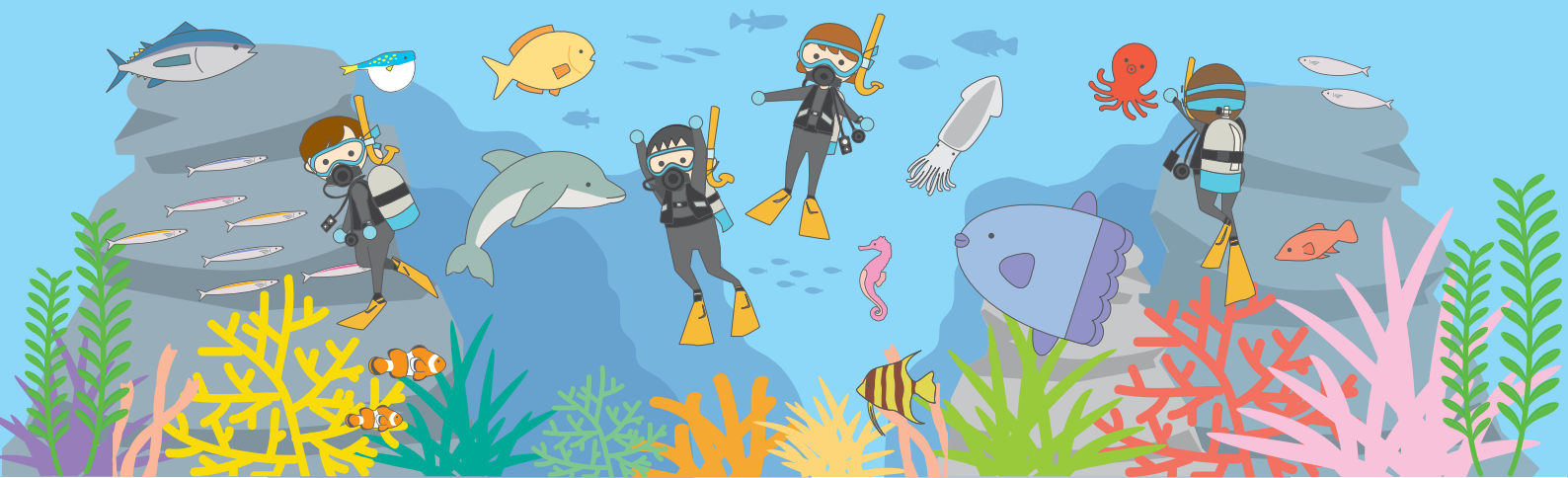
「働く」からこそ経験できる充実感を得て幸福な人生を築くには、遺伝的に自己肯定感が低い日本人の特性を踏まえて、組織はどのような仕組みを持つべきか、について研究を進めている。

社員の働く姿は最高の商品で、すばらしい会社があるわけではなく、すばらしい社員が働く会社があるだけ、と言われる。働く人の思いを伝えられるのが商品とサービスであり、働く人の活動を環境面で伝えられるのが環境レポートです。

環境レポート2018では、ユニーが取り組んでいる充実した環境活動を、環境、社会、働く人の3つの「イイこと」の項目毎にバランス良く説明しており、写真やイラスト、グラフを用いて分かり易く表現されています。特に、「ユニーのSDGsの取り組み」で、取り組み項目と関連するSDGs項目との対応が一覧表に上手にまとめられており、また、バリューチェーンにおけるSDGsマッピングも分かり易く説明されています。さらに、「エコ・ファーストの約束」も10年目を迎え、これまでの活動と進捗状況の総括を「エコ・ファースト アーカイブ」で分かり易く伝えようとしています。

消費者や社員などのステークホルダーを本気にさせるには、何よりも「社会と一緒に貢献している」という共感が必要で、そのためにも、お客様や社会に活動内容をどのように分かり易く伝えるか、が重要です。多くのお客様に活動を知ってもらうためにも、店舗で配布されるダイジェスト版の更なる活用をのぞみます。顔写真入りの「Voice」は、売り場やバックヤードの社員の「思い」を有効に伝えており、さらに充実されることを期待します。レポートの表紙には、「エコロお店探検隊」の楽しさいっぱいの写真が掲載されており、ユニーの思い「未来の子ども達に美しい自然を残したい」を上手に表現していますが、表紙裏に簡単な説明を付けると共に、「エコロお店探検隊」を店舗で詳しく知ってもらう活動もさらに進めて欲しいと感じました。一方、パート、アルバイトも含めたスタッフの方々に対してもユニーの充実した環境活動を伝える一層の努力を期待します。





「未来の子ども達に美しい自然を残したい」  
ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。



ユニー株式会社  
愛知県名古屋市中村区平池町四丁目60番地の12  
<http://www.uny.co.jp>



未来のために、いま選ぼう。



この報告書の印刷・製本工程で、  
使用した電力量(400kWh)はグリーン  
電力でまかなわれています。

この印刷物に使用している用紙は、  
森を元気にするための同伐と同伐  
材の有効活用により立派なものです。

2018年10月発行②



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。